

# 平成29年度 第1回 温海地域振興懇談会

## 次 第

日 時 平成29年7月21日(金)

午後1時30分～

場 所 温海庁舎 6階大会議室

### [委嘱状交付]

#### 1. 開 会

#### 2. あいさつ

#### 3. 委員紹介

#### 4. 会長・副会長の選任 資料No. 1

#### 5. 報 告

(1) 温海地域振興懇談会、地域振興計画について 資料No. 2、資料No. 3、資料No. 4

#### 6. 協 議

(1) 温海地域振興計画の実施状況について 資料No. 5

(2) 平成29年度予算及び主要事業の概要について 資料No. 6

(3) 日沿道新潟県境区間 I・C周辺土地利用基本計画について

(4) その他

#### 7. 閉 会

## 温海地域振興懇談会委員名簿

任期:平成29年6月1日～平成31年3月31日

所属団体名等	役職名等	氏名	備考
温海地域自治会長会	会 長	忠 鉢 孝 喜	
温海町森林組合	代 表 理 事 組 合 長	本 間 文 夫	
庄内たがわ農業協同組合	営 農 生 活 担 当 理 事	菅 原 久 継	
山形県漁業協同組合	理 事	佐 藤 清 八 郎	
出羽商工会温海支部	代 表 理 事	佐 藤 満 也	
あつみ観光協会	会 長	若 松 邦 彦	
温海地区民生児童委員協議会	副 会 長	本 間 岩	
温海体育協会	会 長	佐 々 木 眞 人	
鶴岡市老人クラブ連合会温海支部	副 支 部 長	遠 藤 正 司	
温海地域婦人会	会 長	佐 藤 美 代 子	
温海温泉旅館組合青年部	部 長	齋 藤 武 大	
鶴岡市消防団温海方面隊	方 面 隊 長	高 橋 清	
鼠ヶ関地域協議会「蓬萊塾」	会 員	五 十 嵐 伊 都 夫	
福栄地域協議会「福の里」	事 務 局 長	五 十 嵐 正 直	
あつみ湯けむり女子会	会 計	本 間 加 知 子	

### 【市関係者】

所 属	職 名	氏 名	備 考
温海庁舎	支 所 長	白 幡 俊	
温海庁舎 総務企画課	課 長	五 十 嵐 浩 一	
温海庁舎 市民福祉課	課 長	佐 藤 美 香	
温海庁舎 産業建設課	課 長	百 瀬 政 行	
温海庁舎 総務企画課	総務地域振興主査	庄 司 益 美	
温海庁舎 総務企画課	総務地域振興専門員	本 間 由 縁	
企画部 地域振興課	地 域 振 興 専 門 員	本 間 育 子	

## 鶴岡市地域振興懇談会設置要綱

平成 27 年 4 月 1 日  
訓令第 21 号

(設置)

## 第 1 条

鶴岡市における地域振興の推進にあたり、幅広い視点から意見交換・議論を行い、今後の取組の方向性やより良い振興策・活性化策の検討に資するため、鶴岡市地域振興懇談会（以下「懇談会」という。）として、次の各号に掲げる区域を対象とする当該各号に定める懇談会を置く。

- (1) 藤島地域の区域 藤島地域振興懇談会
- (2) 羽黒地域の区域 羽黒地域振興懇談会
- (3) 櫛引地域の区域 櫛引地域振興懇談会
- (4) 朝日地域の区域 朝日地域振興懇談会
- (5) 温海地域の区域 温海地域振興懇談会

(所掌事務)

第 2 条 懇談会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 地域振興計画に関する事項
- (2) 地域課題及び地域活性化全般に関する事項
- (3) その他市長が必要と認める事項

(組織)

第 3 条 懇談会は、各々委員 15 人以内で組織する。

2 委員は、各区域に住所を有する者又は鶴岡市に住所を有し、各区域に存する事務所等に勤務している者で、次の各号に掲げるもののうちから、市長が委嘱する。

- (1) 公共的団体等を代表する者
- (2) 有識者

(任期及び失職)

第 4 条 委員の任期は、委嘱の日から同日の属する年度の翌年度の 3 月 31 日までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員の再任は、妨げないものとする。

(会長及び副会長)

第5条 懇談会に会長及び副会長1人を置き、委員の互選によって定める。

2 会長は、会務を総理し、懇談会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 懇談会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集する。

2 会議の議長は、会長が務める。

3 会議は、公開とする。ただし、議長が必要と認めるときは、会議に諮った上公開しないことができる。

(庶務)

第7条 懇談会の庶務は、各区域を所管する地域庁舎の担当部署において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、懇談会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

(最初に委嘱される委員の任期の特例)

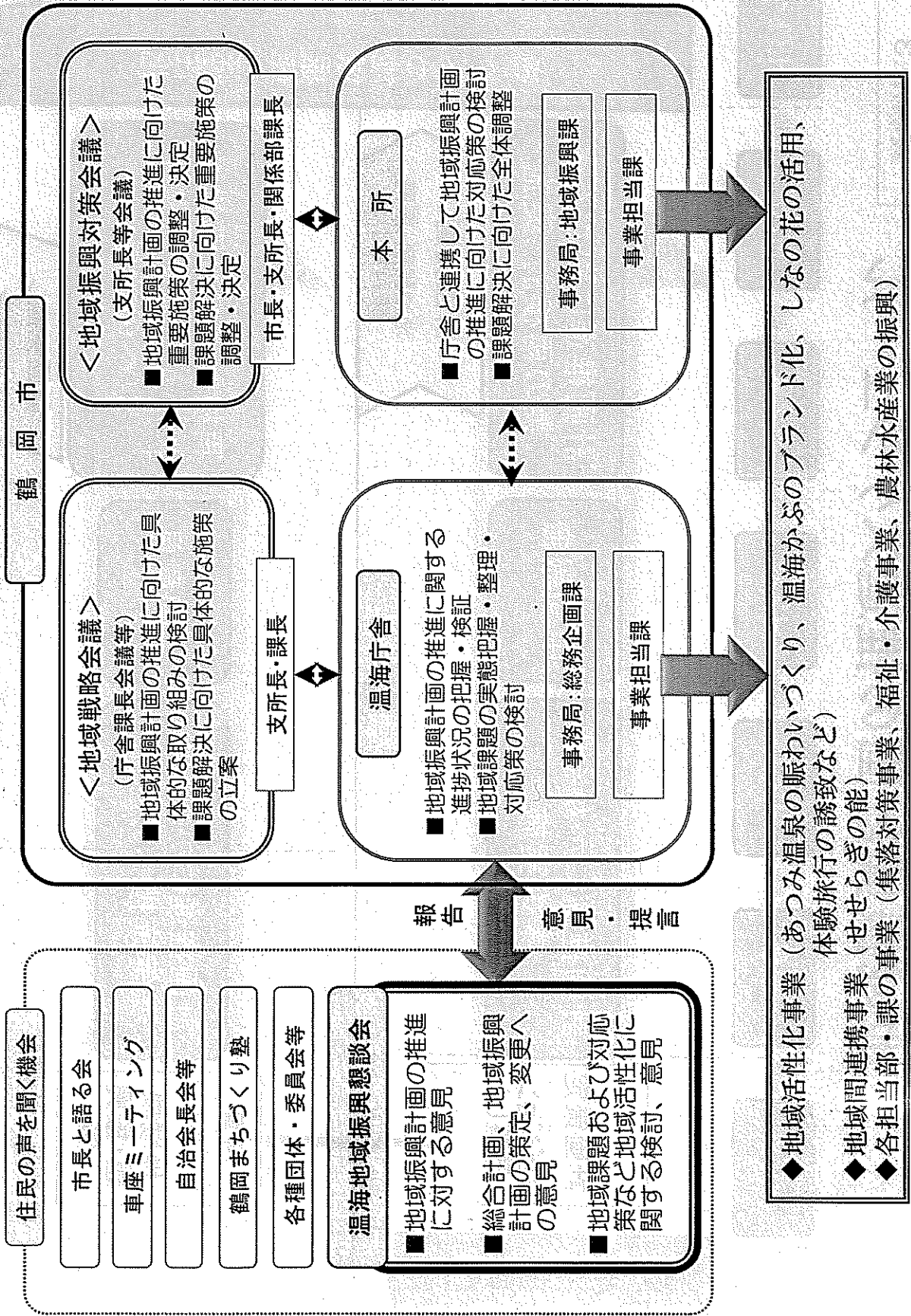
2 この要綱の施行後最初に委嘱される委員の任期は、第4条第1項本文の規定にかかわらず、平成29年3月31日までとする。

附 則

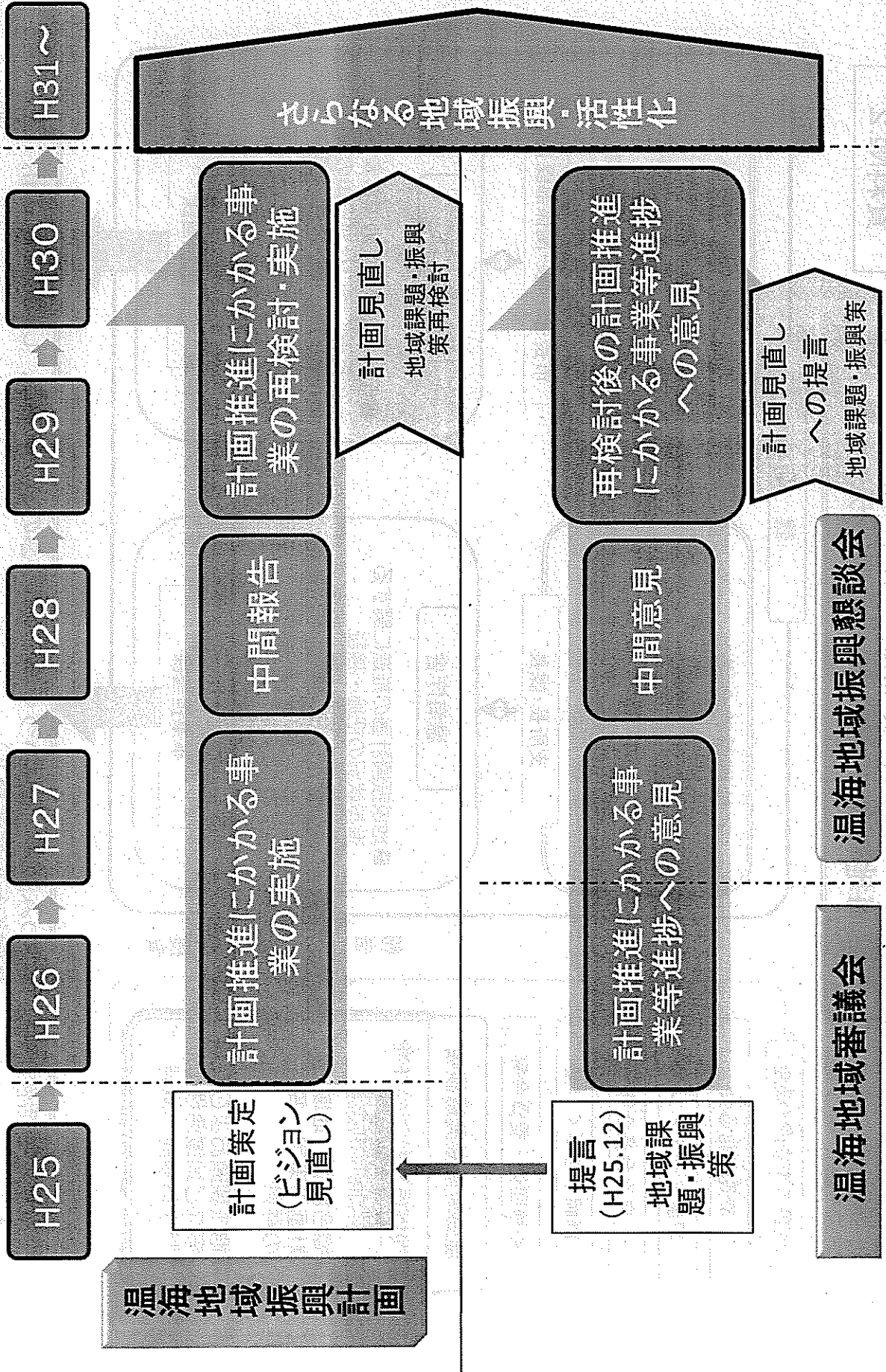
この要綱は、平成29年4月1日から施行する。



温泉地域振興計画推進フローチャート



# 地域振興計画の推進スケジュール



# 温海地域振興計画



平成 26 年 3 月  
鶴岡市温海庁舎

# 目 次

1. 計画策定の趣旨	1
2. 温海地域の特性・概要	2
3. 温海地域のこれから目指す方向性	3
4. 施策の基本方針	4
5. 具体的な展開方策	5
<b>【参考資料】</b>	
○統計資料	11
○人口・世帯数の推移	12
○観光客数の推移	13
○主要農作物作付状況の推移	14
○漁獲量・漁業生産額の推移	14



## 1. 計画策定の趣旨

鶴岡市は平成17年10月の合併後、各地域で築かれてきた地域特性や地域固有の資源を生かしたまちづくりを進めるため、特性ある地域発展のための中長期プロジェクトづくりに取り組みました。

各地域庁舎では、自然、歴史、文化、産業及び主要施策などの各地域における地域資源や地域特性、また地域の実態についての調査や分析を行いながら、これまでの活用方法等についての点検を行いました。

また、新たに活用すべき資源や解決すべき課題等についても調査、検討を深めながら、重点的に取り組むべき分野や政策課題を抽出して、具体的に施策として推進するための個別プロジェクトを設定し、地域庁舎ごとに平成20年3月に地域振興ビジョンを策定しました。

温海庁舎では、「温海地域・地域振興ビジョン」に基づき、地域資源の付加価値を高め、新たな産業の創出や人材育成の推進を図ることを目標に「温海温泉の振興」、「海・水産業を活かした地域活性化」、「交流ソフトプログラムの開発」の3つを個別プロジェクトと位置づけ、それぞれのプロジェクトを連携させながら取り組みを行って参りました。

しかしながら、社会や地域を取り巻く状況の変化や、現在の地域の実情に照らし合わせ、課題を捉え直す必要もあることから、先に策定した地域振興ビジョンの見直しを行い、新たな地域振興計画を策定することといたしました。

このたび策定した「温海地域振興計画」は、鶴岡市総合計画の基本構想や後期基本計画との整合性を図りながら、単に個別プロジェクトの事業評価による見直しにとどまらず、温海地域審議会からの提言や集落活性化懇談会の結果など住民の意見を反映させるとともに、策定当初と大きく変化した社会環境、特に、日本海東北自動車道鶴岡JCT～あつみ温泉IC間の開通と予定される全線開通、小学校の学区再編や行財政改革など行政の取組みなども加味して策定するもので、温海地域の資源や特性を生かした地域振興を更に推進していくため、地域の目指す方向と重点的に推進する取組みについて明らかにするものです。

計画期間は平成26年度から平成30年度までの5年間とし、この計画に基づき温海地域の更なる振興・発展に向け、地域振興推進事業を展開しながら、地域の特色あるまちづくりを推進していきます。

## 2. 地域の特性・概要

温海地域は海・山・川・温泉など多様な自然資源を有し、これらの自然環境は、長い歴史の中で住民の生活、文化面に大きな影響を与え、地域の貴重な財産となっています。そして、この資源を活かして古来より小規模ながらも農業、漁業、林業、観光業など、多様な地域産業が営まれてきました。



「焼畑あつみかぶ」栽培のための焼畑作業

また、日本海と摩耶山系に囲まれた特異な地形と道路事情等により、以前は旧鶴岡市街地などへの地域外通勤者は少なく、冬期は出稼ぎ者の多い地域でもありました。

そのため、地域振興の重要な施策として、集落単位を基本として企業誘致に取り組み、多くの集落に企業の進出がみられました。

しかし、経済情勢の悪化などから企業の撤退・倒産やリストラ等が進み、地域内の雇用人口が減少している状況にあります。

この様な経過から、高校・大学卒業時に地域外就職を行う若者が増え、更に、交通事情の改善により、市街地などへの地域外就労者も増加しています。地域外就労者の通勤による負担は大きく、特に冬期間の長距離通勤の負担は大きいものがあり、結果的に地域を離れる要因となっています。

職場環境に起因して地域を離れる住民は比較的若い世代に多く、少子化と合わせて地域の担い手不足の大きな要因になっており、地域産業の衰退だけでなく、地域に脈々と伝承されてきた様々な伝統行事や生活文化の継承も危惧されています。

このように、地域産業の衰退による地域外就労者の増加などを起因とした人口減少及び少子高齢化は、産業だけでなく、福祉・教育・地域コミュニティーなどに様々な問題を引き起こし、生活環境や利便性の低下が更なる人口減少を招き、地域全体の活力を減退させています。

そのため、独自の発展をなしてきた温海地域の住民自治組織や自然豊かなこの地域においては、人・物等、貴重な資源の保全と活用は大変重要なことであり、今まで以上にその対策を講じなければなりません。

しかし、対策を実施するにあたっては、当地域は小規模ながら多様な地域産業や資源を有するため、一つの産業、資源を対象とした対策では地域全体の共有の振興策にはなり難い状況があります。

そこで、小規模であっても、農業、漁業、観光業などの個々の産業の振興を図りながら有機的に連携させることにより、地域産業全体の総合力を高める事が重要な方策であると考えられます。

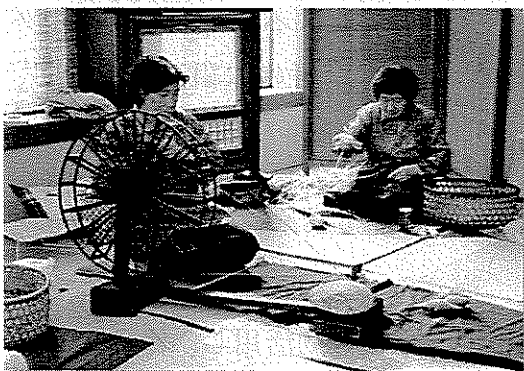
また、産業振興だけでなく、子供から老人まで全ての住民が地域に対して自信と誇りを持ち、地域と繋がり、地域の資源を生かしながら楽しく豊かに暮らすことができる地域づくりも地域振興にとって重要であると考えられます。

### 3. 地域のこれから目指す方向性

日本海東北自動車道（あつみ温泉 I C～鶴岡 J C T間）の開通や予定される日本海沿岸東北自動車道の全線開通、鼠ヶ関 I C（仮称）の設置など社会基盤の整備による環境変化を的確に捉え、交流人口の拡大を図る必要があります。また、豊かな自然と歴史が生み出す「温海かぶ」などの食文化、「しな織」などの伝統工芸、その他多様な資源を最大限に生かし、行政と住民が一体となりながら地域振興を図ると共に、資源維持のための後継者育成に取り組まなければなりません。



日沿道鶴岡～温海間開通イベント



国指定伝統的工芸品工芸品  
「しな織」のしなうみ、へそかき作業風景

これらを具現化するための地域振興策として、「あつみ温泉の振興」、「海・水産業を活かした地域振興」、「交流を核にした地域振興」を3本の柱に地域活性化を図ります。

この3つのプロジェクトを連携して実施することにより、地域内経済効果の循環、地域交流人口の増加が図られ、来訪者がもたらす派生需要や情報が地域内の生産に結びつき、その生産がまた需要を呼ぶことで好循環が期待されます。また、地域内生産の増加は、結果的に地域の雇用の場の創出に繋がり、地域資源を生かした産業振興が図られることにより、漁業、農業などの後継者対策に繋がるものであり、ひいては、住民自治組織の強化にもつながるものであると考えられます。

#### 4. 施策の基本方針

##### 基本方針（１） 「あつみ温泉の振興」

温海地域の観光の中心であるあつみ温泉は、温海川沿いの「かじか通り」が整備され、日本海東北自動車道開通の効果もあり観光客は増加傾向にあります。この機を捉え、「かじか通り」「葉月橋通り」を重点区域として、行政、民間団体それぞれが役割を認識し、一体となって魅力ある景観づくりに取組みます。

また、あつみ温泉の周辺には豊かな自然や歴史的、文化的資源が多く存在することから、観光スポットの開発、整備に取り組むとともに、観光PRや案内機能の強化を図ります。

これらの取組みについては、あつみ温泉の活性化に向けて多くの団体が活発な活動を展開していることから、その活動が効果的に展開されるようビジョンを共有し、住民参加による「そぞろ歩きの楽しいあつみ温泉」のまちづくりに取組みます。



観光客で賑わう「かじか通り」

##### 基本方針（２） 「海・水産業を活かした地域振興」

温海地域は日本海に面していることから豊かな海洋資源に恵まれ、特に鼠ヶ関は漁業、ヨットや海水浴などの海洋レジャーの拠点となっています。この鼠ヶ関を拠点として温海地域の新鮮な魚介類を広くPRし漁業の振興を図るため、魚介類のブランド化を図る生産者の取組みを支援し、イベントを通じて新鮮な魚介類のPRの強化を行うとともに、後継者の育成を図ります。



「マリンパークねずがせき」と「弁天島」

また、海洋レジャー施設や景勝地、歴史・文化的資源を有効活用し、体験メニューの構築・商品化を行うとともに、指導者養成などの取り組みを一層強化し、体験型旅行の受け入れ体制の整備を図ります。

さらに、海のみならず、中山間地の農業・林業等の体験事業と連携を密にしながら、温海地域の自然・施設・人を最大限に活用した取組みを行います。



### 基本方針（3） 「交流を核にした地域振興」

日本海東北自動車道の全線開通が現実的なものとなっていることから、地域内に設置される3カ所のインターチェンジ周辺の土を有効活用し、地域内外の交流を推進することで産業の振興に取組みます。



「関川DEアキぬきツアー」の様子

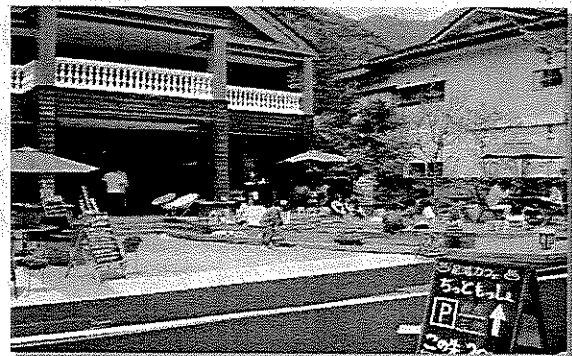
また、高速交通ネットワークの充実に伴い旅行形態が団体型から個人型に変化し、旅行ニーズも多様化していることから、地域内の豊かな自然や歴史、伝統文化、伝統工芸品などの地域資源を活用した体験プログラムの開発や地域内で開催される体験交流イベントの連携を図るとともに、その指導者や後継者の養成を支援します。

さらに、各地区の多様な食文化や生活文化を有機的に連動させ、地産地消の推進や地域特産品の活用による農林水産業の活性化を図ります。

## 5. 具体的な展開方策

### 基本方針（1）－ ①おもてなしの景観づくりの推進

温泉街の賑わいを創出するためには、地元住民がおもてなしの心を共有することが不可欠となります。温海川沿いの「かじか通り」の整備は誘客に大きな効果をもたらしていますが、周辺の景観づくりを行うことでより効果が期待される所です。



足湯カフェ「チットモッシェ」

しかし、景観づくりには相当の費用負担が求められることから、旅館、商店をはじめとする観光・商工団体を主体とした「そぞろ歩きの楽しいあつみ温泉」の実現を支援します。

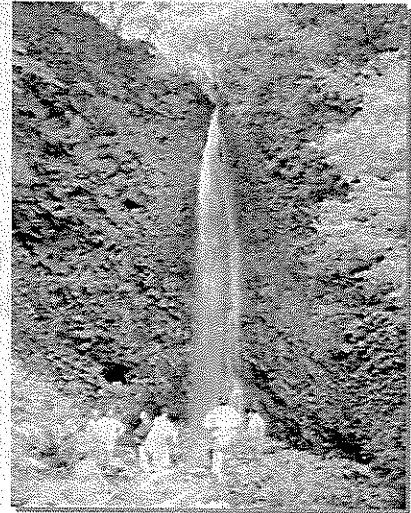
(ア) 「かじか通り」「葉月橋通り」を景観づくりの重点区域として「あつみ温泉まちづくりマップ」を作成し、住民との協働によるクオリティの高いおもてなしの景観づくりを推進します。

(イ) 空き店舗を活用した新規出店を支援し、温泉街の賑わいづくりを推進します。

- (ウ) 店舗ディスプレイ講習会の開催や、のれん、イーゼルなどを効果的に活用することで温泉街の賑わいづくりを推進します。

### 基本方針（１）－ ②温泉周辺の観光スポットの整備

あつみ温泉の周辺には温海岳を中心としてトレッキングに適した環境が整っています。また、温泉街には歴史的、文化的資源が多く残されており、この環境を体験型、滞在型観光の目玉として有効活用し、あつみ温泉の誘客に取組みます。

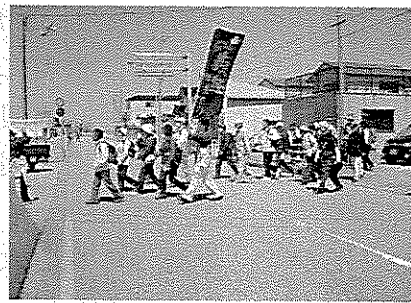


名瀑「湯見ヶ滝」

- (ア) 温海岳や天魄山、湯見ヶ滝などのトレッキングコースや既存イベントなどの観光資源をより魅力あるものにするとともに、あつみ温泉との結びつきの強化を図ります。
- (イ) 歴史的、文化的資源の整備、充実を図り、滞在型、体験型旅行の資源として有効活用を図ります。
- (ウ) 多様化する観光ニーズを的確にとらえ、情報発信ツールの有効活用によるPRを強化します。

### 基本方針（１）－ ③観光ガイドの育成と観光案内機能の強化

観光地にとって、そこに住む住民も貴重な観光資源であることから、人によるおもてなしの充実を図るとともに、まちづくりに携わる多くの団体の活動が、より効果的なものになるよう取組みます。



観光ガイドによる観光案内

- (ア) 各団体がまちづくりのビジョンを共有し、あつみ観光協会を中心にした主体的かつ効果的な活動を展開できるよう支援します。
- (イ) 観光ガイドの育成や観光案内機能の強化を通し、人によるおもてなしの充実を図ります。

### 基本方針（２）－ ①新鮮な魚介類のPRとブランド化の推進

魚介類のブランド化を推進するためには、生産者である漁業者の技術や鮮度保持等を全体で取り決め、ルール化を図り他地域との差別化を図る等の努力が不可欠です。

一部のグループでは自ら産地表示や出荷ルールを決め、ブランド力の向上に努めております。

このような新鮮な魚介類をPRするためには、獲る人（漁業者）、売る人（仲買人等流通業者）、食べさせる人（飲食店経営者）が一体となり、鮮度やおいしさをPRする必要があります。そのため、漁協・行政も交えた一体的な戦略による漁業の振興と後継者の育成を図ります。



温海沖で獲れる新鮮な魚介類

- (ア) 鼠ヶ関地内に新鮮な魚介類を提供する食堂や直売所の整備を検討します。
- (イ) 漁業者自らのルール作りによるブランド化を推進します。
- (ウ) 「大漁旗フェスティバル」「イカまつり」「岩ガキフェスティバル」などのイベント開催によるPR活動の強化に取り組めます。

### 基本方針（2）－ ②水産加工品の研究開発

鼠ヶ関港水揚げの新鮮な魚介類を活用した水産加工品は、「イカの一晩干し」をはじめとした干物が代表的であるが、消費者のニーズに合った新たな加工品の開発を行政、県漁協、加工業者が一体となって推進します。



名物「イカの一晩干し」

- (ア) 新鮮な魚介類や地域の魚食文化を消費者に広くPRします。
- (イ) 水揚げされる魚介類の付加価値を高めることで有利な販売に結びつけ、販路の拡大を図ることにより、漁業者の所得向上を目指します。
- (ウ) 従来加工商品にとらわれない、新たな加工品の開発や未利用魚などの潜在的資源を利用した加工品開発を支援します。

### 基本方針（2）－ ③海洋レジャー基地としての環境整備

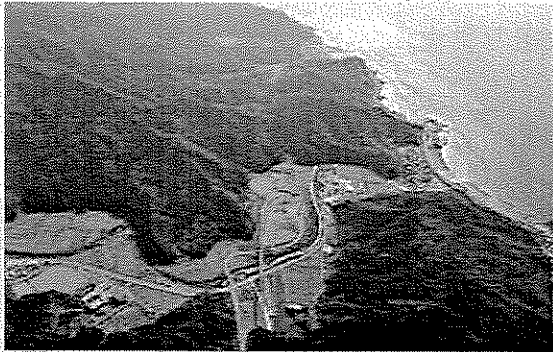
「はなさき路（みち）」はマリーナやマリリンパーク、キャンプ場などのレジャー施設、弁天島などの景勝地に近接し、鼠ヶ関港からの新鮮な魚介類の確保も容易であることから、これらの施設の有効活用と併せて、各種イベントの中心地として整備、活用を図ります。



大好評！「漁船クルージング」

- (ア) 鼠ヶ関地域協議会「蓬莱塾」では、はなさき路に直売所などの誘客施設や食堂等を設置することで観光拠点としての整備を検討しており、その事業主体の選定や人材発掘も含めた取組みを支援します。
- (イ) 鼠ヶ関地内の歴史・文化をテーマとしたツアー観光客が増えつつあり、ストーリー性を加えた観光メニューの開発で更なる誘客を図ります。
- (ウ) 海を活用した体験メニューの構築、指導者養成などの取組みを強化します。
- (エ) 農業・林業等による体験プログラムとの連携を図り、温海地域の体験プログラムの拠点として整備を図ります。

### 基本方針（3）－ ①インターチェンジ周辺の土地利用の推進



あつみ温泉インターチェンジ周辺

日本海東北自動車道の全線開通が現実的なものとなり、高速交通ネットワークの構築が目前に迫っています。これに伴い温海地域内には既設の「あつみ温泉IC」と「いらがわIC」、予定される「鼠ヶ関IC（仮称）」の3か所のインターチェンジが設置されることから、このインターチェンジ周辺の土地の有効活用を図ります。

- (ア) インターチェンジ周辺の土地を有効活用し、休憩施設、商業施設の設置や温泉街への誘導を図ることにより、産業振興と地域活性化を推進します。

### 基本方針（3）－ ②温海地域全体をフィールドとした体験プログラムの開発と指導者養成

鼠ヶ関地域協議会「蓬莱塾」が教育旅行の受け入れに向けて指導者の養成を始めており、今後事業が本格化すると思われます。また、25年度からは福栄地域協議会「福の里」が事業を開始しており、地域内各団体の連携による活性化に取り組めます。



自然体験実践指導者養成講習会

- (ア) 教育旅行や体験型旅行の受け入れに向け各団体の連携を図るとともに、自主的な活動体制の構築を支援します。
- (イ) 体験プログラムの開発や指導者養成などの環境整備を推進します。



基本方針（3）－ ⑤地域特産品の活用と育成

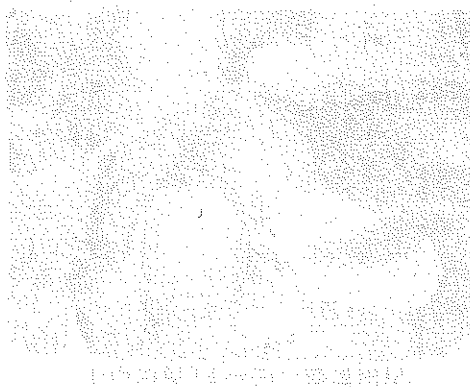
温海地域は、豊かな自然が生み出す「温海かぶ」などの貴重な農林産物や新鮮な魚介類などの豊富な食材から生まれる独自の食文化を有しています。また国指定の「しな織」や「温海こけし」といった伝統工芸品も多く残されており、これらの特産品を活用した活性化を図るとともに、新たな特産品の研究開発に取り組めます。



しなの木の花

- (ア) 温海地域の特産物を広く売り出すため、PRの強化を図ります。
- (イ) 特産品の生産技法や品質を維持・継承するため、後継者の育成に取り組めます。
- (ウ) しなの花を活用したお茶、化粧品など、新たな特産品の研究開発に取り組めます。

振興の常態化を図るための地域内取組⑤－（ウ）新たな特産



このまちの宝は、温海地域の特産品。自然の恵みを生かした独自の食文化を有しています。また国指定の「しな織」や「温海こけし」といった伝統工芸品も多く残っており、これらの特産品を活用した活性化を図るとともに、新たな特産品の研究開発に取り組めます。

**基本方針（３）－ ③体験型・滞在型旅行や教育旅行の誘致に向けた環境整備とPR**

旅行形態が体験型、滞在型へシフトしていく中で体験プログラムの開発が求められるとこ  
ろです。

これまで自治会や各団体により多くのイベントが開催され地域の活性化に大きな役割を果たしていますが、いずれも一過性のものになりがちであり、マンネリ化も懸念されることから、その継続性の確保と実施団体が連携を密にすることでイベント効果を高めるための支援を行い、体験型・滞在型旅行や教育旅行のメニューとしての活用を図ります。



温海トライアスロン大会

- (ア) 各自治会や団体において独自に開催されているイベントを有機的に結びつけ、体験プログラムとして再構成を図ります。
- (イ) 指導者の養成、確保など休日にとられない実施体制の整備に取り組みます。
- (ウ) 「さくらマラソン」や「トライアスロン」、「大漁旗フェスティバル」など各団体によるイベントの継続に向けた取組みを支援します。

**基本方針（３）－ ④地域内連携による地産地消の推進**

温海地域の農林業は耕地面積が狭小であることから「少量多品目」が特徴となっていますが、集荷、販売が難しいことから所得に結びつかない現状があります。

一方で地域内には消費量の多い「あつみ温泉」があり、安全・安心で特色のある食の提供が求められていることから、生産地と消費地を有機的に連携させ、地域内産業の活性化を図ります。



早田集落に伝わる「早田ウリ」

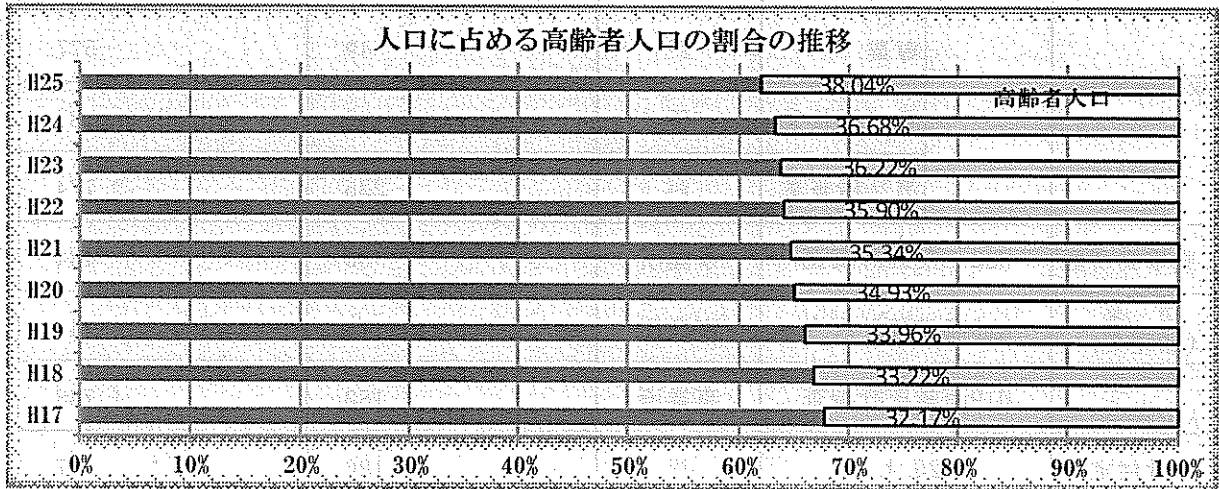
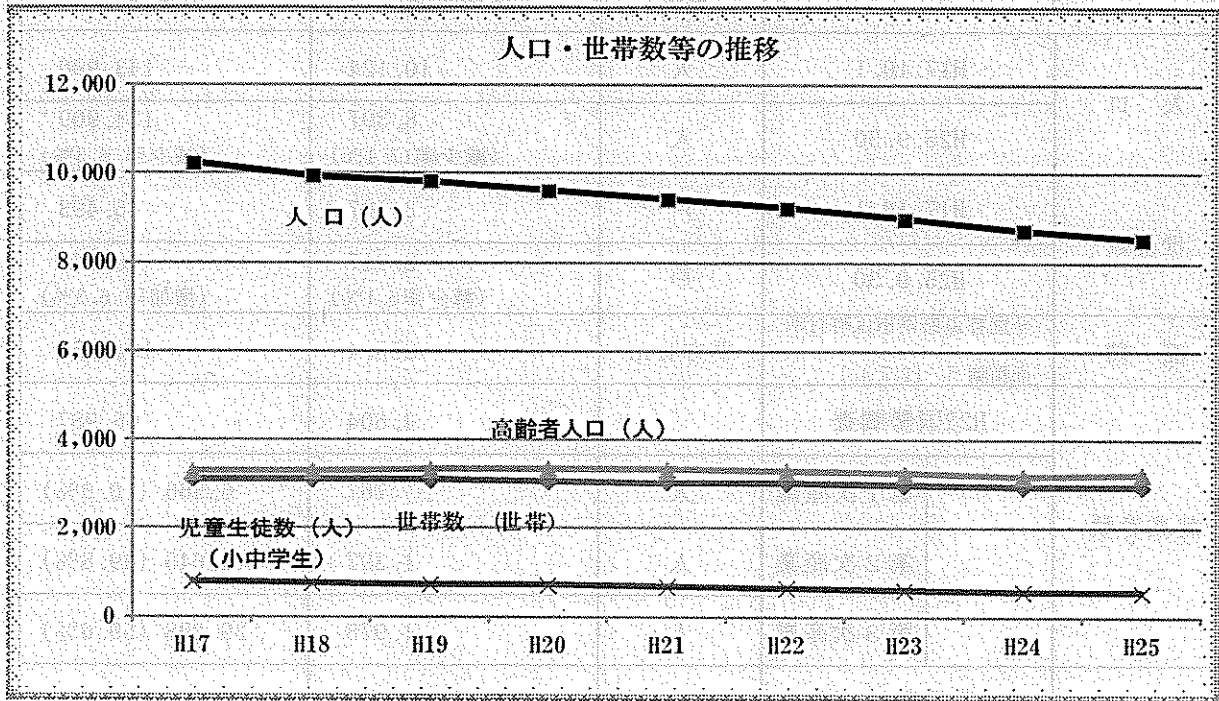
- (ア) 地産地消コーディネーターを養成し、温海地域の食材や食文化を消費量の多い「あつみ温泉」の旅館に提供するシステムを構築することで観光客への安全・安心な食の提供と地域内産業の活性化を推進します。
- (イ) 温海地域の食材を活用した、新たな食文化の開発を支援します。

[参考:統計資料]

区 分		単位	温海地域	市全体
人 口	H17.10.1	人	10,124	143,990
	H25.9.30	人	8,397 (減少率17.1%)	134,909 (減少率 6.3%)
世帯数	H17.10.1	戸	3,107	45,493
	H25.9.30	戸	2,917 (減少率6.1%)	48,342 (増加率 6.3%)
面 積	全国都道府県市区町村別 面積調べ H17.4.1	平方k m	255.4	1311.51
就業者数	H22国勢調査		4,604	65,987
		第1次産業	767	6,566 (10.0%)
		第2次産業	1,397	19,645 (29.8%)
		第3次産業	1,978	39,298 (59.6%)
販売農家数	2010農林業センサス		321	4,538
		専業	49	577
		第1種兼業	37	1,187
		第2種兼業	235	2,774
工業事業所数	H22工業統計調査		35	484
商 業 (卸売業)	H19商業統計調査		18	341
商 業 (小売業)	H19商業統計調査		183	1,738
市営住宅	H25.4.1		120	927
保育所	H25.4.1		5所 (園児数 165)	41所 (園児数 3,373)
幼稚園	学校基本調査	H25.5.1	0園 (園児数 0)	11所 (園児数 829)
小学校		H25.5.1	5校 (児童数 344)	40校 (児童数 6,755)
中学校		H25.5.1	1校 (生徒数 218)	11校 (児童数 3,787)
高等学校		H25.5.1	校	0
医療施設	H25.4.1		7 (病院 0) (一般診療所 5) (歯科診療所 2)	165 (病院 8) (一般診療所 107) (歯科診療所 50)

資料：住民基本台帳他

### 温海地域世帯数・人口の推移



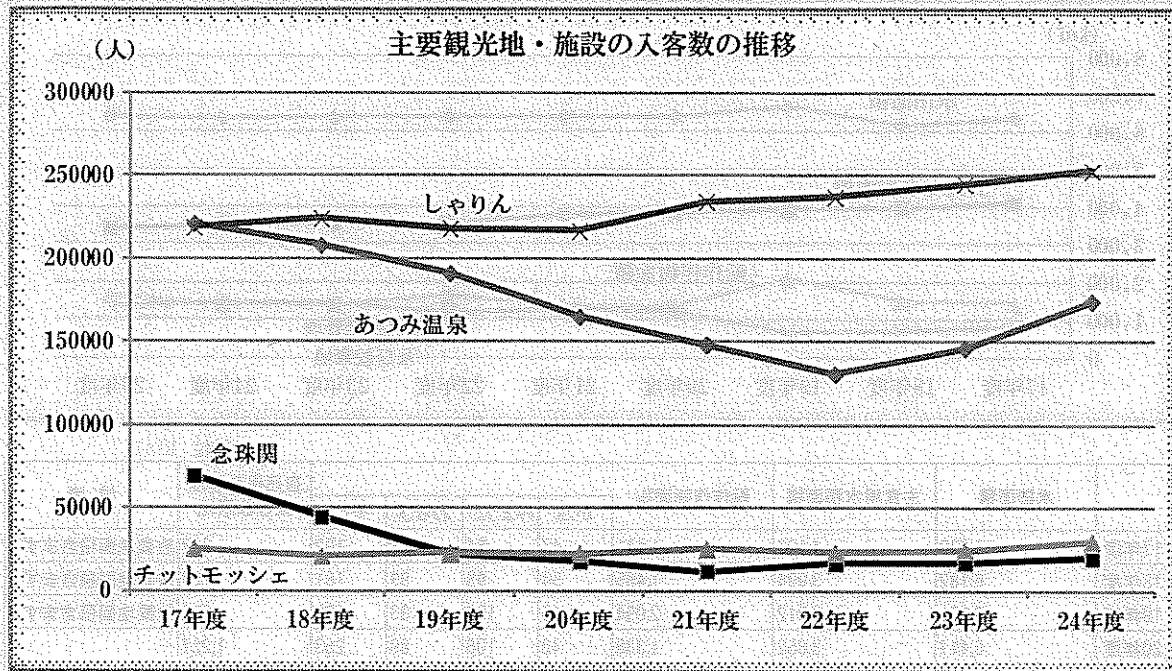
単位：世帯、人、%

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
世帯数	3,124	3,105	3,095	3,065	3,046	3,025	2,987	2,950	2,947
人口	10,234	9,947	9,830	9,613	9,418	9,212	8,980	8,727	8,522
高齢者人口	3,292	3,304	3,338	3,358	3,328	3,307	3,253	3,201	3,242
人口に対する割合	32.17%	33.22%	33.96%	34.93%	35.34%	35.90%	36.22%	36.68%	38.04%
児童生徒数 (小中学生)	807	761	739	719	689	660	614	581	562
人口に対する割合	7.89%	7.65%	7.52%	7.48%	7.32%	7.16%	6.84%	6.66%	6.55%

資料：住民基本台帳（毎年3月末現在）、学校基本調査



温海地域観光客数の推移



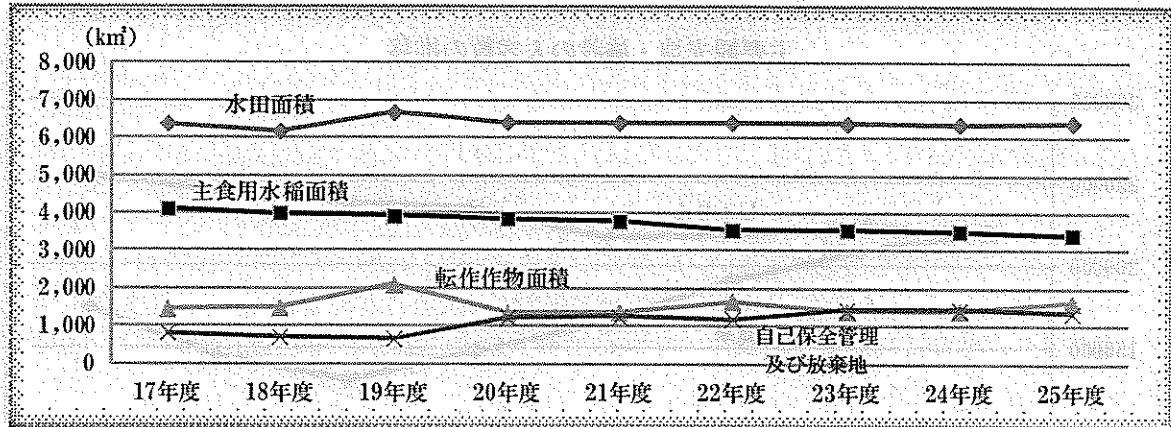
(単位：人)

観光地名		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
あつみ温泉	県内客	80,000	75,000	68,900	59,400	53,400	47,100	52,700	62,700
	県外客	141,000	133,000	122,400	105,600	94,900	83,700	93,600	111,600
	計	221,000	208,000	191,300	165,000	148,300	130,800	146,300	174,300
念珠関	県内客	3,000	2,800	2,700	2,200	1,800	2,200	1,900	2,700
	県外客	5,500	4,900	5,200	4,100	3,900	4,300	4,300	5,200
	計	8,500	7,700	7,900	6,300	5,700	6,500	6,200	7,900
摩耶山	県内客	1,900	2,100	2,500	1,200	1,300	900	1,100	1,100
	県外客	800	1,000	900	600	700	400	700	600
	計	2,700	3,100	3,400	1,800	2,000	1,300	1,800	1,700
民 宿	県内客	3,900	3,800	5,500	5,700	3,700	4,800	5,500	5,000
	県外客	2,100	2,800	2,200	2,400	2,700	2,400	2,500	2,400
	計	6,000	6,600	7,700	8,100	6,400	7,200	8,000	7,400
海水浴場(鼠ヶ関)	県内客	22,100	13,300	5,000	4,000	2,100	3,400	3,800	4,000
	県外客	38,800	23,300	8,900	7,400	4,000	6,400	7,000	7,500
	計	60,900	36,600	13,900	11,400	6,100	9,800	10,800	11,500
チットモツシェ	県内客	8,900	7,700	8,300	8,200	9,200	8,500	8,900	11,000
	県外客	16,600	13,400	14,500	14,400	16,000	14,700	15,600	19,100
	計	25,500	21,100	22,800	22,600	25,200	23,200	24,500	30,100
海のつり堀センター	県内客	15,900	24,800	12,600	12,400	15,000	7,800	5,300	1,600
	県外客	29,400	46,100	23,600	23,100	27,400	14,400	9,600	2,900
	計	45,300	70,900	36,200	35,500	42,400	22,200	14,900	4,500
道の駅あつみ「しゃりん」	県内客	76,500	78,400	76,300	75,800	82,000	82,900	85,800	88,500
	県外客	142,100	145,600	141,700	140,700	152,200	154,100	159,200	164,500
	計	218,600	224,000	218,000	216,500	234,200	237,000	245,000	253,000
あつみ温泉一本木スキー場	県内客	1,700	1,800	5,400	5,300	6,200	5,600	6,600	6,300
	県外客	2,900	3,200	200	100	200	100	100	200
	計	4,600	5,000	5,600	5,400	6,400	5,700	6,700	6,500
念珠の松庭園	県内客	1,500	1,100	1,200	900	900	1,000	800	1,300
	県外客	2,800	2,800	2,800	2,300	2,000	2,200	2,100	2,800
	計	4,300	3,900	4,000	3,200	2,900	3,200	2,900	4,100
しな織センター・しな織の里めぐもり館	県内客	2,900	2,800	2,100	2,400	2,200	2,200	1,400	1,500
	県外客	5,300	5,500	4,600	5,000	4,700	4,500	3,200	3,100
	計	8,200	8,300	6,700	7,400	6,900	6,700	4,600	4,600
合 計	県内客	218,300	213,600	190,500	177,500	177,800	166,400	173,800	185,700
	県外客	387,300	381,600	327,000	305,700	308,700	287,200	297,900	319,900
	計	605,600	595,200	517,500	483,200	486,500	453,600	471,700	505,600

※百人未満四捨五入

資料：温海地域観光動態

### 主要農作物の作付状況の推移

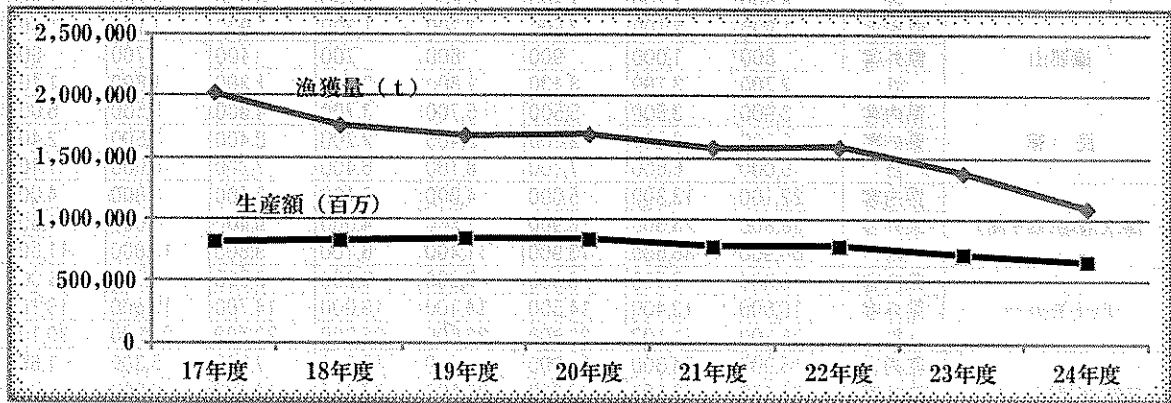


(単位: 10a)

年度	水田面積	主食用水稲面積	転作物面積	転作物				自己保全管理及び放棄地	備考
				かぶ	みょうが	わらび	そば		
17年度	6,370	4,107	1,441	47	84	83	192	822	放棄地面積含まず
18年度	6,182	3,994	1,485	54	98	83	181	703	放棄地面積含まず
19年度	6,671	3,912	2,094	45	109	93	198	665	放棄地面積含まず
20年度	6,417	3,852	1,338	46	106	89	253	1,227	
21年度	6,396	3,778	1,373	46	107	104	268	1,245	
22年度	6,408	3,552	1,662	34	114	115	299	1,194	
23年度	6,393	3,555	1,406	37	119	110	291	1,432	
24年度	6,369	3,522	1,417	52	122	114	307	1,430	
25年度	6,417	3,433	1,629	104	131	143	366	1,354	

資料: 水稲共済細目書

### 漁獲量・漁業生産額の推移



### 温海地域の漁獲量の推移

(単位: Kg)

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
温海支所	91,516	73,874	85,880	89,397	106,374	87,773	77,109	80,132
念珠関支所	1,932,895	1,687,584	1,595,529	1,600,633	1,478,332	1,500,310	1,306,211	1,013,168
計	2,024,411	1,761,458	1,681,409	1,690,030	1,584,706	1,588,083	1,383,320	1,093,300

資料: 漁協統計

### 温海地域の漁業生産額の推移

単位: 千円

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
温海支所	71,755	73,264	82,607	80,895	90,604	75,269	72,615	82,557
念珠関支所	751,110	759,426	768,132	760,626	692,878	712,873	650,766	584,525
計	822,865	832,690	850,739	841,521	783,482	788,142	723,381	667,082

資料: 漁協統計

温泉地域振興計画の実施状況

資料No.5

具体的な展開方策	振興策	具体的な取り組みと成果	今後の取り組み
①おもてなしの景観づくりの推進	<p>(ア) クオリティの高いおもてなしの景観づくり</p> <p>(イ) 空き店舗を利用した出店支援</p> <p>(ウ) のれん、イーゼルを活用した賑わいづくり</p>	<p>まちづくりアドバイザーを招き、住民懇談会の開催による課題共有や庁舎プロジェクチームによる、まちづくりマップづくりを進めたが、ハード面での整備には至らず、ソフト面での賑わいづくり事業を展開している。</p> <p>出羽商工会と連携し、利用可能な空き店舗の調査を行うとともに、平成24～26年度に改修費用の助成制度を整備し空き店舗の利用を促したが、利用希望者はなかった。</p> <p>平成25～27年度にのれんやイーゼルの設置を支援するとともに、ディスプレイ講習会や花鉢によるおもてなしを行い、温泉街の一体感を醸成した。</p> <p>また、平成26年度からはおもてなし祭りを開催するなど、日帰り入湯客数の増加や温泉街を散策する観光客が多く見られるようになった。</p>	<p>まちづくりアドバイザーの指導・助言を受け、旅館青年部によるまちづくりマップの作成と地域住民との方向性の共有を図るための活動を支援し、温泉街の賑わいづくりを進める。</p> <p>出店希望者に対しては出羽商工会と連携し支援を行うとともに、朝市広場の空き店舗利用について観光協会、産業団体と連携し出店者の誘致を図る。</p> <p>あつみ温泉の住民や旅館、商店など関係団体が行う自主的な環境整備を支援するとともに、まちづくりアドバイザーの指導・助言を受け、商店等のクオリティアップへの取り組みを支援し、賑わいづくりを進める。</p>
②温泉周辺の観光スポットの整備	<p>(ア) 観光資源の魅力アップとあつみ温泉への誘客</p> <p>(イ) 歴史的、文化的資源を滞在型、体験型旅行に活用</p> <p>(ウ) 情報発信ツールの有効活用によるPR強化</p>	<p>平成21年～25年度に温海岳や天囃山のトレッキングコースの整備や休憩ベンチの設置を行った他、毎年環境整備を行うとともに、ホームペー等を活用した情報提供に努めているが、あつみ温泉への誘客に至っていない。</p> <p>ばら園の噴水・フェンスの改修、与謝野晶子歌碑の朝市広場移転の他、そぞろ歩きモデルコースの設定などに取り組み、あつみ周辺ガイドマップやホームペー等情報発信ツールを使い情報発信に努め、観光客の利便性の向上に繋がっている。</p> <p>市のホームページや観光関係部署のウェブサイトで情報発信するとともに、イベントの告知は、TVなどのマスコミを活用してPRを行うなど、観光資源やイベント情報を発信したことにより、日帰り観光客が増加傾向にある。</p>	<p>観光協会や関係団体と連携し、これらの観光資源を活かしながら、あつみの食もPRできるような鶴岡ツーリズムの確立に向けて、つるおほか農工商観光連携総合推進協議会の鶴岡ツーリズム部会で検討する誘客プランを構築する。</p> <p>引き続き環境整備に取り組み、情報発信に努める。</p> <p>SNSなども有効活用しながら、常に最新の観光情報をスピーディーに発信し、誘客につなげる。</p>

具体的な展開方策	振興策	具体的な取り組みと成果	今後の取り組み
<p>あつみ温泉の振興</p> <p>③観光ガイドの育成と観光案内機能の強化</p>	<p>(ア) 観光協会を中心とした主体的かつ効果的な活動支援</p> <p>(イ) 人によるおもてなしの充実</p>	<p>ばら園まつり、温海旬御膳、摩耶山新酒まつりなど、あつみ観光協会等が行う観光資源を活用した着地型観光事業や、あつみ温泉の魅力づくりの推進、観光地としての環境及び受入れ体制整備に関する取り組みに対して支援し、観光客の増加に繋がっている。</p> <p>平成26年度に(財)地域活性化センターのアドバイザー事業を活用して「あつみ温泉観光ボランティアガイド事業に対する実践アドバイス」を開催し、あつみ温泉で観光に携わり関係者の意識の向上を図ったが、観光ガイドの掘り起こしまでは至らず、観光客のニーズに応えられない状況である。</p>	<p>観光協会を中心として事業効果を検証しながら、より効果的な事業実施を支援する。</p> <p>観光協会やNPO法人と連携し、観光ボランティアガイドの養成に向けた検討を行うなど、観光客のニーズに応えられる体制の確立を目指す。</p>
<p>海・水産業を活かした地域振興</p> <p>①新鮮な魚介類のPRとブランド化の推進</p> <p>②水産加工品の研究開発</p>	<p>(ア) 鼠ヶ関地区内に鮮魚提供施設整備の検討</p> <p>(イ) 漁業者自らのルール作りによるブランド化の推進</p> <p>(ウ) イベント開催による魚介類のPR強化</p> <p>(ア) 鮮魚、地域の魚食文化のPR</p>	<p>まちづくりアドバイザーを招き住民懇談会を開催するなど取り組みを行ったが、具体的な取り組みに至っていない。</p> <p>漁業者自から「おぼこサワラ」のブランド化に向けて活動をした。また、昨年3月12日に初めて内陸に施設の一部を借りて漁協の直営店をオープンさせており、その売上げも順調である。</p> <p>従来から実施している「大漁旗フェスティバル」「うまイカ・干しイカ・イカまつり」に加え、28年度から新たに「おぼこサワラまつり」を開催し、鼠ヶ関地域の魚介類のPRを行った。事前PRの効果もあり、来客数の大幅な増となった。</p> <p>鶴岡大産業まつりにおいて、市民に地元の魚介類の周知を図ってきた。また、山形県や県漁協が進めている「食文化創造都市推進」と連携しながら取り組んだ。海丸によるPR効果や山形県としての取り組みも加わり、山形市内を含めた内陸部での庄内浜の魚の関心が高まっている。</p>	<p>鼠ヶ関IC(仮称)の整備計画の動向を注視し、鼠ヶ関地区内で鮮魚や加工に携わっている事業者の係り方について検討する。</p> <p>他地域との差別化できそうな分野の掘り起こしを行いながら、新たなブランド化について検討する。</p> <p>これまでの取り組みを継続する。</p> <p>これまでの取り組みを継続する。</p>

具体的な展開方針	振興策	具体的な取り組みと成果	今後の取り組み
②水産加工品の研究開発	<p>(イ) 魚介類の付加価値を高め、漁業者の所得向上</p> <p>(ウ) 未利用魚等の潜在的資源などを利用した加工品開発支援</p>	<p>具体的な取組みに至っていない。</p> <p>庄内浜うめえ魚産地協議会の活動を通じて新たな加工品の開発などに取り組んだ結果、乾燥紅えびや鮮魚の練り物が商品化された。</p>	<p>県漁協及び漁業者組織の主体的な取り組みに対して支援を行う。</p> <p>これまでの取り組みを継続する。</p>
③海洋レジャー基地としての環境整備	<p>(ア) 鼠ヶ関地域協議会「蓬莱塾」による誘客施設設置の検討と人材発掘等の取組み支援</p> <p>(イ) 鼠ヶ関の歴史・文化にストーリー性を加えた、更なる誘客促進</p>	<p>まちづくりアドバイザーを招き住民懇談会を開催するなどの取組みを行ったが、具体的な取組みに至っていない。</p> <p>平成29年度で13回目になる、あつみ観光協会鼠ヶ関支部主催による「義経上陸の地鼠ヶ関歩こう会」を実施している。</p> <p>また、蓬莱塾で鼠ヶ関地内の歴史、文化の掘り起こしをし、新たな観光メニュースとして22年度から漁船クルージングを実施している。</p>	<p>既存事業所等の意向を尊重しながら今後の取組みに見合った支援を検討する。</p> <p>NPO法人自然体験あつみコーポレーションが中心としながら進める、新たな観光メニュースの開発を支援する。</p>
	<p>(ウ) 海を活用した体験メニュースの構築、指導者養成などの取組み強化</p>	<p>蓬莱塾や平成26年度に設立したNPO法人自然体験温暖コーポレーションが主体となって海を活用した体験メニュースの開発や指導者養成、温暖地域への教育旅行の誘致などに取り組んできた。</p> <p>指導者養成としては、NEALリーダーの確保やスキルアップが図られた。</p>	<p>NPO法人と連携しながらこれまでの取り組みを引き続き支援する。</p>
	<p>(エ) 農業・林業等との連携による温暖地域体験プログラムの拠点整備</p>	<p>地域協議会「蓬莱塾」「福の里」が連携して指導者養成と取組みや、各協議会が体験プログラムの開発を検討するなどの取組みを行ってきた。</p>	<p>NPO法人や福の里、小国ふる里振興会などと連携して温暖地域全体の体験プログラムの構築を図る。</p>

海・水産業を活かした地域振興



具体的な展開方策	振興策	具体的な取り組みと成果	今後の取り組み
① インターチェンジ周辺の土地利用の推進	(ア) インターチェンジ周辺の土地の有効活用と温泉街への誘導	平成26年度に市民等によるワークショップを開催し、その後、基本計画策定委員会の意見や道の駅専門家によるアドバイス等を踏まえ、平成29年5月に基本計画を策定した。	地元関係者の意見を聞く機会を設けながら、管理運営計画や運営体制の検討を進める。併せて、道の駅「あつみ」との機能のすみ分け、連携のあり方を検討する。 また、あつみ温泉ICから温泉街への誘導機能と温泉街の観光スポットへの案内強化、景観づくりを地域と連携して推進する。
② 温海地域全体をフィールドとした体験プログラムの開発と指導者養成	(ア) 教育旅行や体験型旅行の受入れ団体の連携を図るとともに、自主的活動体制の構築支援	鼠ヶ関地域協議会「蓬莱塾」、福栄地域協議会「福の里」、小国ふる里振興会、NPO法人自然体験あつみコーデイネットの活動に対し、財政支援及び人的支援を行った。 平成27年度以降は、NPO法人が中心となり、各団体と連携を図りながら各種体験プログラムの開発や磨き上げを行った結果、鼠ヶ関集落、福栄地域、小国集落の活性化や、福の里においては若年層の活動への参加が徐々に増え、地域愛の醸成につながった。 NPO法人自然体験あつみコーデイネットが中心となり、体験プログラムの開発や磨き上げ、指導者養成・スキルアップを行ない、環境整備を進めた。 モニターイベントの開催やインバウンド対応など、他地域からの認知度が増した。	NPO法人が活動の中心となり、他の団体と連携しながら進める。温海地域全体をフィールドとした受入れ体制の整備を支援する。 NPO法人が中心となり、他の団体と連携しながら進める。指導者の更なるスキルアップや体験プログラムの磨き上げによる、受入れ体制の整備を支援する。

交流を核にした地域振興

具体的な展開方策	振興策	具体的な取り組みと成果	今後の取り組み
<p>③体験型・滞在型旅行や教育旅行の誘致に向けた環境整備とPR</p> <p>交流を核にした地域振興</p>	<p>(ア) 各自治会や団体の独自開催イベントを有機的に結びつけ、体験プログラムの再構築</p> <p>(イ) 指導者の養成、確保など休日にとらわれない実施体制の整備</p> <p>(ウ) 各団体が実施するイベントの継続に向けた取り組み支援</p>	<p>NP0法人自然体験あつみコーディネートネットワークが中心となり、各種既存イベントと連携してモニターイベントを開催するなど、体験プログラムの磨き上げを行った結果、既存イベントへの来訪者の増加など、相乗効果が見られた。</p> <p>また、NP0法人による教育旅行のプロモーション活動や体験型旅行の情報発信を行うことにより、県内の学校の教育旅行の受け入れや個人、団体、インバウンドなどの受け入れが増加傾向にある。</p> <p>NP0法人自然体験あつみコーディネートネットワークが中心となり、福の里や蓬萊塾などの構成員を対象に指導者養成・スキルアップを行なった。</p> <p>NP0法人が体験プログラムの実施にあたり、事前に指導者の確保、要請をすることができた。</p> <p>(さくらマラソン) 実行委員会が中心となって実施し、平成29年度で32回開催。県内外から約1,700人もの人が参加する。大会を通じあつみ温泉街をはじめ、地域の活性化につなぐことができた。</p> <p>(トライアイアスロン) 実行委員会が中心となって平成26年度まで計29回実施し、周辺地域の活性化を図った。</p> <p>しかし、30回記念大会の事故から開催を見送っている。</p> <p>(大漁旗フェスティバル) 運営をスムーズに行うため、イベントの周知、諸手続等を支援した。</p> <p>また、一般市民に広く周知することができ、大勢の人が来場した。</p>	<p>NP0法人が中心となり、他の団体と連携しながら進める、体験プログラムの磨き上げや受入れ体制の整備を支援する。</p> <p>NP0法人が中心となり、他の団体と連携しながら進める、指導者の養成・スキルアップを図るとともに、民泊の受入れ体制の整備を支援する。</p> <p>これらのイベントについて、これまでどおり、イベント継続に向けた取り組みを支援する。</p>





具体的な展開方策	振興策	具体的な取り組みと成果	今後の取り組み
<p>⑤地域特産品の活用と育成</p> <p>交流を核にした地域振興</p>	<p>(ア) 温海地域特産物の販売PRの強化</p> <p>(イ) 特産品の生産技法や品質維持・継承するための後継者育成</p>	<p>(焼畑温海かぶ)</p> <p>販売促進ツールを利用したPR活動を実施した。地域内での認知度は高くなっている。また、JAで取引されている焼畑温海かぶは、若干ではあるが、販売単価の上昇につながっている。</p> <p>(しな織)</p> <p>平成27年3月にしな織のPRと新製品の求評を兼ねた「しな織新製品展示会」を都内で開催した他、しな織の認知度を高めるため、首都圏を中心に展示会を開催した。展示会では、しな織や地域の情報発信ができた。回数を重ねることが期待される。</p> <p>また、平成27年10月には、ミラノ万博に「食関連産業」として出展し、日本の伝統的工芸品たる古代布の魅力の世界に発信した。</p> <p>(焼畑温海かぶ)</p> <p>平成26年度にロゴ・マークの作成・商法登録、栽培基準を作成、平成28年度はブランド講習会を開催した。商標登録により、他産地と差別化を諮れる仕組みが整った。また、栽培講習会は、品質の維持につながっている。</p> <p>(しな織)</p> <p>羽越しな布振興協議会が、振興計画に基づき実施する後継者育成事業等に対し、財政支援や事務支援を行った。また、後継者確保及び育成を図るため、「織」及び「製品加工」の長期研修や技術研修を実施した。長期研修制度は、研修生が意欲・向上心をもって励んでおり、現在の研修生は15期生である。</p>	<p>(焼畑温海かぶ)</p> <p>焼畑あつまいかぶと他産地との差別化、認知度を高めるためのPR活動、地理的表示保護制度(GI制度)登録に向けた取り組みを支援する。</p> <p>(しな織)</p> <p>協議会が実施する需要開拓事業に対し財政支援及び人的支援の継続、並びに「しな織の歴史や特性」、「製品が発信したい機能」を消費者に伝えつつ、しな織産業に携わる人材を増やす取り組みを展開する。</p> <p>(焼畑温海かぶ)</p> <p>品質管理の維持や販路拡大、他産地の赤かぶと混ざれない流通方法等の検討を行い、協議会でのブランド化計画の策定を目指す。各種講習会については、若手農業者への働きかけを強化する。</p> <p>(しな織)</p> <p>後継者を産地周辺にも広げていく方向に修正するとともに、長期研修・技術研修の継続、しな織に携わる人材の増などを目指し、協議会への財政支援及び人的支援を継続する。</p>

<p>具体的な展開方策</p>	<p>振興策</p>	<p>具体的な取り組みと成果</p>	<p>今後の取り組み</p>
<p>交流を核にした地域振興</p> <p>⑤地域特産品の活用と育成</p>	<p>(ウ) しの花を活用したお茶、化粧品など、特産品の研究開発</p>	<p>平成26年5月に「しの花活用プロジェクト研究会」を設立し、産官学連携による取り組みを開始した。「化粧水」「ハーブ石鹸」を軸に事業を展開しているが、「お茶」については、限られた原料であることを踏まえ、当面保留することにした。東京銀座並木通りでの「しの木(花)展示PR」を実施し、首都圏での販売戦略活動の第一歩を踏み出した。また、「化粧水」「ハーブ石鹸」の使い心地を試していたただくモニター調査を実施中である。</p>	<p>平成30年度からの事業化を見据え、事業化体制の確立を図る。併せて、各種試験分析を継続し、データ蓄積を図る。販売戦略の一環として、東京銀座並木通りとの繋がりを継続し、首都圏での情報発信の足掛かりとしていくとも、パッケージデザインの構築や販売許認可の手続きを進める。</p>

# 平成29年度主要事業の概要



第36回全国豊かな海づくり大会～やまがた～ 放流行事

平成29年4月

鶴岡市温海庁舎

◎◎◎◎

# 要約◎業事要主費中◎S費平



本行特設 一式付券今一六六リノノ備為水帯湖全開設部

## 目上平◎S費平

### 金守銀器市興銀

## 平成29年度主要事業の概要

温海庁舎 (単位:千円)

NO	事業名 (予算書P)	事業主体	事業内容	事業費	担当課
1	鶴岡まちづくり塾活動支援事業 鶴岡まちづくり塾活動支援補助金 (継続)	鶴岡総合研究所	若者の英知を市政に生かすことを目的に、地域ごとにグループワークを行う。 ・第5期の初年度となることから、活動内容、テーマ等を決定し、実践する。	2,400 (市全体)	総務企画課 (政策企画課)
2	交通輸送対策事業 生活交通バス維持費補助金 (継続)	鶴岡市 バス会社	廃止路線代替バスへの運行補助を行い地域住民の日常生活の交通の便を確保する。 ・地域公共交通網形成計画に基づく新たな地域内交通システムの検討。	64,907 (市全体)	総務企画課 (地域振興課)
3	婚活支援事業 婚活支援事業 (継続)	鶴岡市 事業実施団体	少子化の一因になっている未婚化・晩婚化について、地域の実態を把握するとともに、企業や団体、地域と連携して結婚に向けた環境づくりを推進する。	4,243 (市全体)	総務企画課 (地域振興課)
4	地域振興懇談会運営事業 地域振興懇談会 (継続)	鶴岡市	設置3年目。委員数は15名、うち公募委員4名以内。年3回の開催を予定、地域振興計画、予算、主要事業、総合計画等について意見聴取を行う。	1,369 (市全体)	総務企画課 (地域振興課)
5	過疎対策推進事業 地域おこし協力隊導入事業 (継続)	鶴岡市	福栄地域の活性化と振興を図るため、都市部の意欲ある若者3名を受け入れ、人的、物的地域資源を有効に活用し、地域と一緒に地域づくり活動に取り組み、地域力の維持・強化を図る。	12,000	総務企画課 産業建設課
6	地域コミュニティ再生事業 集落活性化懇談会開催事業 (継続)	鶴岡市	職員の地区担当制による集落活性化懇談会を開催し、地域課題の掘り起こしや解決に向けた取組みを行う。 (住民自治組織ステップアップ補助金等)	4,901 (市全体)	総務企画課 (コミュニティ推進課)
7	自治組織等 運営活動対策事業 住民自治組織総合交付金等 (継続)	鶴岡市	平成26年度から全市統一基準とした総合交付金として自治会に交付し、行政事務の円滑化及び集落の振興並びに運営の健全化を図る。	121,715 (市全体)	総務企画課 (コミュニティ推進課)
8	災害に強いまちづくり事業 海岸地域避難路整備連携事業 補助金 (継続)	鶴岡市	海岸地域の自主防災組織が行う避難路整備を支援し、津波災害対策の強化を図る。	3,000 (市全体)	総務企画課 (防災安全課)
9	災害に強いまちづくり事業 土砂災害ハザードマップ作成 業務委託 (継続)	鶴岡市	県が指定した危険区域において、集落ごとに意見交換会を行いながらハザードマップを作成する。29年度の小菅野代・関川の作成で温海地域全域分作成完了となる。	3,000 (市全体)	総務企画課 (防災安全課)



NO	事業名 (予算書P)	事業主体	事業内容	事業費	担当課
10	温海ふれあいセンター管理運営事業 温海ふれあいセンター指定管理業務委託料 (継続)	鶴岡市	温海ふれあいセンターの維持管理・貸館業務・生涯学習事業等を温海生涯学習振興会を指定管理者とし業務委託を行う。 (期間: H28. 4. 1~H31. 3. 31)	23,245	総務企画課
11	温海ふれあいセンター管理運営事業 温海ふれあいセンター施設整備改修工事費 (新規)	鶴岡市	温海ふれあいセンター多目的ホールの舞台機構のうち設置後28年を経過し、耐用年数が過ぎた吊物装置の操作制御部の改修を行う。	7,300	総務企画課
12	生涯学習振興事業 公民館類似施設運営・活動費補助金 (継続)	鶴岡市 各自治公民館	温海地域の自治公民館における公民館運営活動に対する支援。 ・温海地域27自治公民館 9,396千円	12,096 (市全体)	総務企画課 (コミュニティ推進課)
13	生涯学習振興事業 第32回温海さくらマラソン大会への補助金 (継続)	大会実行委員会	さくらマラソン大会 4月23日(日) 温海温泉を中心としたコース 約1,700人 参加予定	665	総務企画課
14	公民館類似施設整備事業 公民館類似施設整備補助金 (継続)	鶴岡市 各自治公民館	自治公民館の新築・改築及び施設の増築・改修・修繕に対する支援。 ・釜谷坂公民館屋根葺き替え工事 955千円 (改修費総額2,365,524円)	6,000 (市全体)	総務企画課 (コミュニティ推進課)
15	重度心身障害(児)者社会参加促進事業 福祉タクシー利用料金助成費、福祉給油券助成費 (継続)	鶴岡市	・タクシー券(36枚)を交付し、利用1枚につき500円を助成。 ・ガソリン券(18枚)を交付し、利用1枚につき500円を助成。 ※タクシー券、または給油券を選択。 対象者: 身障1級~3級、療育A、精障1級の手帳保持者。	31,770 (市全体)	市民福祉課 (福祉課)
16	高齢者施設運営事業 高齢者生活福祉センター運営業務委託料 (継続)	鶴岡市 (あつみ福祉社会に事業委託)	在宅での生活に支障がある高齢者に、一定期間住居を提供し、各種相談、助言及び緊急時の対応を行う。 (温寿荘内生活支援ハウス)	3,316	市民福祉課
17	放課後児童対策事業 放課後児童対策事業委託料 (継続)	鶴岡市 (あつみ福祉社会に事業委託)	「あつみ保育園」に併設する放課後児童クラブで小学生を対象に、放課後から午後6時まで「あつみっこクラブ」を開設する。 ※利用料6,500円(兄弟2人目以降4,500円加算) ※長期休暇加算3,000円(兄弟2人目以降1,500円加算)	244,562 (市全体)	市民福祉課 (子育て推進課)
18	民間保育所等への各種補助事業 温海地域保育所通園費補助金 (継続)	あつみ福祉社会	あつみ福祉社会が行う保育園へ通園する園児の送迎事業に対して市が経費の一部を補助する。	16,219	市民福祉課

NO	事業名 (予算書P)	事業主体	事業内容	事業費	担当課
19	保健衛生一般管理費 湯之里公衆浴場改修事業 (新規)	鶴岡市 (指定管理者： 湯之里 自治会)	湯之里公衆浴場は昭和58年の開設から34年が経過し、温泉成分の影響もあり老朽化が著しく、レジオネラ菌等の発生が懸念されることから、浴槽及び建具の改修を行うことによりレジオネラ菌等の発生を抑制することにより衛生保持に努める。	1,050	市民福祉課
20	妊婦健康診査・家庭子育て機能育成事業 妊産婦サポート事業及び虐待未然防止産後母子ケア委託事業 (新規)	鶴岡市	妊産婦支援員(助産師)を配置し、全妊婦を対象に訪問等による育児の体験指導等を通じた保健指導を行う。また、家族等から産後の援助を受けることができない母子を対象に、心身の安定と育児不安を解消するため、日帰り施設において母体の回復及び養育指導を行う。	4,054 (市全体)	市民福祉課 (健康課)
21	予防接種事業 予防接種委託料等 (継続)	鶴岡市	・法に基づく予防接種。(BCG、四種混合、麻疹・風疹、日本脳炎、二種混合、ヒブ、小児用肺炎球菌、水痘、子宮頸がん、B型肝炎) ・65歳以上に対してインフルエンザ予防接種費用を助成。 ・65歳から5歳間隔で高齢者肺炎球菌予防接種費用を助成。	269,747 (市全体)	市民福祉課 (健康課)
22	健康診査事業 健康診査委託料等 (継続)	鶴岡市	がん、心臓病、脳卒中・糖尿病などの生活習慣病の予防や早期発見のため、年1回必要な健診と健診結果に基づく指導を行い、働き盛りからの健康管理と老後の健康保持に役立たせる事業	215,378 (市全体)	市民福祉課 (健康課)
23	中学生胃がん予防事業 ヘリコバクターピロリ検査等業務委託料等 (新規)	鶴岡市	死亡原因第1位のがんの中で最も罹患率の高い「胃がん」について、その原因の95%以上がピロリ菌によるものと考えられていることから、ピロリ菌を除菌することでがんの芽を早期に摘み取り、発症を予防し、胃がんの撲滅を目指す。※対象中学2年生	2,126 (市全体)	市民福祉課 (健康課)
24	塵芥収集事業 一般廃棄物収集運搬業務委託料 (継続)	鶴岡市	地域内の各家庭より排出される家庭ごみ(一般廃棄物)の収集運搬業務を委託する。	345,074 (市全体)	市民福祉課 (環境課)
25	介護予防地域活動推進事業 介護予防地域活動推進事業(地域介護予防活動支援事業)委託料 (継続)	鶴岡市 (地域の 自主団 体に事 業委託)	公民館等の施設を利用し、軽スポーツ、健康教室などの介護予防事業を実施し、高齢者の閉じこもり防止や介護予防を行うことにより生きがいをもって暮らしていただけるように支援する。また、協力員などの組織化により地域ボランティア活動を普及する。	1,100	市民福祉課
26	地域活性化事業 福栄地域協議会「福の里」地域活性化事業補助金(継続)	福栄地域協議会「福の里」	福栄地域協議会「福の里」が、自然資源を生かした体験活動・地域連携事業等の実施、ホームページを活用した情報発信、地域リーダーの育成等の活動を支援する。(支援期間：H27～H29)	400	産業建設課

NO	事業名 (予算書P)	事業主体	事業内容	事業費	担当課
27	地域活性化事業 都市・農山村交流促進事業補助金(継続)	小国ふる里振興会	小国交流促進センター及び楯山荘を活用した都市・農山村交流活動等を円滑に取り組んでいくための活動を支援する。 (支援期間：H27～H29)	450	産業建設課
28	地域活性化事業 焼畑あつみかぶブランド力向上対策事業補助金(継続)	焼畑温海かぶブランド向上対策協議会	「焼畑あつみかぶ」の品質の保持、安定生産とブランド力向上を図るため、ロゴマークを活用したPR、ブランド化について意識向上の研修会開催等の取り組みに対して支援する。 (支援期間：H24～H29)	264	産業建設課
29	経営所得安定対策推進事業 直接支払推進事業費補助金(継続)	申請農家	水田において地域の特色ある魅力的な産品の産地を創造するための取組と、需要に見合った米の安定生産を図るため交付金を交付する。	15,050 (市全体)	産業建設課 (農政課)
30	環境保全型農業直接支援事業 環境保全型農業直接支払交付金(継続)	申請農家	有機、特別栽培を基本とし、さらに環境に配慮した農業を実践するグループに対して10aあたり一定額を交付する。	134,230 (市全体)	産業建設課 (農政課)
31	中山間地域等直接支払交付金事業 中山間地域等直接支払交付金(継続)	協定集落	中山間地域における営農活動の条件不利を補正するため、第4期対策に取り組む協定集落に基準額を交付する。 15集落で取組 第4期対策 (H27～H31)	253,062 (市全体)	産業建設課 (農山漁村振興課)
32	中山間地域等直接支払交付金事業 中山間地域等持続的農地保全支援事業補助金(継続)	協定集落	国の中山間地域等直接支払制度に取り組んでいない地域において、共同活動による農業生産の維持を通じて多面的機能を確保するための活動に対して支援する。 1集落で取組 (小名部) (H28～H30)	1,444	産業建設課
33	鳥獣被害対策事業 有害鳥獣による農作物被害防止対策事業(継続)	鶴岡市 鳥獣被害防止対策協議会	有害鳥獣による農作物被害を防止するため、爆音機等の追い払い用機材の購入費や狩猟免許取得に係る経費の一部補助、サルの生息域状況調査や有害鳥獣の捕獲や追い払いを行う。	13,094 (市全体)	産業建設課 (農政課)
34	中山間集落モデル農林業実践事業 中山間集落モデル農林業実践事業(継続)	鶴岡市	温海地域における皆伐跡地での焼畑振興と再生林による森林循環システムの構築をめざし、温海町森林組合取り組む活動に対して支援を行う。(計画期間：H27～H32)	4,679	産業建設課
35	多面的機能支払活動支援事業 多面的機能支払交付金(継続)	協定集落等	地域全体で農地・農業用水路等の保全管理を行う体制を整備する共同活動と、土地改良施設の長寿命化を図るための向上活動に対し、基準額を交付する。 13集落で取組	951,762 (市全体)	産業建設課 (農山漁村振興課)



NO	事業名 (予算書P)	事業主体	事業内容	事業費	担当課
36	地籍調査費 地籍調査事業委託料ほか (継続)	鶴岡市	菅野代地区(沢口・川内 調査面積0.09km <sup>2</sup> )の一筆地調査及び測量 木野俣地区(向田・木野俣 調査面積0.09km <sup>2</sup> )の地籍簿及び地籍図の作成 (S60～H30)	2,440	産業建設課
37	林道維持管理事業 林道維持管理事業 (継続)	鶴岡市	路面が著しく損傷している林道(西山線)を修繕し車両等が安全に通行できるようにすると共に路面補修用の原材料を林道の管理団体等に支給し林道の維持管理活動を支援する。	2,286	産業建設課
38	森林整備支援事業 森林整備地域活動支援交付金 (継続)	鶴岡市	温海町森林組合が実施する森林の集約化施業の推進活動や民有林の境界明確化事業に対して支援する。	4,150	産業建設課
39	特用林産振興事業 山の幸振興対策事業 (新規)	鶴岡市	JA庄内たがわ農業協同組合が山菜苗(ワラビ等)の生産施設としてビニールハウス1棟を建設するため、その建設と生産設備の導入に対して支援する。	1,000	産業建設課
40	間伐実施推進事業 美しい森づくり基盤整備事業 (継続)	鶴岡市	温海地域の間伐を推進するため、集約化施業が困難な森林に対する間伐施業を支援する。	9,506	産業建設課
41	森林病虫害防除事業 保全松林健全化整備事業(継続) 森林病虫害等防除事業(継続)	鶴岡市	松くい虫被害木の伐倒駆除と松くい虫被害から守るための防除(薬剤の葉面散布)を行う。	1,122	産業建設課
42	森林環境教育推進事業 森林環境教育推進事業 (継続)	鶴岡市	小学生から一般参加者、漁業者などが参加し、森づくり活動や森林学習活動等を行う。 ・天魄山森林自然教室 ・鼠ヶ関小学校森林環境教室 ・サラリーマン林太郎 ・ねずがせき魚の森づくり活動	703	産業建設課
43	森林公園等施設管理事業 森林公園等施設管理事業 (一部新規)	鶴岡市	小国ふれあい公園の一部で排水が不良となっており、豪雨の際には隣接する民有地の農地が冠水するため、排水機能を改善する工事を実施する。	1,362	産業建設課
44	林道開設事業 林道念珠関線開設事業 (継続)	鶴岡市	楨代と早田を連結する新たな林道を開設する。開設工事は山形県の代行業業として全体計画の策定と開設工事を実施するが、事業の進捗に応じて市で用地取得の丈量測量と用地事務を行う。	34,656	産業建設課

NO	事業名 (予算書P)	事業主体	事業内容	事業費	担当課
45	作業道整備事業 作業道開設事業 (新規)	鶴岡市	JA庄内たがわ温海支所(園芸振興部会)が早田地内に孟宗竹の生産振興のための小規模作業道を開設するためその事業を支援する。	12,500 (市全体)	産業建設課 (農山漁村振興課)
46	水産業一般振興事業 内水面漁業振興事業(継続) 鮭資源の増殖事業(継続)	鶴岡市	内水面漁協等が行う水産資源の増殖及び漁場環境保全の取り組み活動を支援する。 ・温海町内水面漁業協同組合 ・山戸漁業協同組合 ・庄内小国川漁業協同組合	850	産業建設課
47	漁港管理事業 漁港管理事業 (継続)	鶴岡市	市が管理する漁港の維持管理・修繕を行うと共に漁港公衆トイレの維持管理を図ることで良好な漁港の保全を図る。 温福漁港船揚場改良工事 漁港公衆トイレの維持管理	2,054	産業建設課
48	漁港施設整備改良事業 大岩川漁港防波堤改良事業 (継続)	鶴岡市	老朽化した大岩川漁港の防波堤改良工事を行うことで、漁港内の静穏度を向上させ出漁時の安全性の向上と出漁回数の増加を図る。 (計画期間: H27~H29)	50,138	産業建設課
49	農山漁村振興交付金事業 関川地区地域資源活用総合交流促進施設整備支援事業(継続)	関川しな織協同組合	関川しな織協同組合が事業主体として、交流人口の拡大や「しな織」振興のための新たな施設を建設する費用の一部を支援する。 (事業予定期間: H28~H29)	31,056 (繰越予算)	産業建設課
50	地域活性化事業 あつみ体験旅行推進事業 (継続)	特定非営利活動法人 自然体験温海コーディネート	教育旅行の受入や体験交流事業の拡大による交流人口の増加を図るため、特定非営利活動法人自然体験温海コーディネートを支援し、官民一体となった取組みを展開する。 (支援期間(予定): H27~H30)	3,891	産業建設課
51	地域活性化事業 温泉街賑わいづくり促進事業 (継続)	出羽商工会 あつみ観光協会	温泉街の景観を活用したオープンカフェを中心として、各商店の活性化のための取組み(おもてなしまつり開催)を支援する。 (支援期間(予定): H27~H29) 朝市広場の活性化のための活動を支援する。 (支援期間(予定): H29~H31)	567	産業建設課
52	地域活性化事業 しなの花活用プロジェクト事業 (継続)	しなの花活用プロジェクト研究会	しなの木の花を活用した製品開発とその事業化を目指すため、関川自治会、慶應義塾大学先端生命科学研究所、企業及び行政が連携して取り組むプロジェクトを支援する。 (支援期間(予定): H26~H29)	300	産業建設課

NO	事業名 (予算書P)	事業主体	事業内容	事業費	担当課
53	地域間連携事業 あつみ温泉集客イベント実施事業(継続)	あつみ温泉魅力づくり推進委員会	あつみ温泉への誘客を促進するため、能や伝統芸能を活用した「せせらぎの能」の開催を支援する。今年度は、インバウンド対策や温泉神社の秋まつりとのコラボレーションにより、より集客効果を高めるものとする。 (支援期間(予定): H22~H31)	2,000	産業建設課
54	羽越しな布振興事業 伝統的工芸品振興事業(継続)	羽越しな布振興協議会	国の伝統的工芸品に指定されている「羽越しな布」の振興を図るため、後継者の育成、需要の拡大等に資する取組みを支援する。	350	産業建設課
55	観光一般事業 あつみ観光協会振興事業(地域観光協会等補助金)(継続)	あつみ観光協会	あつみ観光協会の運営及び協会が行う観光宣伝、誘客等の各種事業を支援し、温海地域の観光振興を図る。また、JRの豪華寝台列車「TRAIN SUITE 四季島」の乗客への「おもてなし」については、あつみ観光協会や地域住民と連携しながら対応する。	3,987	産業建設課
56	観光一般事業 にぎわいのある温泉街創出事業(温泉街環境整備等補助金)(継続)	あつみ観光協会温泉支部	鮎釣りマル特企画や温海旬御膳など、あつみ温泉街で展開される着地型観光事業を支援し、温泉街の賑わい創出と観光誘客を促進する。	575	産業建設課
57	海水浴場事故防止・環境整備事業 事故防止対策事業(継続)	鼠ヶ関自治会	マリンパークねずがせき海水浴場の安全確保及び危険防止を図るための対策を支援する。	648	産業建設課
58	日沿道新潟県境区間I・C周辺休憩施設整備事業 日沿道新潟県境区間I・C周辺休憩施設整備事業(継続)	鶴岡市	I・C周辺休憩施設関連 ・現況測量設計 ・用地測量設計 ・造成基本設計 ・運営計画検討業務	22,700	都市計画課
59	道路維持事業 交通安全施設整備工事費(継続)	鶴岡市	市道3路線 ・ガードパイプ更新 1路線 ・ガードレール更新 2路線	3,648	産業建設課
60	道路新設改良事業 道路側溝整備、道路改良(継続)	鶴岡市	市道2路線 ・道路改良 2路線(興屋17号線、西田元線)	6,000	土木課 (産業建設課)

NO	事業名 (予算書P)	事業主体	事業内容	事業費	担当課
61	橋梁新設改良事業(交付金)	鶴岡市		238,600	土木課
	橋梁改良 大清水橋(新規)		・補修工事 L=53.1m W=4.0(5.0)m		
	橋梁架替 暮坪橋(新規)		・架替設計 L=8.5m W=5.5(6.3)m		
	橋梁改良 堺橋(新規)		・補修設計 L=5.6m W=5.5(6.1)m		
	橋梁架替 岩川橋(継続)		・橋梁詳細設計(繰越) ・橋梁架替 L=39.9m ・補償、仮設道路等		
	橋梁架替 早田橋(継続)		・橋梁架替(繰越) L=9.3 W=5.0(5.5)m		
	橋梁補修 蓬萊橋(新規)		・橋梁調査(繰越) L=54.15m W=7.5(8.2)m ・歩道橋 W=1.5(1.9)m ・補修設計(新規)		
62	道路公共事業	鶴岡市		99,250	土木課
	過疎地域自立促進事業 木野俣線(継続)		・道路改良 H26~29 全体延長 L=920m W=4.0(5.0)m		
	過疎地域自立促進事業 配水池通温海岳線(継続)		・道路改良(路面流水消雪施設整備) H28~30 全体延長 L=400m W=4.0(5.0~ 6.0)m		
	過疎地域自立促進事業 早田9号線(新規)		・法面補修(調査費) H29~30 整備延長 L=70m A=1,400㎡		
	社会資本整備総合交付金事業 温海1号線(継続)		・温海トンネル補修 H28~29 L=53.9m W=3.4(4.1)m A=221㎡		
63	都市計画管理事務 報償費、費用弁償 (継続)	鶴岡市	温海地区まちづくりワークショップ	272	産業建設課
64	総合型地域スポーツクラブ 活動支援事業 総合型地域スポーツクラブ 育成支援事業(継続)	鶴岡市	「あつみスポーツクラブネクサス」について、地域における生涯スポーツの拠点として育成支援を行う。 ネクサス：912千円	5,046 (市全体)	スポーツ課
65	鼠ヶ関マリーナ管理業務 鼠ヶ関マリーナ管理運営事業 (継続)	鶴岡市	鼠ヶ関マリーナを山形県より指定管理者の指定を受けハーバーマスターを配置し、施設を管理運営する。 指定管理期間平成27年4月1日～30年3月31日	15,970	スポーツ課
66	消防施設新営改良事業 消防施設新営改良事業 (継続)	鶴岡市	消防施設の充実と非常備消防の防災体制強化のため、防火水槽、小型動力ポンプ等の整備を行う。 (五十川：小型動力ポンプ、山五十川：防火水槽1基)	58,031 (市全体)	消防本部 警防課



広報つるおか特集号

平成29年度

# 鶴岡市予算特集



田川保育園児の「なし団子ならし」



## 新年度予算について

鶴岡市長 榎本政規

### はじめに

市長に就任して以来、「鶴岡ルネサンス宣言」を市政の基本方針とし、「総合計画後期基本計画」の中で鶴岡の未来を創造する成長戦略に位置付け、それに基づき取り組みを本市の中核的取り組みとして推進してきました。

平成29年度の市政運営についても、引き続き市民・地域・行政の協調・協力による総合力を発揮しながら、総合計画の着実な推進と不断の行財政改革に取り組み、施策、事業の重点化を図ります。

少子化・人口減少対策については27年度に策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を基本に、各種取り組みを展開してきました。しかし少子化・人口減少に関する課題については一朝一夕に解決することは難しく、粘り強く継続して取り組んでいくことが肝要と考えています。

新年度予算でも少子化対策とともに、移住定住の促進や雇用の創出、小さな拠点の形成をはじめとした地域づくり等、多くの人口減少対策を盛り込み、本市の長期的重要課題として、しっかりと取り組んでいきます。

この広報では予算編成の基本的な考え方や予算の概要を説明します。

## 29年度予算編成の基本的な考え方

### (一) 次期総合計画の策定

本市の行政運営の基本となる総合計画について、計画期間が平成30年度までとなっているため、29年度に次期総合計画の策定作業に着手します。

社会経済情勢の変化や、国県の制度・施策を注視し、地域の実態把握や課題の明確化に努めます。これまで実施した施策の点検評価を行い、本市の目指す都市像や基本方針について、市民の皆さんと一緒につくり上げたいと考えています。

### (二) 行財政改革の推進

23年度から27年度までを期間とする第一次・第二次行財政改革大綱と同実施計画に基づき行財政改革に取り組みました。その結果、行財政全般の改善が進み、市民と行政との協働による事業の推進や、コミュニティの活性化に向けた環境づくりも図られてきました。人口減少の進行など今後の厳しい社会情勢を展望すれば、行財政改革に対する不断の取り組みが必要です。そのため28年度から32年度までを期間とする行財政改革推進プランを策定し、引き続き全庁を挙げて行財政改革を進めます。

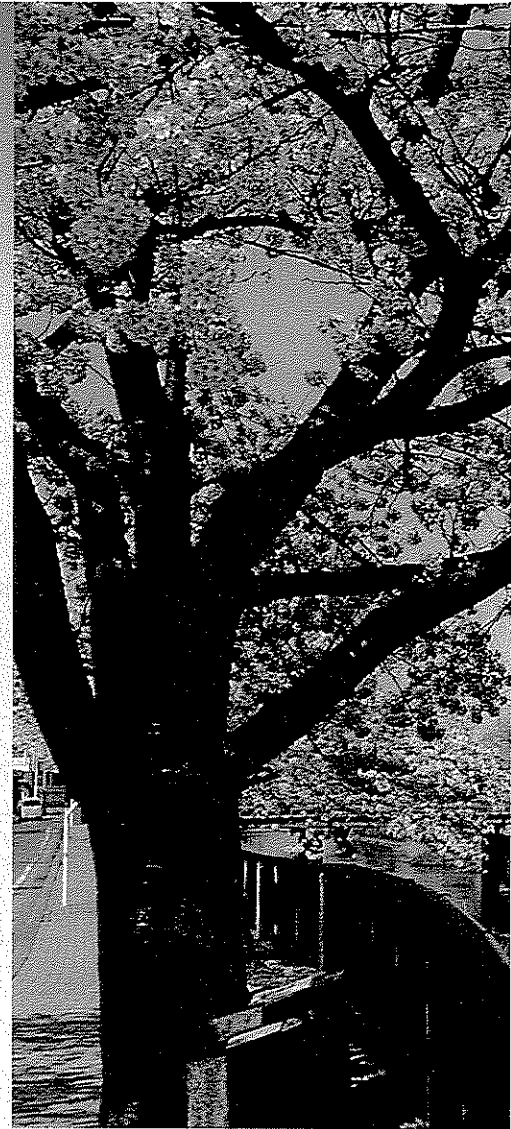
# 平成29年度予算総額 1,354億8,728万円

# 会計別内訳

( )内は対前年度当初予算比

▷一般会計	687億9,200万円	(5.3%)
▷特別会計	327億6,871万6千円	(1.1%)
国民健康保険	147億4,680万8千円	(▲1.8%)
後期高齢者医療保険	15億1,803万5千円	(4.6%)
介護保険	164億3,164万2千円	(3.5%)
休日夜間診療所	6,281万1千円	(▲0.8%)
墓園事業	942万円	(▲4.3%)
▷企業会計	339億2,656万4千円	(▲2.8%)
病院事業	162億5,098万2千円	(▲1.8%)
水道事業	48億8,490万8千円	(▲1.8%)
下水道事業	127億9,067万4千円	(▲4.4%)

- ・一般会計…市の基礎的な行政サービスを行うための会計。市税や地方交付税などを主な財源とし、市の会計の中心となる
- ・特別会計…特定の事業を行うために、特定の収入をもって行う会計。一般会計とは経理を別にし、本市では5つの特別会計を設けている
- ・企業会計…事業収益によって運営経費を賄う会計。地方公共団体が経営する企業は地方公営企業とされ、本市では3つの企業会計を設けている



## 二 予算の概要

新しい制度や組織への移行の際は、市民の皆さんに不便を来さないことはもちろんのこと、公平性を保ち、効率的な行政運営を常に心掛け、市民の負託に応えられるよう努力します。

平成29年度予算の会計別の大枠や、市の会計の中心となる一般会計の歳入・歳出の概要を説明します。

一般会計当初予算の総額は、687億9、200万円です。前年度当初予算と比較し34億9、200万円（5・3%）の増で、過去最高額となった28年度予算額を上回ります。

特別会計は、5会計の合計で、対前年度3億4、581万3千円増の327億6、871万6千円です。個別にみると、国民健康保険特別会計は、保険財政共同安定化事業拠出金の減額などで減少していますが、後期高齢者医療保険特別会計と介護保険特別会計は保険需要の増大に伴い増加傾向が続いています。

企業会計のうち病院事業会計は、医療機器整備費の減額などで対前年度2億9、613万円減の162億5、098万2千円です。水道事業会計は、建設改良事業費の減額などで対前年度8、862万5千円減の48億8、490万8千円です。下水道事業会計は、建設改良事業費の減額などで対前年度5億9、263万円減の127億9、067万4千円減の127億9、067万4千円です。

067万4千円です。

### (一) 一般会計 歳入

市税について、市民税は給与所得の源泉所得税の減額などで減収を見込みます。固定資産税は、地価の下落傾向がある一方で、償却資産について大手企業の積極的な設備投資があったことから増収を見込み、対前年度2億525万2千円増の145億946万9千円としました。

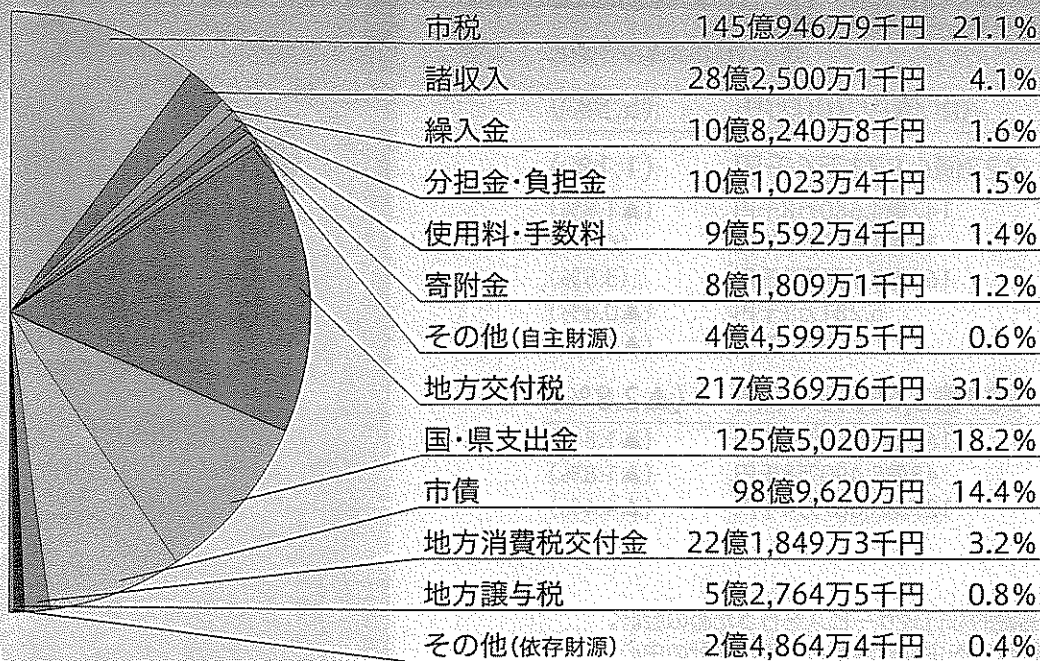
地方消費税交付金は、国の交付見通しを踏まえ、対前年度1億3、721万9千円減の22億1、849万3千円としました。

地方交付税は、国の地方財政対策による交付税の減額や合併特例期間の終了に伴う段階的縮減の影響等によって、対前年度4億9、718万2千円減の217億369万6千円を計上します。また、実質的な交付税として後年度にその全額が地方交付税に算入される臨時財政対策債は、対前年度1億1、790万円増の20億1、990万円を見込みました。

分担金及び負担金は、保育所入所者負担金の状況などによって、対前年度4、376万6千円減の10億1、023万4千円、使用料及び手数料は、対前年度1、779万7千円減の9億5、592万4千円としました。

国庫支出金は、学校施設環境改善交付金や臨時福祉給付金の事業費補助金





自主財源…31.5%  
市税や諸収入、負担金や使用料、基金からの繰入金などの自主的な収入

依存財源…68.5%  
地方交付税や国庫支出金、県支出金のように、国や県から定められた額を交付されたり割り当てられたりする収入

- ・市税、地方交付税、国・県支出金、市債…6ページの用語解説参照
- ・繰入金…特定の事業のために積み立てたお金(基金)などから繰り入れるお金
- ・分担金・負担金…特定の利益を受けた人から負担してもらうお金
- ・地方消費税交付金…消費税の一部が人口と従業員数に応じて交付されるお金
- ・地方譲与税…国が徴収した自動車重量税などから配分されるお金

の減額などによって、対前年度2億1,073万円減の71億9,084万7千円を計上し、県支出金は、農地集積協力金交付事業補助金や参議院議員通常選挙委託金の減額などによって、対前年度52億8,300万3千円減の53億5,935万3千円となりました。

寄附金は、鶴岡ふるさと寄附金の大幅な増額を見込み、対前年度4億5,300万6千円増の8億1,809万1千円としています。繰入金は、財政調整基金を繰り入れたことにより、対前年度7億7,969万円増の10億8,240万8千円となりました。

市債は、新文化会館整備や養護老人ホーム施設整備支援、屋内多目的運動施設整備等によって対前年度28億1,600万円増の98億9,620万円となりました。

なお、29年度予算の自主財源比率は、前年度の30.8%から31.5%に上昇しています。

(二) 一般会計 歳出

人件費は、事務事業や組織機構の見直しによる定員の適正化に努め、対前年度1.6%減の109億6,566万7千円となっています。

物件費は、臨時福祉給付金事業の振込手数料や燃料費、光熱水費の減額などによって対前年度0.5%減の83億1,524万7千円となりました。

維持補修費は、対前年度2.4%増

三 主要事業

の11億9,514千円、扶助費は自立支援給付事業や障害児支援事業の増額等によって、対前年度5.1%増の126億8,224千円となっています。

補助費等は、大規模事業所設置助成金や鶴岡ふるさと寄附金の返礼等の増額によって、対前年度8.3%増の8億3,593万4千円となりました。

普通建設事業は、優先度や費用対効果、整備後の維持管理経費等を精査した上で、合併新市づくりに必要な社会基盤整備や安全安心なまちづくり等に予算措置し、対前年度37.9%増の106億6,341万円となりました。

公債費は、着実に市債残高を減額し、対前年度8,887万7千円の減となっています。

なお、人件費・扶助費・公債費を合計した義務的経費は、前年度の47.3%から45.3%に低下しています。

総合計画実施計画の重点方針などに基つき、「鶴岡ルネサンス宣言」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に沿って主要事業の概要を紹介します。

(一) 鶴岡ルネサンス宣言(5つの文化都市宣言)関連事業

▼「地域の可能性を伸ばす」創造文化都市宣言

食文化分野で国内唯一のユネスコ創

歳出に占める割合

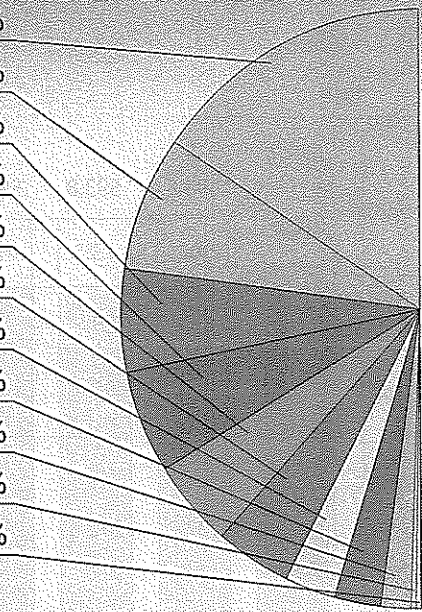
消費的経費…60.8%  
 物件費や補助費など、後年に形を残さずに消費される性質のお金

投資的経費…15.6%  
 建設事業などのように、社会資本として将来に残るものに使われる性質のお金

その他…23.6%

上記のうち  
 義務的経費…45.3%  
 人件費や扶助費、公債費のように、支出が義務付けられ、任意に節減できないお金

民生費	210億2,675万6千円	30.6%
教育費	100億5,124万3千円	14.6%
総務費	78億4,532万5千円	11.4%
公債費	76億6,928万1千円	11.1%
土木費	62億9,965万円	9.2%
衛生費	55億9,636万8千円	8.1%
農林水産業費	40億8,654万7千円	5.9%
商工費	34億7,339万2千円	5.0%
消防費	21億860万2千円	3.1%
議会費	4億659万円	0.6%
その他	2億2,824万6千円	0.4%



- ・民生費…福祉や保育などのためのお金
- ・教育費…教育などのためのお金
- ・総務費…課税・納税、職員管理などのほか、総務・企画的な業務のためのお金
- ・公債費…借金返済に充てるお金
- ・土木費…道路や橋の建設などのためのお金

- ・衛生費…健康増進やごみ処理などのためのお金
- ・農林水産業費…農林水産業の振興のためのお金
- ・商工費…商工業や観光の振興のためのお金
- ・消防費…消防や救急、救助活動などのためのお金
- ・議会費…市議会の運営のためのお金

造都市ネットワーク加盟都市であり、また食と農の景勝地であることを積極的にアピールし、食文化創造都市としての高度ブランド化と観光や農林水産業などの成長産業化、さらにはインバウンド（訪日外国人旅行）を含む交流人口の拡大に取り組みます。

具体的には、イタリア食科学大学などとの連携による高度な情報発信、食文化資源を活用した食文化体験ツアーの開催、食と風土の祭典の開催に向けた計画策定等を行います。

本市農産物の海外への販売促進では、外務省がロサンゼルスに設置するジャパン・ハウスで、本市の農産物を出展する取り組みに支援するとともに、香港市場でマーケティング調査を行う等、本市農産物の輸出状況を把握しながら、今後の事業展開を推進します。

愛称が「タクト鶴岡」に決定した文化会館の整備では、8月末の竣工に向けて屋根や外装、内装の仕上げ工事やサイン、ユニット家具の設置、外構の工事等を行います。竣工から来年3月のグランドオープンまでの期間、市民向けの内覧会を開催するとともに、竣工記念式典や市制施行記念式典、市全体での成人式を計画します。また、避難訓練を兼ねたコンサートや試験供用を行い、使い勝手などを検証しながら万全の体制で準備を進めます。

松ヶ岡開墾場については、歴史遺産として適切に保存し活用する計画を策定します。本市近代化の礎となった絹

織物産業についても、キビソを活用した新製品開発や販売促進、シルクガールズのファッションショー、蚕の飼育体験を通じたPR活動等、地域の活性化とともにその文化を後世に保存伝承します。

中心市街地活性化では、地方創生推進交付金を活用し、旧コミュニティプラザ「セントル」を新たな「まちづくりセンター」としてリニューアルします。その運営を地元商店街の若い皆さんに担っていただき、中心市街地のにぎわいづくりや人材育成等に取り組みます。

▼人と人の繋がりがから交流人口を拡大する  
 観光文化都市宣言

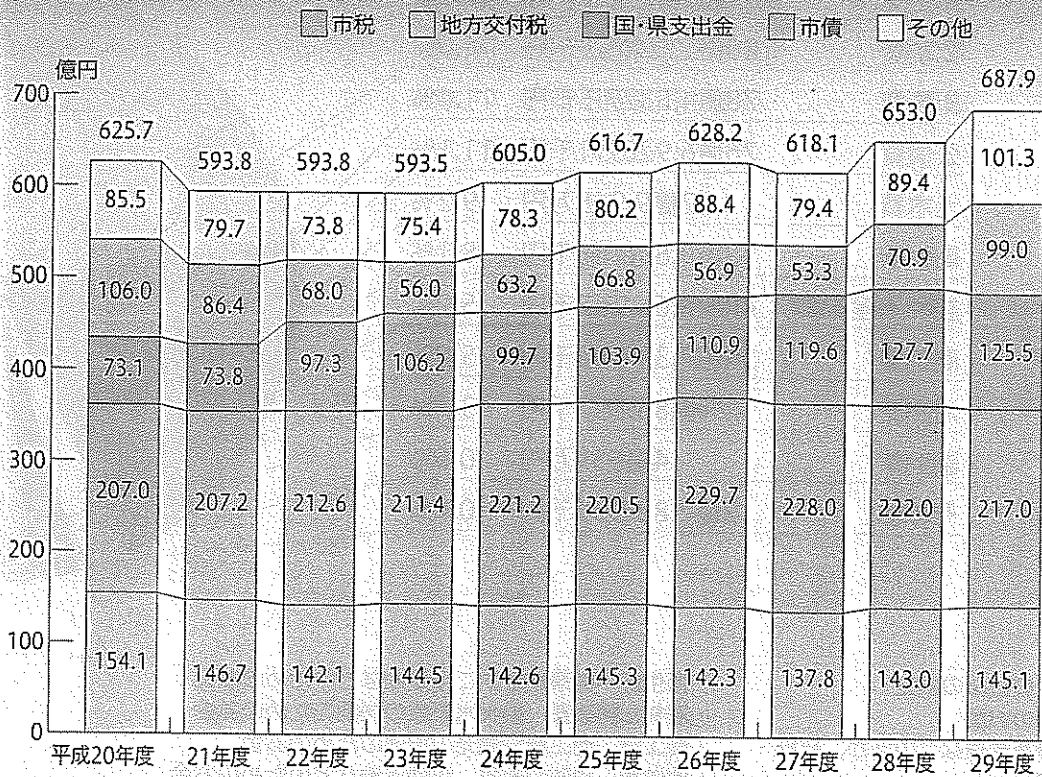
近年の外国人観光客の増加や2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックも見据えながら、国際観光の推進に力を入れます。

具体的には、鶴岡駅構内の観光案内所をマリカ東館1階に移転し、外国人向けパンフレットの配布や外国人対応スタッフの常駐等、認定外国人観光案内所としての機能充実を図ります。また、外国人青年を招致し国際交流などを推進するJET（語学指導等を行う外国青年招致事業）プログラムに基づく国際交流員の任用、新潟市と連携した海外へのプロモーション活動や情報発信への支援等に取り組みます。

食文化創造都市の推進を図るため、マリカ東館1階を本市の「食文化情報



# 一般会計歳入の構成別推移



- ・市税…市民が市に納める税金（市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、入湯税、都市計画税など）
- ・地方交付税…所得税など国が徴収した税金の中から市の財政状況に応じて交付されるお金
- ・国・県支出金…特定の事務・事業についての財源として、国や県から交付されるお金
- ・市債…建設事業や財政対策などを行うために金融機関などから借り入れるお金

発信拠点」として整備するほか、民間事業者による鶴岡の郷土料理や食材を提供する飲食店等もオープンする予定で、玄関口である鶴岡駅前のにぎわいづくりに官民一体となって取り組みます。

観光地域づくりの組織体制の構築では、ユネスコ食文化創造都市や食と農の景勝地認定等を生かした観光地域づくりを推進するため、鶴岡型DMO（観光地域づくりを持続的・戦略的に推進・けん引する専門組織）設立に向けた鶴岡市観光連盟の取り組みを支援します。宿坊街の魅力向上とにぎわいの創出では、手向地区の宿坊街で統一感のある景観形成を図るため、住民が行う修景整備を支援するとともに、景観に配慮した公共空間整備や町並み景観保全活動を支援し、観光資源の磨き上げを行います。

本市観光施設の拠点である加茂水族館には、県内外の多くの方々を訪れています。エントランスの雨よけ・風よけ対策を講じ、来館者の更なる利便性の向上を図ります。

高速交通体系の整備促進では、日本海沿岸東北自動車道の県境区間の整備に向けた要望活動を精力的に実施するとともに、鼠ヶ関地区のインターチェンジ周辺休憩施設の整備に取り組みます。

鉄道関係では、新潟駅での新幹線と羽越本線の同一ホーム乗り換え事業が平成30年度の供用開始に向けて順調に

進んでいます。これを機に更なる時間短縮と利便性の向上が図られるよう関係機関などに要望活動を行います。また、羽越新幹線の整備実現に向けて県や隣県とも連携しながら、山形県庄内地区羽越新幹線整備実現同盟会の活動を活性化していきます。

庄内空港については、市民の翼を催行し空港利用の促進に努めたほか、庄内空港利用振興協議会を中心として機材の大型化の要望等に努めました。その結果、28年夏に中型機が最大3往復導入され、利用者数が対前年度4・4%増の約38万人となりました。29年度も同協議会へ支援し、更なる利用促進に取り組みます。

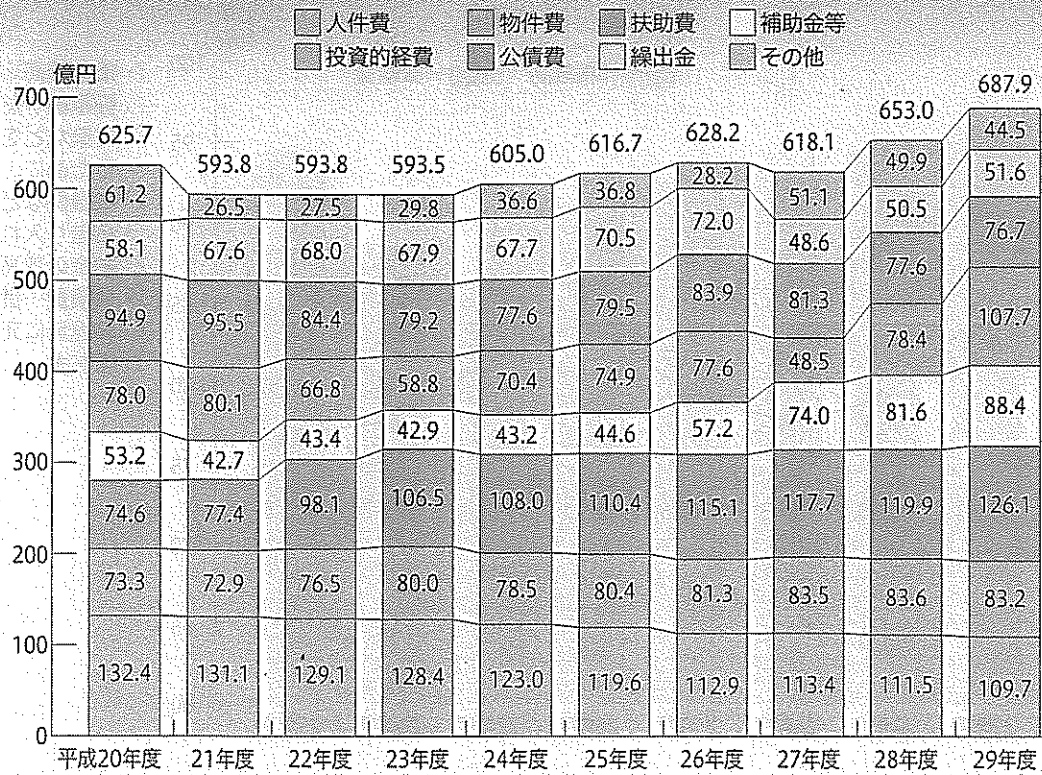
### ▼三「知」を活かす。学術文化都市宣言

先端バイオを核とした高度な産業集積の促進に加え、本市にある4つの高等教育機関での研究や地域貢献活動を支援するとともに、相互連携を一層図ります。また、鶴岡みらい健康調査や高校生バイオサミット等に取り組みほか、今後の企業や研究機関の進出に対応するため、サイエンスパークの拡張も見据えた新たな全体構想の策定に着手します。

地方創生の一環として政府関係機関の地方移転が進められており、本市では国立がん研究センターを中心とする連携研究拠点が設置されることになりました。慶應義塾大学先端生命科学研



# 一般会計歳出の構成別推移



- ・人員費…職員の給料、議員や委員の報酬など
- ・物件費…消耗品や備品の購入費用、光熱水費、施設の管理委託料など
- ・扶助費…生活保護費や保育園の委託料、乳児や重度身体障害者への医療給付費など福祉のためのお金
- ・補助費等…各種団体や病院・水道事業に対する負担金や補助金など
- ・投資的経費…道路、橋、学校など公共施設の建設経費
- ・公債費…借金の返済に充てるお金
- ・繰出金…介護保険などの給付費や下水道事業などに対して、一般会計から負担するお金

▼四、暮らし環境を整える

安心文化都市宣言

がん検診の受診率向上に向けて、日曜日がん検診や平日夕方のサンセット乳がん検診を行います。また、新たな胃がん対策として中学生の健診時に胃がんの原因とされるピロリ菌検査を実施し、除菌を支援します。健診機会の拡大やがんの早期対策を通じ、市民の健康づくりに取り組みます。

高齢者への支援では、地域包括支援センターを拠点に相談サービスの向上と総合的な支援体制の構築に努めます。また、住民など多様な団体が参画し支え合う体制づくりを推進し、地域が主体となった介護予防・日常生活支援総合事業などを進めます。

地域コミュニティ関係では、地域コミュニティ推進計画に基づき、広域コミュニティ組織の取り組みを支援するほか、コミュニティを次代へつないでいく意識を醸成するため、子供たちと地域の未来を考えるワークショップを開催します。また、コミュニティ組織

の強化に向け、今後増加が予想される小規模自治組織などを対象に、維持や活性化を議論する研修会等を開催します。

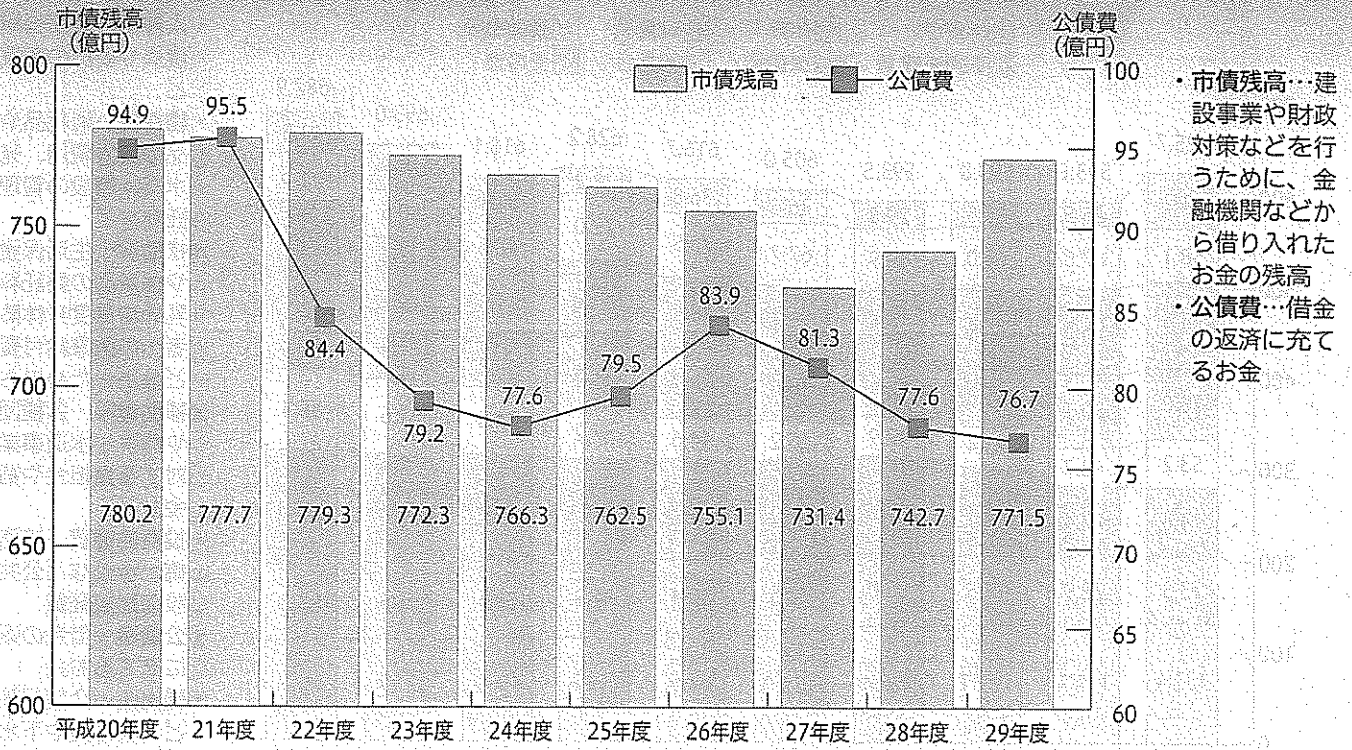
田川コミュニティセンターについては、旧田川小学校校舎を活用した整備を行います。同様に羽黒第四地区地域活動センターも、旧羽黒第四小学校の校舎を活用した整備を行います。

空き家対策では、空き家の管理が不十分な所有者などに対して適切な管理を促すとともに、必要に応じて条例に基づく応急措置を行います。また、老朽危険空き家については、住民の安全安心を確保するため、一定の要件で解体に要する経費を支援する制度を創設します。

交通輸送対策では、路線バスや地域住民主体の生活交通確保へ支援するほか、29年度から朝日地域の大鳥・上田沢線と田麦・湯殿山線の路線バスが縮減されるため、その代替措置として新たに市営バスを運行し、生活の維持に必要な移動手段を確保します。

災害に強いまちづくりの推進では、避難所などの情報を分かりやすく提供するため、土砂災害と洪水災害ハザードマップを作成するほか、自主防災組織などを対象とした図上訓練の実施、防災資機材の整備等に取り組みます。また、災害時における無人偵察機(ドローン)の活用策を検討するため、総合防災訓練で様々な場面を想定し、ドローンを用いた情報収集訓練を行います。

# 市債残高と公債費の推移



す。

## ▼五 自然と共に生きる 森林文化都市宣言

森林文化都市構想を推進するため、つるおか森の時間やつるおか森の保育等を実施します。

新たに「森林・温泉・食」を活用したウォーキングツアーを行うとともに、自然学習交流館「ほとりあ」を拠点とした自然学習や環境保全に関する市民の活動を促進します。

再生可能エネルギーの導入では、県が行う農業用水利施設を活用した小水力発電事業へ支援するとともに、水路などを活用した小水力発電設備や家庭等での再生可能エネルギー設備の導入を支援します。

過疎対策では、集落ビジョンに基づく活動支援への評価検証を踏まえ、効果的な集落対策を講じるとともに、福栄地区への地域おこし協力隊の配置や、朝日・温海地域への集落支援員の配置等、集落の維持再生に向けた取り組みを支援します。

## (二) 地域の特性を生かした振興

地域振興ビジョンに基づく各地域の活性化事業については、市町村合併の理念である多様性の発揮を実現するため、地域の特性を生かした事業を展開するとともに、地域間連携の視点での取り組み等、各地域庁舎を中心に特色

ある取り組みを進めます。

## (三) 市民・地域・行政の協調・協力

鶴岡ルネサンス宣言の行動戦略の基礎となる、市民・地域・行政の協調・協力による総合力の発揮については、鶴岡パートナーズや車座ミーティング、いきいきまちづくり事業、鶴岡まちづくり塾等、市民主体の様々なまちづくり活動を支援します。

ふるさと寄附金事業では、本市の物産や観光をPRするため、返礼品を更に充実させながら事業を推進します。

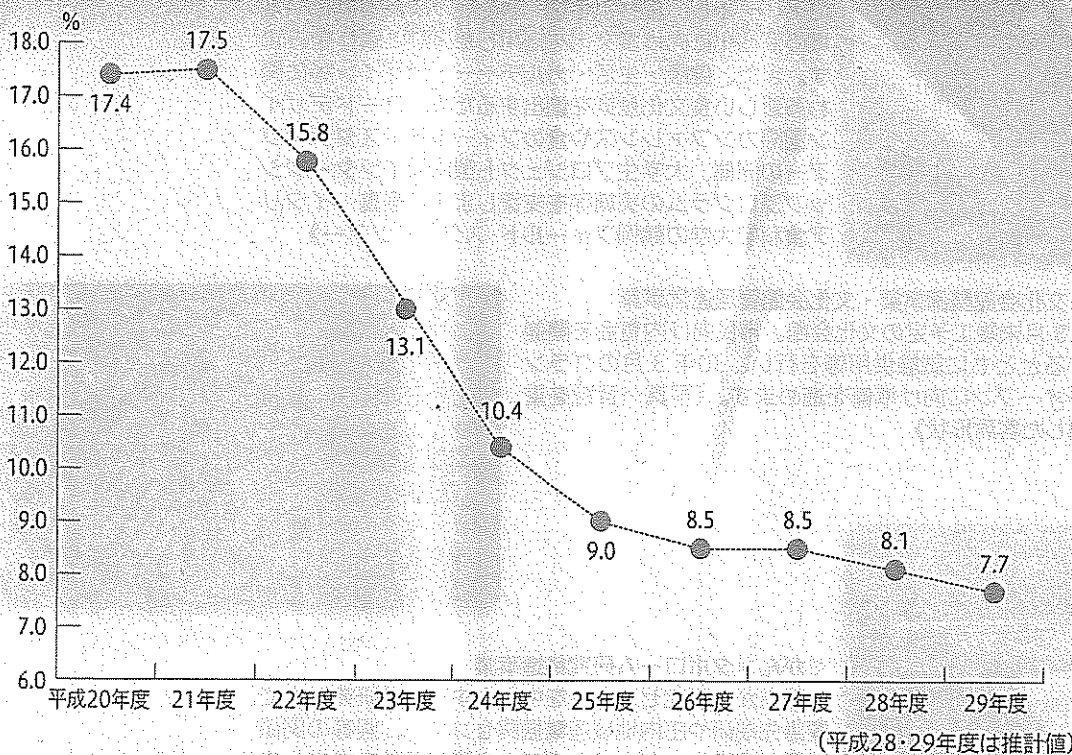
## (四) 鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進(4つの基本目標)

### ▼一 地域にしごとを増やし、安心して働けるようにする

食文化関連事業では、イタリア食料学大学との戦略的連携協定に基づく事業を、地方創生推進交付金を活用し実施します。これは、同大学の大学院生や山形大学農学部とともに鶴岡の食文化の魅力の世界視野で発掘する取り組みで、現地調査や学びの場づくり、国際会議を実施し、食文化、観光関連の新たな産業創造を目指します。あわせて、昭和女子大学のプロジェクト型インターンシップを活用し、同大学から鶴岡の食文化を素材とした新商品の開発やツーリズムモデルコースの提案を受ける取り組み等を実施します。



## 実質公債費比率の状況



・実質公債費比率…公債費や公営企業への繰出金などを含めた実質的な公債費相当額が、標準財政規模に占める割合を、3か年平均で表した指標。この比率が18%以上になると市債の発行には県の許可が必要となり、25%以上になると、一定の市債の発行が制限される

企業立地の促進では、企業の立地誘導や設備投資、本市への本社機能の移転や支店等の開設を促すための助成を行うとともに、中央工業団地での工業用水の需要の高まりに対応し、供給能力の増強を図ります。

また、地域の金融機関などと共同で、地域資源や技術等を活用して展開するビジネスプランコンテストについて、28年度のコンテストで採択されたビジネスアイデアやプランを対象に、事業化に向けた支援を行います。

域内企業への支援では、中小企業などが行う新製品開発や販路開拓、技術力向上の取り組み等を支援するほか、庄内地域産業振興センターが行う経営セミナー事業や職業能力開発講座、地域企業の自発的な業務改善活動を支援します。

農林水産業の成長産業化では、地理的表示保護制度や農業生産行程管理認証等、農業者団体などが行う特産品の高付加価値化や競争力強化を支援するとともに、つるおか農商工親連携総合推進協議会が行う新たな地域ビジネスの展開と鶴岡ツーリズムの推進を支援します。また、林業関係では、温海地域の中山間地域で農林産物栽培と林業とを組み合わせた経営モデルづくりを支援します。

### ▼二 地域への新しいひとの流れをつくる

移住希望者の総合的な相談窓口とし

て、移住コーディネーターを配置するとともに、各種フェアや移住プロモーション動画等、多様な方法で効果的に情報発信します。また、移住希望者を対象に「お試し住宅」を提供し、家賃助成等を行います。新たに本市へのU・I・Jターン就職に関心のある首都圏在住者などを対象に、本市の企業関係者と情報交換の場を提供する「鶴岡しごと体感ツアー」を実施します。

地域資源活用体験交流推進事業では、本市の先端科学や豊かな自然、歴史、文化等の地域資源を活用し、教育に関心の高い首都圏などの親子を対象としたツアーを開催し、交流拡大を図ります。あわせて、交流拡大などのプログラムを企画、運営するコーディネーターを育成します。

市営住宅を有効活用するため、高齢者に敬遠されがちな上層階の空室を改修し移住者にお試し住宅として提供します。

大学などを卒業した若者の地元回帰を促進するため、県と協調し奨学金の返還支援を行うとともに、若者の意向把握や地元就職への働き掛け、首都圏での地元就職セミナーや、女性を対象とした仙台での同セミナーを実施します。

### ▼三 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

母子保健コーディネーターや妊産婦支援員を配置し相談支援体制を強化し

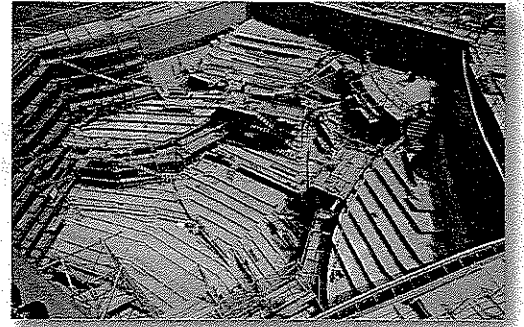
# 平成29年度の主な取り組み



＜食文化創造都市推進事業・食文化産業創造推進事業  
「世界の食文化創造都市」であることを国内外に強力にアピールし、農林水産業・観光等の成長産業化や地域の活性化に向け食文化を活用した事業に取り組みます。また、健康・生活・カルチャー・デザイン等に関わる新しい食文化産業を創出するため、フードデザイン国際カンファレンスや食のフィールド・スタディツアーの開催、大学生プロジェクト型協働インターシッププログラムの実施等を支援します。《写真…イタリア食科学大学の鶴岡フィールド・スタディツアー》

## ▷文化会館整備事業・文化会館管理運営事業

8月末竣工予定の文化会館。市民向け内覧会を開催するとともに試験供用等を行い、30年3月のグランドオープンに向け準備を進めます。《写真…音響を重視した客席形状》



## ＜がんメタボローム研究推進事業

国立がん研究センターを中心とする連携研究拠点で、慶應先端研や庄内地域産業振興センター、県等の関係機関が連携し、がんメタボローム研究活動を推進します。《写真…慶應義塾大学先端生命科学研究所、鶴岡市先端研究産業支援センター、Spiber(株)本社研究棟》

ます。支援が必要な妊産婦に対して訪問を通じた保健指導や、乳児への虐待を未然に防止する対策として、家族などから産後の援助が受けられない母子を対象に、日帰り施設での養育指導を実施する等、産前産後のサポートを充実します。また、特定不妊治療費を助成します。

子育て世帯の負担軽減では、第3子以降の保育料を無料化するとともに、中学3年生までの医療費自己負担額の完全無料化も行います。

子育て支援では、子ども家庭支援センターを拠点に、先輩ママによる支援の強化や、父親が育児参加する機会づくりに取り組みます。子供のための屋内遊戯施設については、民間事業者の整備計画が具体化しつつあるため、こうした動きと連携しながら整備を支援する等、実現に向け取り組みます。

婚活支援では、つるおか婚シェルジュによる結婚を後押しする活動を支援します。

## ▼四 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る

コンパクトシティの形成に向け、銀座通りや内川沿いエリアでの民間主導によるまちなか居住整備を推進するため、民間事業者などを対象とした相談会や検討会を開催するほか、駅前商業施設跡地の需要調査に基づく整備を検討します。あわせて、空き店舗、空き家等の遊休不動産を活用し価値を高め

るリノベーション事業に取り組み、若者層を主体とした人材育成や事業創出を図ります。

集落生活圏の維持に向けた小さな拠点の形成では、大網地区をモデルに、試行的に地域内交通や買い物支援に取り組むとともに、旧大網小学校の活用を検討します。

## 四 各種施策の概要

これまで紹介した事業以外の重要施策などについて、鶴岡市総合計画の施策の大綱(6分野)に沿って紹介します。

### (一) 市民生活分野

○地域防災体制の強化 移動系の防災行政無線について、国の規則改正に伴い現在のアナログ式無線機器などが平成34年12月以降使用できなくなるため、無線機器等のデジタル化を進めます。

○消防救急体制の強化 車両の整備や消防施設の新営改良、救急救命士の養成等に取り組みます。

○自然や生態系の保全 生物多様性地域戦略を新たに策定し、庄内自然博物館構想や森林文化都市構想の各種事業等を体系的に整理します。

○新しいごみ焼却施設の整備 用地測量や整備・運営事業者を選定するため準備作業等を実施しており、33年度の供用開始を目指し、着実に整備を進めます。



#### ◁特産物販売促進支援事業

本市農産物や農産加工品等の普及と消費拡大のため  
 トップセールスを実施するとともに、首都圏で開催さ  
 れる展示商談会、観光物産展等への出展、海外への販  
 路拡大を支援します。また、本市で開催される「第3  
 回全国メロンサミット」を通して、メロン産地間で情  
 報交換を行うとともに本市メロンの魅力を発信します。  
 《写真…大田市場での市長トップセールス》

#### ▷「小さな拠点」づくり推進事業

過疎地域における生活機能の集約と生活交通の確  
 保を図りながら、住民や地域団体が中心となって行う  
 安心して暮らせる生活基盤の維持・強化に向けた取り  
 組みを支援します。《写真…小さな拠点づくりワーキン  
 グ》



#### ◁交通輸送対策事業

路線バス、藤島地域のデマンド交通（利用者がある  
 場合のみ運行する仕組み）、西郷地区のボランティア  
 輸送に対する支援や羽黒・朝日地域の市営バスの運行  
 等、市民の生活交通を確保する取り組みを進めます。

○一般廃棄物の最終処分場の整備 現  
 在使用している岡山地区の最終処分場  
 は稼働して二十年が経ち、数年以内で  
 埋め立て量が満杯となる見込みのため、  
 新たな処分場の整備を進めていきます。

#### (二) 健康福祉分野

○出産・子育て 子ども・子育て支援  
 新制度に基づき、関係事業者への支援  
 を充実するとともに、子供たちの健や  
 かな成長のための各種事業を、家庭、  
 事業者、地域と連携して実施します。

老朽化が課題の南部保育園の改築整  
 備について、31年度開園に向けて着手  
 します。

○健康づくり 総合保健福祉センター  
 を拠点に、健康、医療、福祉の総合力  
 が一層発揮されるよう、健康教育・相  
 談事業を行います。

28年度に策定した歯科口腔保健行動  
 計画に基づき、歯周疾患検診受診状況  
 調査などを実施します。

○地域福祉 福祉アドバイザーの設置  
 や地域福祉リーダーの育成を通して、  
 住民協働による福祉コミュニティの構  
 築を図ります。

○低所得者福祉 生活困窮者自立支援  
 法に基づき、相談支援体制を強化する  
 とともに、生活保護に至る前段階での  
 自立支援の強化を図ります。

○障害者福祉 障害者差別解消法に基  
 づいた合理的配慮に対応するため、市  
 の窓口対応に万全を期すとともに、障

害者優先調達に関する周知を強化しま  
 す。また、次期障害者計画及び障害福  
 祉計画の策定のため、必要な基礎調査  
 を実施します。

○高齢者福祉 市民への啓発や事業所  
 に対する各種研修等を通して介護保険  
 法の理念や制度等を周知し、公平公正  
 なサービスを確保するとともに、制度  
 への信頼性を高めながら介護給付の適  
 正化に取り組みます。また、各種実態  
 調査や意見聴取等を行い、第7期介護  
 保険事業計画及び高齢者福祉計画を策  
 定します。

認知症対策では、医療機関や地域の  
 支援機関とのつなぎ役となる認知症地  
 域支援推進員を中心に、認知症高齢者  
 とその家族を支える仕組みづくりを進  
 めます。

○医療提供体制の充実 荘内病院では、  
 基幹病院として高度で良質な医療の提  
 供に努めるとともに、修学資金制度な  
 どによる医師確保対策、高度医療機器  
 等の計画的な整備を進めます。また、  
 南庄内緩和ケア推進協議会の活動を通  
 じ、がん患者やその家族のサポート体  
 制の充実を図ります。

#### (三) 教育文化分野

○学校教育 地元の児童生徒が地域へ  
 の理解を深め、愛着を育む観点から、  
 小学生が鶴岡の良さに触れ、地域を学  
 ぶ機会として、『親子で楽しむ庄内論  
 語』の活用や小学校スキー教室を行い

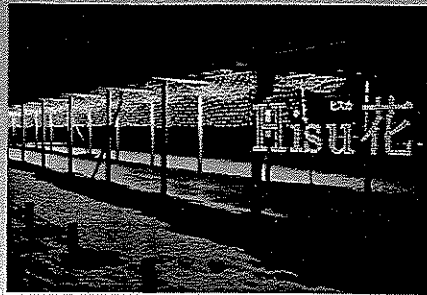


# 各地域の 取り組み



△松ヶ岡地域振興ビジョン推進支援事業  
(雪灯籠まつり)

松ヶ岡開墾場を活用した地域住民や事業者の取り組みを支援し、地域の魅力をPRします。《写真…松ヶ岡開墾場のライトアップ》



△藤島歴史公園の観光拠点化・魅力アップ促進事業

愛称が「Hisu花（歴史と藤の花にあふれるユートピア）」に決定した同公園の魅力を創出するため、イルミネーションや花美化活動等を市民協働で行います。《写真…藤棚のイルミネーション》

ます。また、新聞を生きた教材として活用し、郷土に対する愛着や関心を深める取り組みを試行します。

就学扶助では、準要保護児童などへの新入学用品費の支給時期について、これまで入学後の支給を入学前に前倒して支給できるよう改善します。

学習環境を充実するため、国が指定する英語教育強化地域拠点としての取り組みなどを通して、小学生からの英語教育の充実を図ります。外国籍子女などが安心して学べる環境を整備するため、国際学級設置に向けた調査研究に取り組みます。

学校の適正配置では、京田小学校と栄小学校、藤島小学校と長沼小学校及び羽黒第一小学校と羽黒第二小学校の統合に伴う所要の経費を予算措置します。

学校施設関係では、鶴岡第三中学校の改築について、30年度2学期の開校に向け、万全を期して整備を進めます。また、老朽化が進んでいる大山小学校の体育館と鶴岡第四中学校の暖房設備を改修するほか、学校施設の安全性と適切な学習環境を確保するため、所要の整備改修を行います。

○文化 藤沢周平記念館では、藤沢周平氏没後20年特別企画展を開催するとともに、29年は生誕90年を迎えることから、その特別企画展を開催します。

図書館では、特別な支援を要する子供たちのための図書などを購入して学校に貸し出す等、子ども読書活動推進

計画に基づく取り組みを進めるほか、著名な作家を招き小説を学ぶ講座等を開催します。

市民の芸術活動の環境づくりでは、鶴岡アートフォーラムを拠点として市民の創作活動の活発化に努めるほか、芸術文化協会と連携し本市の芸術文化の振興に努めます。

歴史的文化資源の保存継承では、国指定名勝である金峯山の保存活用計画を29年度に策定する予定で、同計画に基づき、地元団体とともに適切な保存活用を図ります。

30年度に明治維新150年の節目を迎えることから、記念事業の開催に向けた取り組みを行います。

○スポーツ テニスやフットサル等で利用できる屋内多目的運動施設の整備に着手するため、用地取得や地質調査等を実施するとともに、老朽化が進む小真木原総合体育館のエレベーター等の改修を行います。また、本市ほか県内2市で開催される南東北インターハイのパドミントン競技の開催を支援するとともに、東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせたホストタウン推進事業としてドイツ、モルドバとの交流や事前合宿などの誘致に取り組みます。

## (四) 農林水産分野

○担い手育成 山形大学農学部を中心とした地域の関係機関や企業等による

地域定住農業者育成コンソーシアムを核に、総合的な人材育成を支援します。経営体育成支援事業などの補助事業を活用して機械や施設等の整備補助を行うとともに、青年就農給付金による支援や担い手への農地集積・集約等を支援します。

○地域特性を生かした農業振興 水田を有効利用した畑作物の生産振興や園芸特産物の産地形成を図るための支援のほか、本市の貴重な資源である在来作物の生産と販路拡大のための支援を行います。また、本市で開催予定の第3回全国メロンサミットの取り組みを支援します。

○環境保全型農業 鶴岡市環境保全型農業推進計画に基づき、全市的な取り組みを促進し、農産物認定認証事業を推進します。

○中山間地農業 直接支払交付金事業を推進するほか、鳥獣被害防止のための捕獲業務などの対策実施隊の運営や対策協議会への支援等を行います。

○畜産関係 優良牛などの導入確保を推進し、畜産農家の経営安定に向けた支援を行うとともに、耕畜連携を推進します。

○農業基盤維持・整備 多面的機能支払活動支援事業を通じて地域での維持管理活動を支援するほか、水田畑地化基盤強化対策事業、県営基幹水利ストックマネジメント事業、県営経営体育成基盤整備事業、農村地域防災減災事業等を促進します。



#### △あつみ体験旅行推進事業

農村・漁村地域の豊かな自然や文化を活用した体験メニューの磨き上げや掘り起こし、関連団体間の連携強化などに取り組み、体験型旅行誘致による地域振興を図ります。《写真…山五十川の能&歌舞伎体験》



#### △地域農産物生産出荷促進事業

産直が主体となり、朝日地域の山間部集落から農林産物を集荷し、市街地での移動販売を行います。《写真…南銀座通りで実施した移動販売》



#### △能楽青年交流事業

首都圏から大学の能楽研究会の合宿を誘致し、黒川能役者との交流や本市の魅力発信を行う事業を支援します。《写真…法政大学能楽研究会黒川合宿》

○林業 念珠関線、大坂山天狗森線をはじめとする林道や作業道等の路網整備のほか、森林組合などによる間伐や森林整備の活動支援、急速に被害が拡大している松くい虫対策等を実施します。

○水産業 新たに独立経営を行う漁業者へ漁船取得費用などを助成するほか、県漁協が行う村山地区などの内陸部への販路拡大の取り組みを支援する等、地元水産物の消費拡大に向けた事業を進めます。油戸海岸の消波ブロックの改良工事や大岩川漁港の防波堤の整備、県への事業費負担による由良漁港などの整備を行います。

クロダイが市の魚に制定されたことを踏まえ、そのPRと交流人口の拡大を目的に開催する全国クロダイ釣り大会の取り組みを支援します。

#### (五) 商工観光分野

○中心市街地活性化 街中のにぎわいづくりを進める中心商店街や各種団体が連携するイベント開催や空き店舗活用等に取り組みTMO事業を支援します。

○テーマ型・体験型観光の充実 鶴岡食文化創造都市推進協議会、つるおか農商工観連携総合推進協議会、鶴岡市観光連盟や各観光協会等が実施する各種取り組みを支援します。効果的に観光情報を発信するため、鶴岡ふるさと観光大使による情報発信や英語版も含

めたホームページの活用、鶴岡観光プラザでの観光案内、伝統工芸品の紹介等に取り組みます。

○広域連携を生かした観光の充実 庄内観光コンベンション協会や月山の日本ジオパーク認定に向けた関係市町村との連携など、広い視野での観光振興を推進します。

○温泉街のにぎわい創出 各種イベント、キャンペーン、活性化のための環境整備等を支援します。

○各地域の祭り・集客交流の充実 まつり振興事業による夏のお祭りウィークなど各地で開催される祭りを支援します。また精進料理を通じた宿坊街への誘客支援に取り組みます。

#### (六) 社会基盤分野

○都市計画 歴史的風致形成建造物に指定の建物の保全・活用に向けた改修などに支援するほか、茅原北土地区画整理事業を支援します。

○公園 本町二丁目の街区公園の整備や、公園施設の長寿命化計画に基づく遊具やトイレの改修等を行うほか、鶴岡公園の正面広場整備や桜の更新計画の策定を行います。

○道路・橋りょう 優先度や緊急度等を考慮しながら、整備や長寿命化対応を進めます。また、中心市街地区の一方通行解除に向けて、都市計画道路山王町本町線の整備などを進めます。  
○住宅 地域住宅リフォーム支援事業

を実施するほか、市営住宅では、その適切な維持管理に努めます。

○水道事業 効率的な事業運営に努めるとともに、老朽化した水道管の耐震管への更新を計画的に推進します。

○公共下水道・集落排水事業等 未整備地区の汚水・雨水の管渠整備のほか、長寿命化計画に基づく各施設などの改築更新やアセットマネジメント(資産の管理・運用体制)構築を推進します。農業集落排水事業では、羽黒地域と櫛引地域の処理施設の統合事業に取り組みます。

#### むすびに

以上、平成29年度の予算と主要事業の概要を紹介しました。

限られた予算と人員でこれらの事業を推進し最大限の成果を上げていくためには、職員の資質向上が必須条件です。市人材育成基本方針に基づき、職員の育成に一層努力します。また、国や県をはじめ市政推進に係る動向を的確に把握するため、職員の人事交流などを通じてネットワークづくりを強化するとともに、職員が常にアンテナを高くして情報収集に努めるよう督促します。

地域の実態把握に努め、本市にとって望ましい政策、制度等について調査研究を行い、国や県へも積極的に提言し、地域の振興発展と市民サービスの向上を図られるよう努めていきます。



# 平成29年度の主な事業

## ◆鶴岡ルネサンス宣言関連事業

◎創造文化都市宣言事業	
食文化創造都市推進事業	3,780万6千円
食文化産業創造推進事業	4,400万円
食と風土の祭典推進事業	1,322万6千円
農商工親連携推進事業・農業6次産業化推進事業	737万8千円
特産物販売促進支援事業	1,184万4千円
鶴岡シルクタウン・プロジェクト推進事業	540万9千円
松ヶ岡地域振興事業	1,105万3千円
鶴岡まちづくりブランディング事業	2,650万9千円
文化会館整備事業	43億5,519万5千円
文化会館管理運営事業	1億6,216万8千円
◎観光文化都市宣言事業	
観光一般事業	8,434万2千円
観光文化都市つるおか交流推進事業	1,919万1千円
国際観光推進事業	8,712万3千円
加茂水族館管理運営事業	1億117万7千円
高速交通・鉄道在来線振興事業	1,220万3千円
◎学術文化都市宣言事業	
先端生命科学研究所支援事業	3億5,087万8千円
新産業創出地域基盤事業	4,241万3千円
先端研究産業支援センター管理運営事業	1億5,266万8千円
高等教育機関連携促進事業	443万5千円
がんメタボローム研究推進事業	1億5,367万7千円
◎安心文化都市宣言事業	
がん検診受診率向上対策事業	768万6千円
中学生胃がん予防事業	212万6千円
各種健康診査事業	3億1,534万8千円
地域包括支援センターの体制強化	1億7,762万2千円
広域コミュニティ推進事業	3億1,327万2千円
コミュニティセンター整備事業	2億6,143万9千円
空き家対策事業	693万円
交通輸送対策事業	1億7,580万5千円
災害に強いまちづくり事業	1,890万6千円
防災行政無線整備事業	1,150万円
◎森林文化都市宣言事業	
庄内自然博物館構想推進事業	2,073万7千円
森林文化都市構想推進事業	95万2千円
つるおか森の保育事業	182万4千円
地域住宅活性化事業	1億675万8千円
地域エネルギービジョン推進事業	552万4千円
過疎対策推進事業	1,289万1千円
◆まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進	
企業立地促進事業	6億9,830万6千円
地域内企業の高度化、企業活性化支援事業	3,793万5千円
地域定住農業者育成プロジェクト事業	300万円
移住・定住促進事業	792万1千円
地域資源活用体験交流推進事業	1,520万円
地元出身学生等帰郷促進事業	503万6千円
「ふるさと鶴岡を愛する子ども」育成推進事業	1,265万9千円
妊婦健康診査・家庭子育て機能育成事業	9,633万5千円
特定不妊治療費助成事業	1,110万2千円
第3子以降の保育料無料化	1億5,700万円
子育て支援医療給付事業	4億5,403万4千円
婚活支援事業	424万3千円
「小さな拠点」づくり推進事業	816万8千円
◆市民・地域・行政の協調、協力	
鶴岡パートナーズ推進事業	300万円
ふるさと寄附金事業	5億3,318万8千円
東京事務所各種活動事業(市政報告会)	374万5千円

いきいきまちづくり事業	525万1千円
男女共同参画推進事業	57万2千円

## ◆各地域の特性を生かした振興

地域活性化事業	2,143万7千円
地域間連携事業	200万円

## ◆地方分権改革への対応と行財政改革の推進

鶴岡市総合計画進行管理事業	784万3千円
行財政改革推進事業	12万6千円
定住自立圏構想推進事業	47万3千円

## ◆分野別の事業

◎市民生活分野	
地域コミュニティ再生事業	1,139万円
生涯学習振興事業	1億4,719万2千円
消防施設新宮改良事業	5,818万2千円
ごみ焼却施設整備事業	2,385万9千円
一般廃棄物最終処分場整備事業	2億1,320万5千円
◎健康福祉分野	
保育サービス関連事業	42億1,759万4千円
公立保育園移転改築事業	4,396万8千円
放課後児童対策関連事業	2億4,456万2千円
健康教育・相談事業	221万3千円
福祉のまちづくり総合推進事業	173万1千円
障害者施設推進事業	207万6千円
介護保険料軽減強化事業	2,150万5千円
認知症対策関連事業	435万7千円
養護老人ホーム施設整備支援事業	10億8,520万円
屋内遊戯施設整備支援事業	1億円
◎教育文化分野	
教育指導事業(新聞活用教育研究モデル事業)	14万4千円
特別支援教育充実事業	6,978万9千円
統合学校・地域支援事業	1,469万1千円
鶴岡第三中学校改築事業	2億1,687万4千円
小・中学校大規模改修事業	1,108万円
屋内多目的運動施設整備事業	1億7,728万円
鶴岡ホストタウン推進事業	203万6千円
◎農林水産分野	
経営体育成支援事業	6,199万6千円
中山間地域等直接支払交付金事業	2億5,650万6千円
鳥獣被害対策事業	1,309万4千円
多面的機能支払活動支援事業	9億5,526万2千円
森林病害虫等防除事業	1,457万9千円
漁港施設整備改良事業	5,013万8千円
油戸海岸保全施設改良事業	2,013万円
全国クロダイ釣り大会開催事業	100万円
◎商工観光分野	
金融対策事業	16億4,392万1千円
産業人材育成支援事業	1,095万9千円
商店街振興対策事業	744万4千円
ビジネスプランコンテスト全国公募事業	80万円
まつり振興事業	3,458万3千円
観光文化都市つるおか交流推進事業(鶴岡型DMO育成支援事業の推進)	500万円
◎社会基盤分野	
鶴岡市歴史的風致維持向上計画事業	4,618万9千円
鶴岡市茅原北土地区画整理事業	2億597万円
日沿道新潟県境区間IC周辺休憩施設整備事業	2,280万5千円
道路公共事業・道路新設改良事業	8億2,936万3千円
都市計画道路山王町本町線整備事業	3億7,510万3千円
除雪対策事業	6億251万7千円
市営住宅新宮改良事業	7,380万円
公共下水道・集落排水・浄化槽事業	28億6,819万9千円

鶴岡市の財政・予算及びこの特集について、詳しくは本所財政課へ

☎25-2111内線350 ✉zaisei@city.tsuruoka.lg.jp

【温海の平均人口は約1,500人】

## 平成29年度 第1回温海地域振興懇談会

# 温海地域人口等 基礎データ

人口・世帯数の推移	1P
人口ピラミッド	2P
高齢者人口等の推移	3P~4P
要介護認定者数の推移	5P
出生数の推移	6P

平成29年7月21日（金）

温海庁舎 市民福祉課

## 【温海地域人口等の概要】

平成 29 年 4 月 1 日現在

### ●人口推移

人口は 7,621 人。年間約 200 人ずつのペースで減少している。

### ●世帯数推移

世帯数は 2,819 世帯。年間約 20 世帯ずつのペースで減少している。

### ●人口ピラミッド

全体的に頭でっかちで、団塊の世代が多くいることと、女性の高齢者が多い。20代と年少者が少ないことが目立つ。

### ●高齢者（65歳以上）人口等の推移

高齢者人口は 3,319 人、高齢化率は 43.6%。人口減少に伴い高齢化率が毎年上昇している。市平均 32.9%を 10%上回っている。

後期高齢者人口も 1,873 人で後期高齢化率は 24.6%。同様に市平均 18.0%を上回っている。

一人暮らし高齢者世帯、高齢者のみ世帯も年々増えており、合わせて 830 世帯となっている。

### ●要介護者数推移

要介護認定者は昨年度より 21 人減で認定率は 21.2%となっている。市平均 21.0%とほぼ同程度。

### ●出生数

出生数は 22 人で前年より 10 人減少。今年も 5 月末現在 9 人となっている。

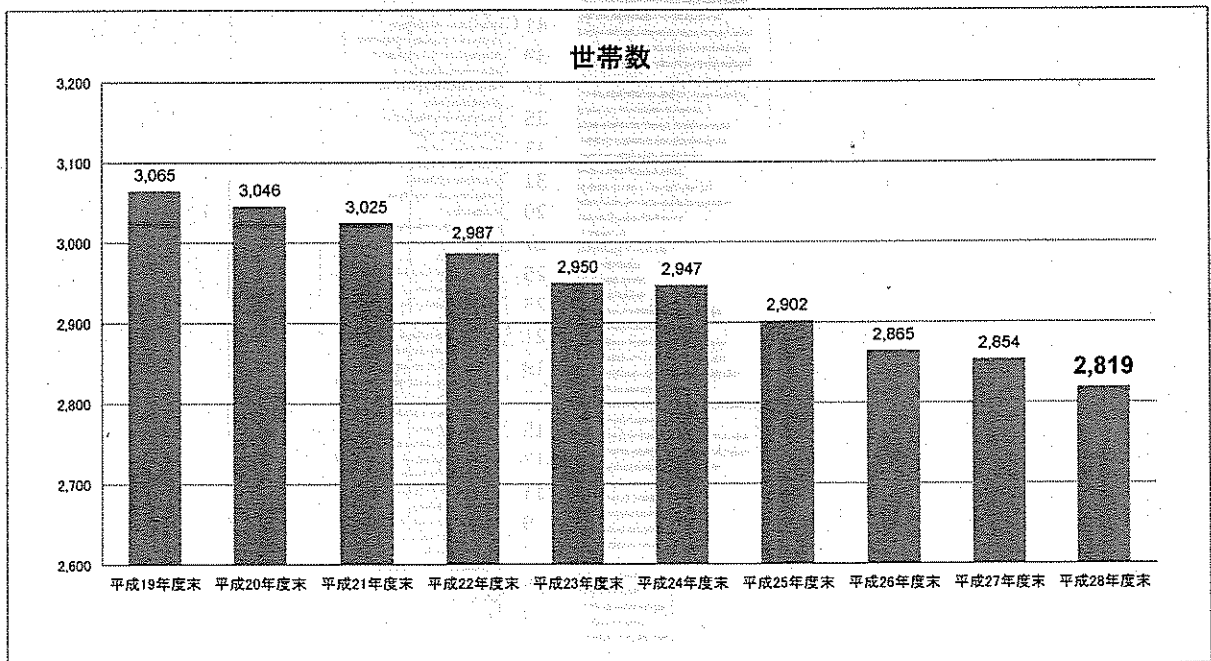
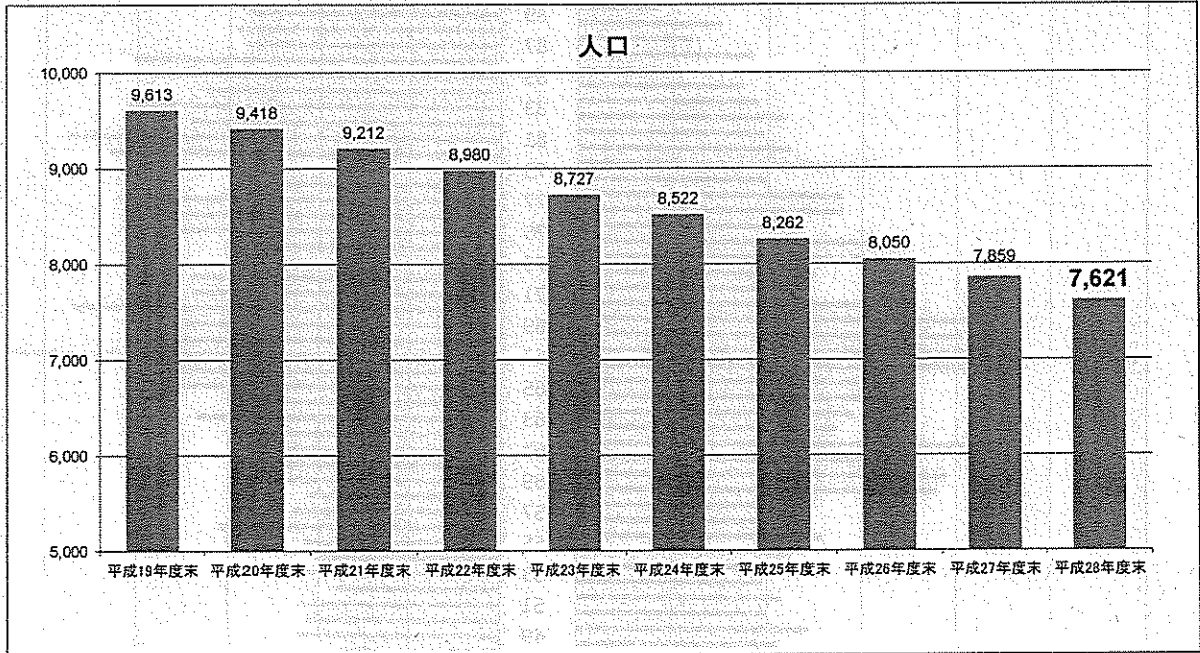
(金) 日 1 5 月 1 年 29 平

豊後市 豊後市

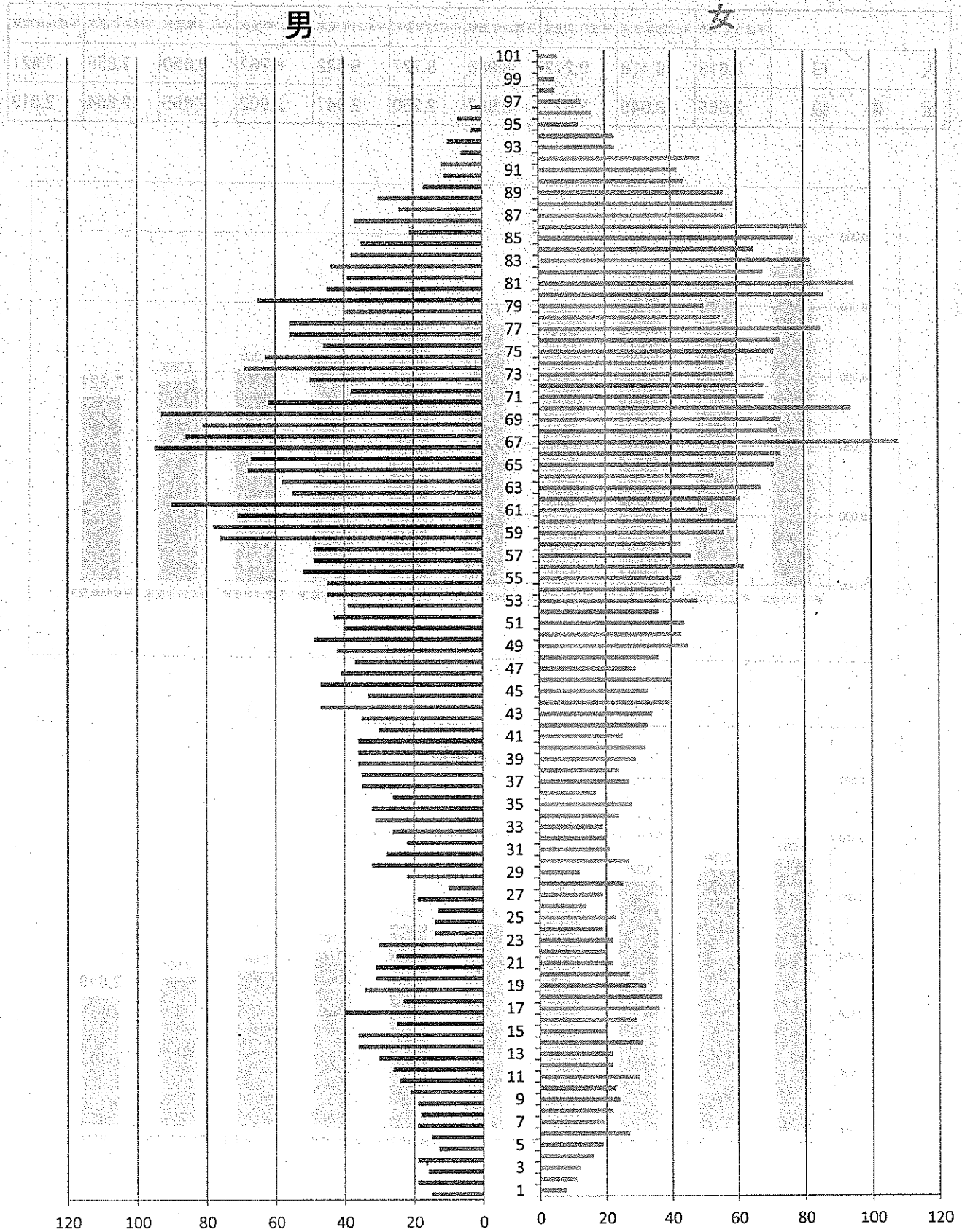


## 温海地域人口・世帯数の推移

	平成19年度末	平成20年度末	平成21年度末	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末
人 口	9,613	9,418	9,212	8,980	8,727	8,522	8,262	8,050	7,859	7,621
世 帯 数	3,065	3,046	3,025	2,987	2,950	2,947	2,902	2,865	2,854	2,819

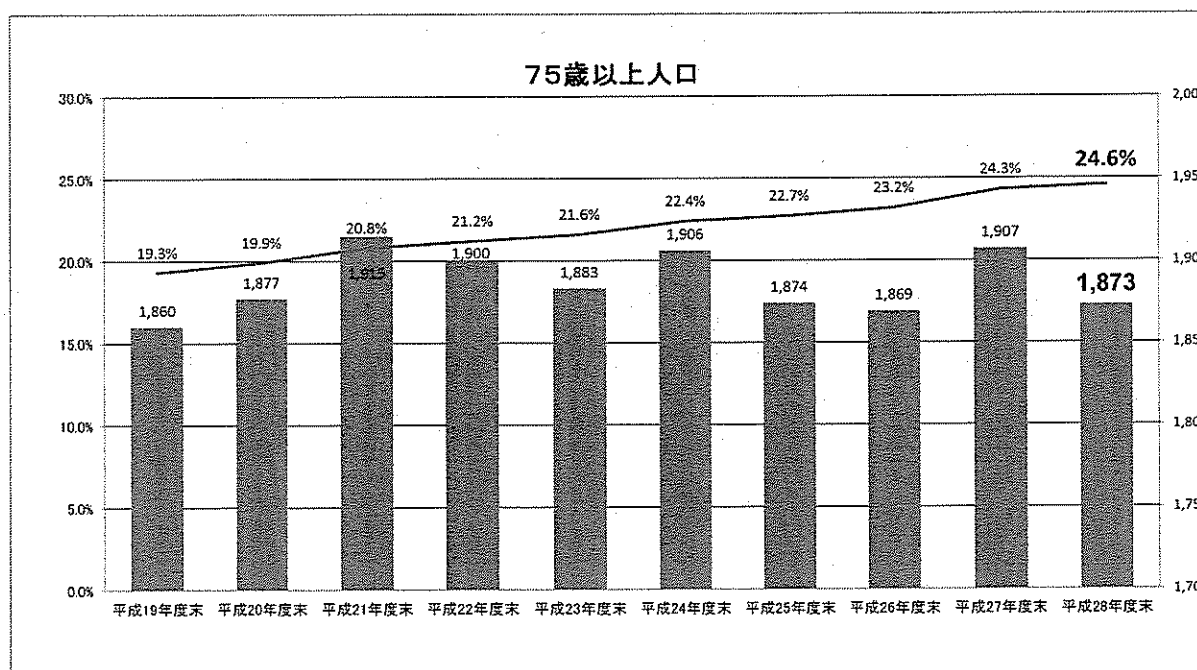
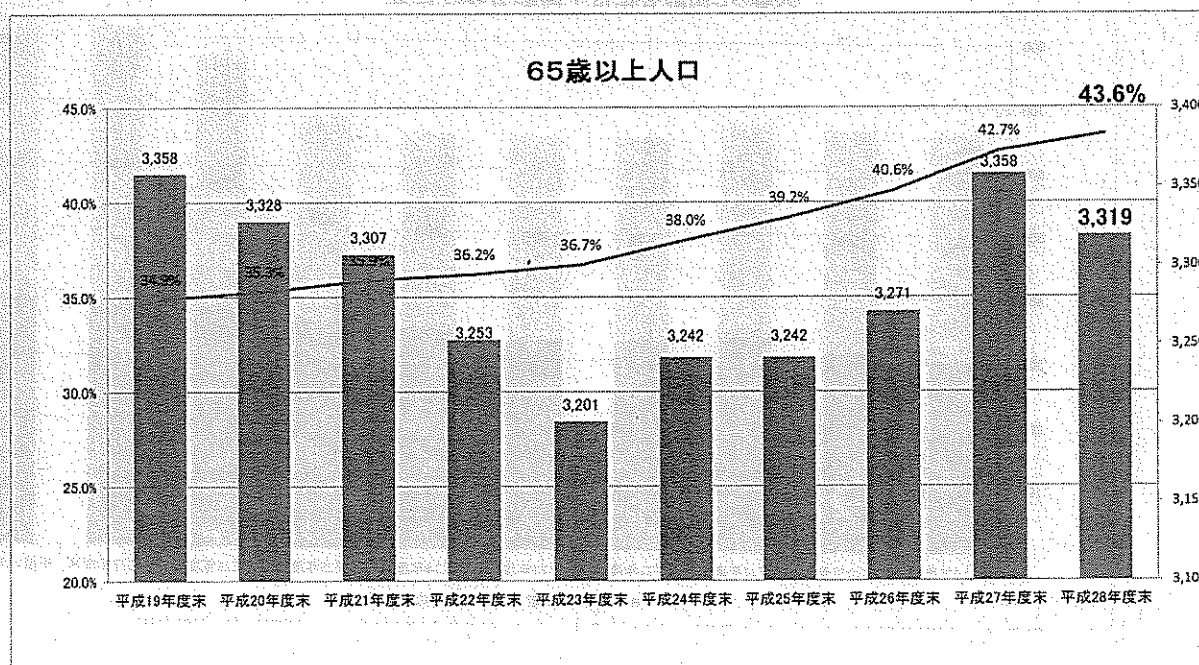


# 平成29年3月31日現在 温海地域人口ピラミッド



## 温海地域高齢者人口等の推移

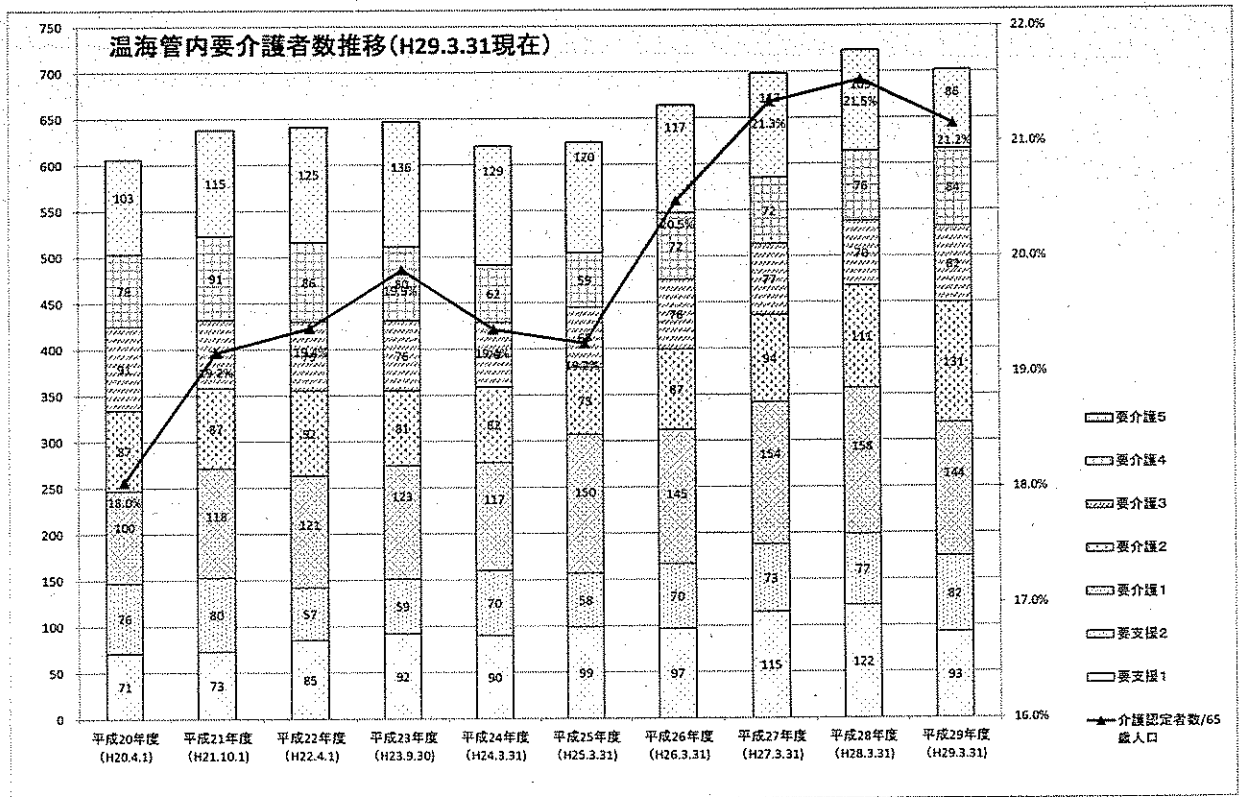
	平成19年度末	平成20年度末	平成21年度末	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末
65歳以上人口	3,358	3,328	3,307	3,253	3,201	3,242	3,242	3,271	3,358	3,319
高齢化率	34.9%	35.3%	35.9%	36.2%	36.7%	38.0%	39.2%	40.6%	42.7%	43.6%
75歳以上人口	1,860	1,877	1,915	1,900	1,883	1,906	1,874	1,869	1,907	1,873
後期高齢化率	19.3%	19.9%	20.8%	21.2%	21.6%	22.4%	22.7%	23.2%	24.3%	24.6%





### 温海管内要介護者数推移 (H29.3.31現在)

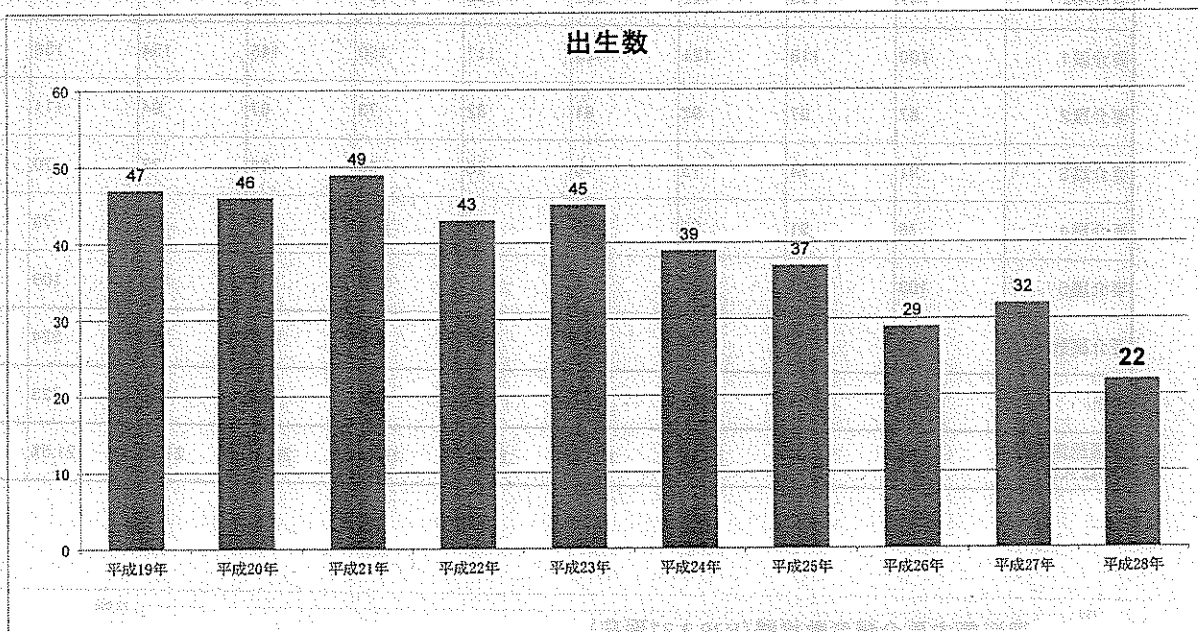
	平成20年度 (H20.4.1)	平成21年度 (H21.10.1)	平成22年度 (H22.4.1)	平成23年度 (H23.9.30)	平成24年度 (H24.3.31)	平成25年度 (H25.3.31)	平成26年度 (H26.3.31)	平成27年度 (H27.3.31)	平成28年度 (H28.3.31)	平成29年度 (H29.3.31)
要支援1	71	73	85	92	90	99	97	115	122	93
要支援2	76	80	57	59	70	58	70	73	77	82
要支援計	147	153	142	151	160	157	167	188	199	175
要介護1	100	118	121	123	117	150	145	154	158	144
要介護2	87	87	92	81	82	73	87	94	111	131
要介護3	91	74	75	76	70	65	76	77	70	82
要介護4	78	91	86	80	62	59	72	72	76	84
要介護5	103	115	125	136	129	120	117	113	109	86
要介護計	459	485	499	496	460	467	497	510	524	527
合計	606	638	641	647	620	624	664	698	723	702
介護認定者数 /65歳人口	18.0%	19.2%	19.4%	19.9%	19.4%	19.2%	20.5%	21.3%	21.5%	21.2%





## 温海地域出生数の推移

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
出生数	47	46	49	43	45	39	37	29	32	22



# 日沿道新潟県境区間 I C 周辺土地利用基本計画

1	概要	1
2	調査経緯	2
3	調査概要	3
4	調査結果の概要	4
5	調査結果の概要	5
6	調査結果の概要	6
7	調査結果の概要	7
8	調査結果の概要	8
9	調査結果の概要	9
10	調査結果の概要	10
11	調査結果の概要	11
12	調査結果の概要	12
13	調査結果の概要	13
14	調査結果の概要	14
15	調査結果の概要	15
16	調査結果の概要	16
17	調査結果の概要	17
18	調査結果の概要	18
19	調査結果の概要	19
20	調査結果の概要	20
21	調査結果の概要	21
22	調査結果の概要	22
23	調査結果の概要	23
24	調査結果の概要	24
25	調査結果の概要	25
26	調査結果の概要	26
27	調査結果の概要	27
28	調査結果の概要	28
29	調査結果の概要	29
30	調査結果の概要	30
31	調査結果の概要	31
32	調査結果の概要	32
33	調査結果の概要	33
34	調査結果の概要	34
35	調査結果の概要	35
36	調査結果の概要	36
37	調査結果の概要	37
38	調査結果の概要	38
39	調査結果の概要	39
40	調査結果の概要	40
41	調査結果の概要	41
42	調査結果の概要	42
43	調査結果の概要	43
44	調査結果の概要	44
45	調査結果の概要	45
46	調査結果の概要	46
47	調査結果の概要	47
48	調査結果の概要	48
49	調査結果の概要	49
50	調査結果の概要	50
51	調査結果の概要	51
52	調査結果の概要	52
53	調査結果の概要	53
54	調査結果の概要	54
55	調査結果の概要	55
56	調査結果の概要	56
57	調査結果の概要	57
58	調査結果の概要	58
59	調査結果の概要	59
60	調査結果の概要	60
61	調査結果の概要	61
62	調査結果の概要	62
63	調査結果の概要	63
64	調査結果の概要	64
65	調査結果の概要	65
66	調査結果の概要	66
67	調査結果の概要	67
68	調査結果の概要	68
69	調査結果の概要	69
70	調査結果の概要	70
71	調査結果の概要	71
72	調査結果の概要	72
73	調査結果の概要	73
74	調査結果の概要	74
75	調査結果の概要	75
76	調査結果の概要	76
77	調査結果の概要	77
78	調査結果の概要	78
79	調査結果の概要	79
80	調査結果の概要	80
81	調査結果の概要	81
82	調査結果の概要	82
83	調査結果の概要	83
84	調査結果の概要	84
85	調査結果の概要	85
86	調査結果の概要	86
87	調査結果の概要	87
88	調査結果の概要	88
89	調査結果の概要	89
90	調査結果の概要	90
91	調査結果の概要	91
92	調査結果の概要	92
93	調査結果の概要	93
94	調査結果の概要	94
95	調査結果の概要	95
96	調査結果の概要	96
97	調査結果の概要	97
98	調査結果の概要	98
99	調査結果の概要	99
100	調査結果の概要	100

平成29年5月  
山形県 鶴岡市

## 目 次

1. はじめに	1
2. IC周辺の土地利用についての基本方針	3
3. 鼠ヶ関IC「道の駅」の基本コンセプト	6
4. 施設概要	8
5. 情報発信	13
6. 地域振興施設計画	14
7. 整備・運営手法	19
8. 道の駅へのアクセス・施設配置	21
9. 建築・意匠	24
10. 道の駅の整備手法	25
11. 概算整備費	27
12. 事業スケジュール	29
13. 今後の取組み	30
14. 策定経緯	32
資料1. 施設規模の算定	34
資料2. 収支シミュレーション	44

## 1. はじめに

### 1 これまでの経過

早期全線開通に向けて強かに運動を展開している日本海沿岸東北自動車道について、新潟県境区間である朝日まほろばIC～あつみ温泉ICが、平成25年5月15日に国道7号「朝日温海道路」として新規に事業化され、日沿道の早期全線開通に向けて大きく前進しています。

一方、日沿道完成後に温海地域が単なる通過点にならないよう、日沿道を地域活性化のための一つの「ツール」として有効に活用し、地域の活性化方策を検討していく必要があります。

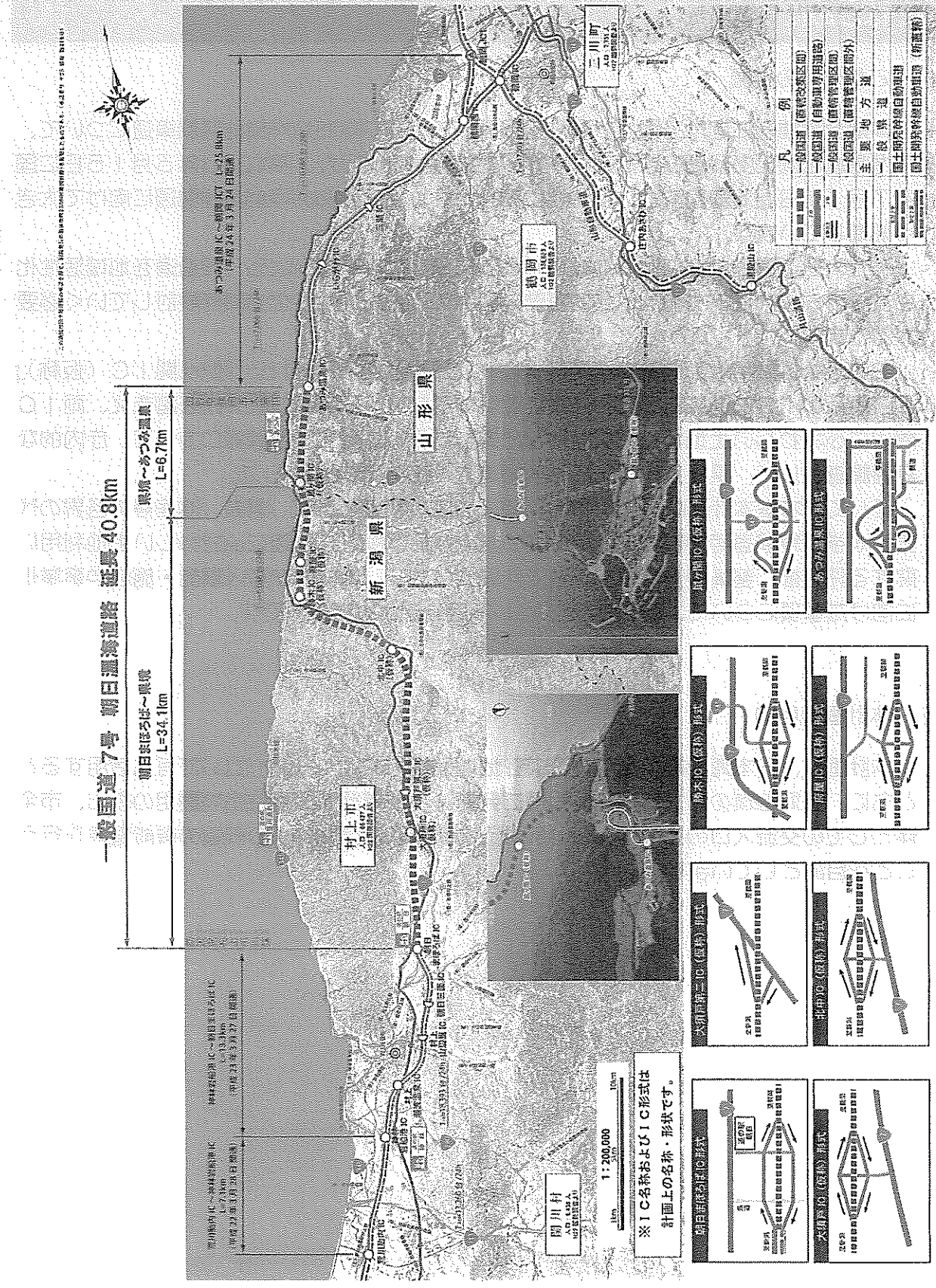
このため、供用中の「あつみ温泉IC」及び設置が予定される「鼠ヶ関IC（仮称）」の2箇所のIC周辺において、地域の現状や既存の計画等の位置づけを踏まえ、両IC周辺にふさわしい土地利用、求められる機能、それに基づく配置等について、庁内的な基礎調査として、平成25年度に「基本構想」を取りまとめました。

そして、本基本計画は、「基本構想」をもとに、商工や観光、農業、水産等の各界の代表者や学識経験者等の視点、地域住民の視点から、両IC周辺にふさわしい土地利用に関する将来像、整備の方向性を明確にするるとともに、具体的な導入機能・施設や事業化に向けた事項について、「基本計画」として取りまとめたものです。

### 2 本計画の目的

本計画は、日本海沿岸東北自動車道を地域活性化の「ツール」として有効活用するとともに、温海地域の持つ特性を最大限に発揮し、地域経済の活性化や雇用の創出、市全体としての交流人口の拡大が図られるよう、新潟県境区間のIC周辺の機能整備を行うことを目的としています。





一般国道7号 朝日温海道路 延長40.8km

鳥取～あつみ温海 L=6.7km  
朝日温海～鳥取 L=34.1km

鳥取～あつみ温海  
L=6.7km  
平成23年3月27日開通

朝日温海～鳥取  
L=34.1km  
平成23年3月27日開通

※I-C名称およびI-C形式は  
計画上の名称・形状です。

一般国道7号 朝日温海道路（日本海沿岸東北自動車道）

出典：国土交通省 東北地方整備局酒田河川国道事務所パンフレット

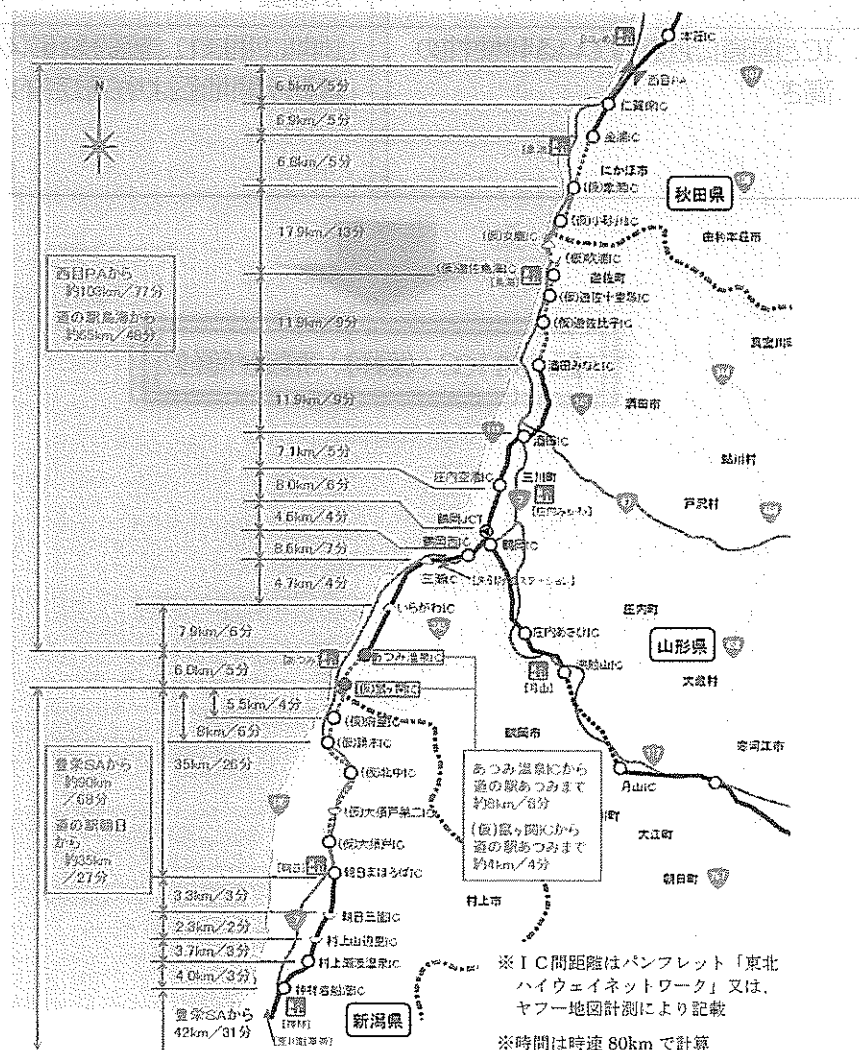
## 2. IC周辺の土地利用についての基本方針

### 1 日沿道のIC及び休憩施設の配置状況

「道の駅」や高速道路のSA/PAなどの道路休憩施設は、多くの道路利用者の休憩等に利用されており、特に「道の駅」は、まちの特産物や観光資源を活かして人を呼び、地域に仕事を生み出す拠点として、地域活性化に貢献する施設になっています。

日沿道の休憩施設の配置状況については、トイレが設置されている休憩施設は、新潟市の「豊栄SA」、由利本荘市の「西目PA」の2か所のみであり、両施設間約200km区間には、トイレや食堂、ガソリンスタンド等が整備された休憩施設は設置されておらず、朝日温海道路にも、休憩施設を整備する計画は示されていません。

本計画の検討箇所である「あつみ温泉IC」、「鼠ヶ関IC(仮称)」は、豊栄SAから約90km・68分、西目PAから約103km・77分の地点に位置しており、休憩施設空白域のほぼ中間に位置しているという立地条件を踏まえると、日沿道を活用した地域活性化という本計画の目的を達成するために有効な土地利用は「道路休憩施設の整備」であると言えます。



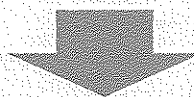
日沿道IC及び休憩施設の配置状況

## 2 温海地域での休憩施設設置場所の検討

基本構想でまとめた下記の土地利用の方向性について検討した第1回基本計画策定検討委員会での結果を踏まえ、休憩施設は鼠ヶ関IC（仮称）周辺に整備することとします。

休憩施設の立地の優位性の分析

鼠ヶ関IC（仮称）周辺	あつみ温泉IC周辺
鶴岡市の南の玄関口、鼠ヶ関港が近く新鮮な魚介類をPRできる立地性	ICからあつみ温泉街まで2kmと近至しているため機能競合を避けたうえで温泉街へ誘導することが重要
関所という歴史性など、施設位置としての適性の高さ	ICと国道が離れているため、国道からの利用は鼠ヶ関よりも劣るほか、浜中地区の交通事情にも配慮が必要
ICと国道に近接している利便性の高さ	山地に囲まれ、施設整備スペースは鼠ヶ関地区よりも限定的



鼠ヶ関IC（仮称）周辺が優位

### 3 IC周辺の土地利用についての基本方針

#### <鼠ヶ関IC(仮称)周辺>

##### “ワンストップ型”と“誘導型”の両機能を備えた休憩施設整備

- 道路休憩施設の持つ「休憩」、「情報発信」、「地域連携」の3つの機能を活用し、道路利用者のみならず地域住民の利用、雇用の場を提供し、両者がふれあう場として整備します。

#### <あつみ温泉IC周辺>

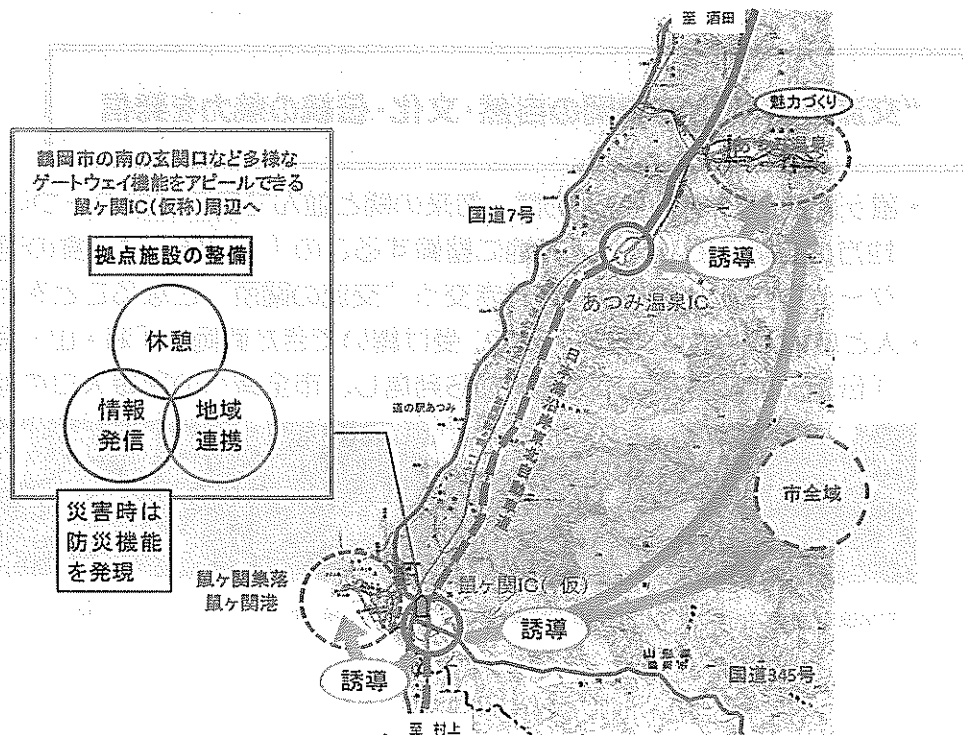
##### あつみ温泉への誘導機能強化

- あつみ温泉IC直近への“あつみ温泉”への案内看板の設置や、あつみ温泉に立ち寄りたくなるようなしなかけづくりなど、温海地域の観光の中心である“あつみ温泉”への誘導機能の強化を図ります。
- あつみ温泉IC直近の誘導機能強化と併せ、あつみ温泉街では観光PRや周辺観光スポットへの案内機能の強化、景観づくりの推進など、魅力づくりのための施策展開を図り、賑わい創出を図ります。

#### <その他施設沿線地域>

##### 国道345号平沢～関川の改良整備等の周辺整備

- 災害時の代替機能確保、交流連携の強化のため、国道345号平沢～関川の改良整備等の周辺整備を関係機関へ要望します。



整備方針イメージ図



### 3. 鼠ヶ関IC「道の駅」の基本コンセプト

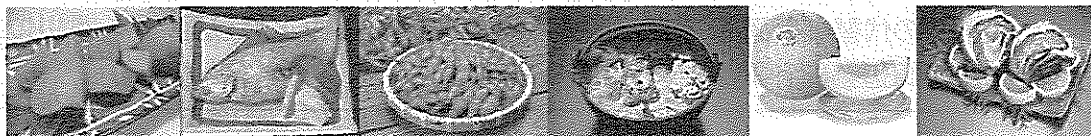
#### 1 基本コンセプト

## 『豊かな海・山・里の幸を味わえる“ねずがせき市場”』 ～食の理想郷「鶴岡」のゲートウェイ～

### ユネスコ食文化創造都市「鶴岡」を体験する道の駅



- ・ユネスコ食文化創造都市「鶴岡」の道の駅として、世界に認められた鶴岡の多彩な食文化をPRするとともに、四季折々の豊かで美味なる「鶴岡の幸」が“体験”できる道の駅にします。
- ・“本物”の美味しさ を味わうことに加え、「楽しさ」と「新しさ」が体感できるコンテンツを提供します。



### “交流の関所”から鶴岡の自然・文化・伝統の魅力を発信

- ・鼠ヶ関は、その昔、白河の関、勿来の関と並んで奥羽三関の一つに数えられる東北地方の玄関口でした。その地に整備するこの「道の駅」は、食の理想郷「鶴岡」のゲートウェイとして人々が行き交う“交流の関所”となることを目指します。
- ・人と自然が共生し、守り、育て、受け継いできた鶴岡の「海・山・里」「食」「文化」「伝統」の魅力を交流の関所から発信し、市全域への周遊人口の拡大を図ります。



日本遺産「出羽三山」

出羽三山の精進料理

黒川能

しな織り

日本遺産 鶴岡シルク発祥の地

「松ヶ岡開墾場」

## 道の駅を舞台とした温海・鼠ヶ関地域の活性化

- 温海、鼠ヶ関地域の方々が「道の駅」の運営に参画することを通して、「道の駅」が地域の人々の活躍の場となり、地域の活性化に貢献します。
- 地場素材を活かして地域の農林水産業の6次産業化とブランド化を推進し、地域経済の好循環の拠点となることを目指します。
- 人々が集う場としての利点を活かし、地域の交流、活動拠点として新たなにぎわいを創出します。
- 鼠ヶ関地区は、県境のまちとして村上市と交流の歴史があります。この「道の駅」を村上市との新たな交流・連携の舞台とすることを検討し、両地域の新たな発展の礎を築くことを目指します。



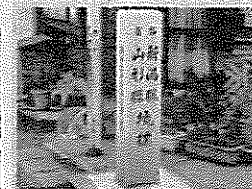
とれたて！お魚夕市(鼠ヶ関)



イカの一夜干し



あつみ豚

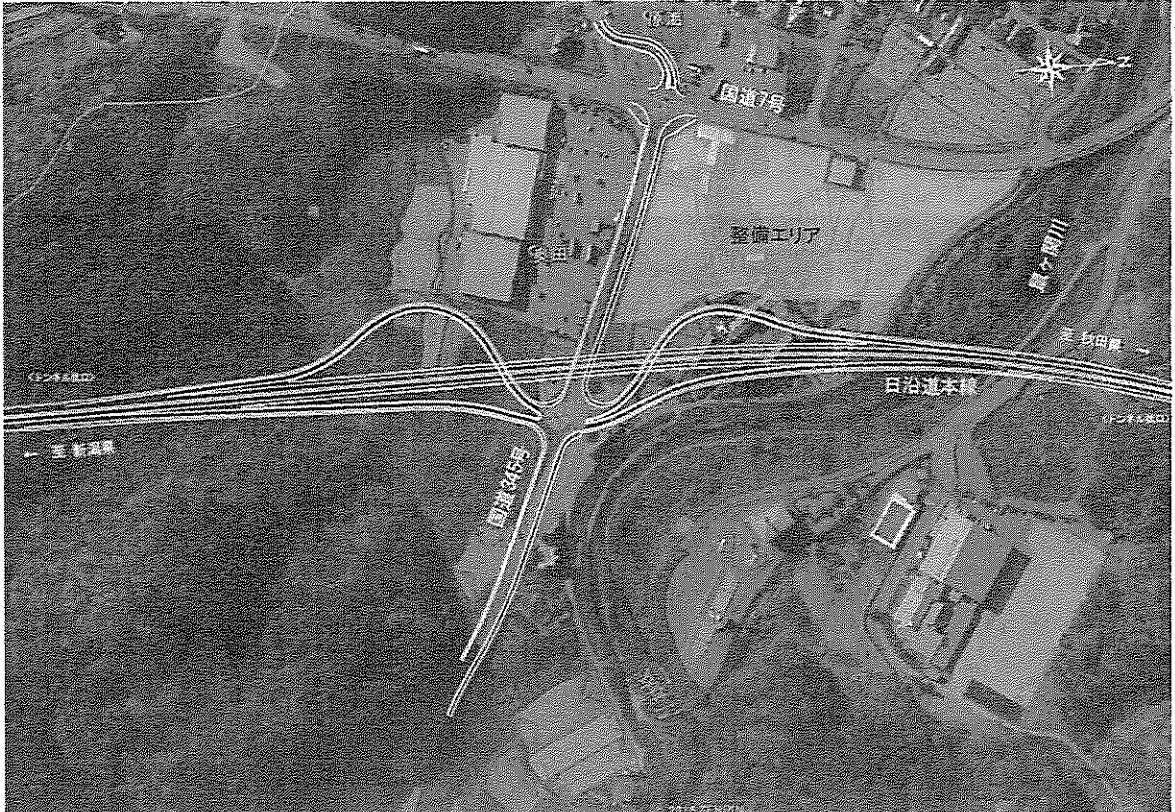


山形・新潟県境  
(蓬菜塾 HP より)

## 4. 施設概要

### 1. 整備エリア

道の駅の整備エリアは、日治道及び国道7号の双方から利用しやすい位置となる、鼠ヶ関IC（仮称）の北西側で、鼠ヶ関川、国道7号、国道345号、日治道本線及びICランプに囲まれた敷地とします。



整備エリア

## 2 道の駅の主要機能

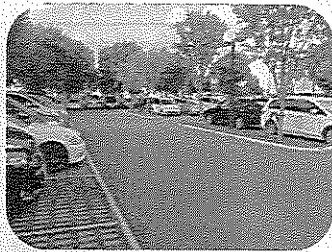
### (1) 道の駅へのアクセス

- より多くの日沿道利用者に立ち寄ってもらうために、高速道路本線からの視認性が高く、施設への出入りがしやすいアクセス形状を検討します。
- 国道7号及び国道345号からスムーズに入出りできるように出入り口及び場内道路を整備します。
- 場内の移動が安全かつスムーズに行われるよう、わかりやすさに配慮した動線の案内表示を行います。

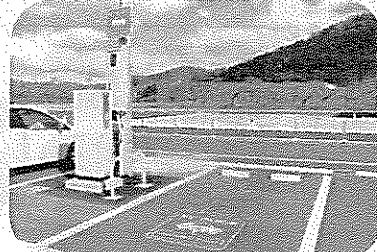
### (2) 快適な休憩空間の提供

#### ① 駐車場

- 日沿道の将来交通量、日沿道整備後の国道7号の交通量や、施設利用に応じた規模の駐車スペースを確保し、観光客、物資輸送者など多様な利用目的に配慮したいつでも誰もが停めやすい駐車場を整備します。
- 電気自動車の充電施設を整備し、利用者の利便性向上を図ります。



駐車場イメージ



EV充電施設イメージ (山形県朝日町りんごの森)

#### ② 24時間利用可能なトイレ

- 誰でも快適に利用できるよう、ユニバーサルデザインの多機能トイレを整備します。
- 外国人旅行者の増加に対応した環境整備を図るため、トイレの案内表示の多言語化を図ります。
- 利用者が常に清潔感や快適性が感じられるよう維持管理に留意します。



トイレのイメージ (山形県朝日町りんごの森)



案内表示の多言語化イメージ

#### ③ 休憩所

- 多くの来訪者が快適に休憩できるよう、飲食エリアとの共有空間とすることを検討し、効率的な活用を図ります。
- 気軽に休憩できるような明るく開放感のあるレイアウトとします。





休憩所イメージ

### (3) ゲートウェイとしての情報発信

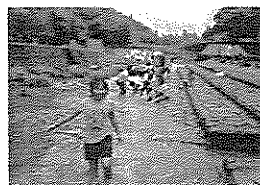
- ・道路情報や救急医療情報などの情報をわかりやすくリアルタイムで提供します。
- ・県境に位置する立地性を活かし、上下線双方のゲートウェイとして、庄内・鶴岡及び新潟県・村上市の広域的な地域・観光情報を発信します。
- ・庄内の「道の駅」と連携し、地域のイベント情報を発信します。
- ・観光コンシェルジュ（案内人）の配置や、情報発信ターミナルの整備を検討し、情報発信機能の強化による市全域への誘導の推進を図ります。
- ・Wi-fi 環境を整備し、利用者がそのニーズに応じて情報を入手できる環境を整備します。



観光客の市全域への誘導

### (4) 地域のにぎわいの創出

- ・買う、食べる、選ぶ楽しみを体験できる新しい物販・飲食スタイルを展開します。
- ・地域が主体となって地場素材を活かした新たな商品開発を行い、ブランド化を図ります。
- ・高速バスや路線バスの停留所、ATMの設置など、生活の利便性の向上を図る設備の整備について、事業者等と調整、検討します。
- ・整備エリアに隣接する鼠ヶ関川の河川敷を河川親水エリアとして整備することを河川管理者（山形県）と調整、検討します。
- ・地域のイベントなどで使用できる多目的広場の設置を検討します。



河川親水エリアのイメージ（資料提供 新庄河川事務所）

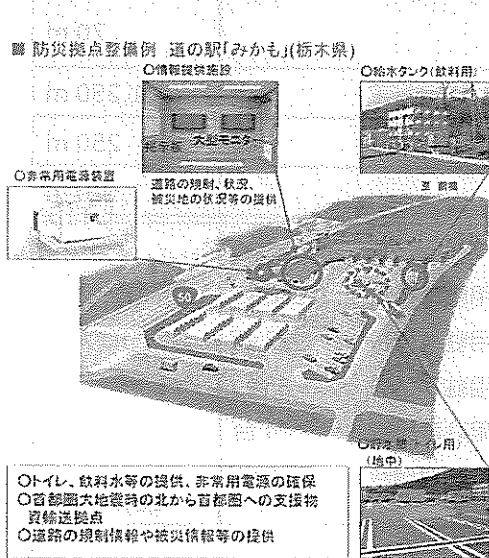
(5) 防災機能

2004年の新潟中越地震や2011年の東日本大震災の際に、道の駅が避難所や災害復旧拠点として活用され、復旧・救援活動に貢献した事例を踏まえ、道の駅の防災機能は、基本3機能（休憩機能、情報発信、地域連携）に次ぐ第4の機能として認識されるとともに、機能の充実・向上が求められています。

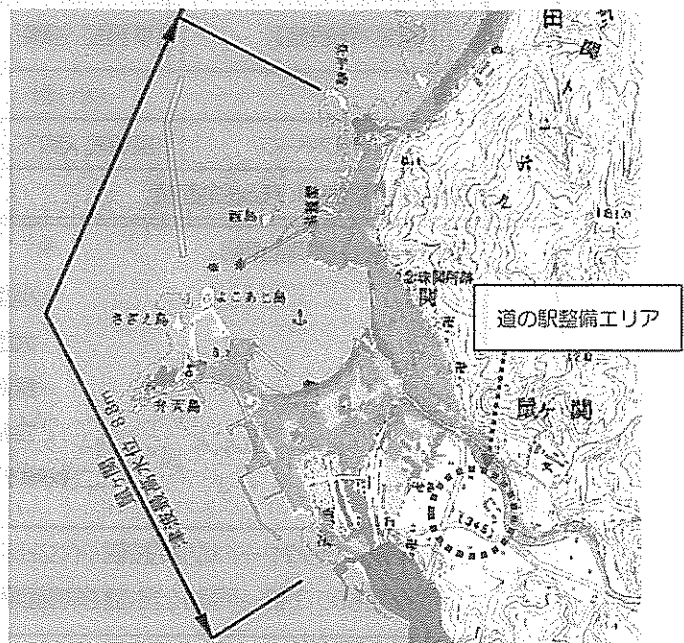
鼠ヶ関IC周辺「道の駅」の防災機能については、上記の状況や県境に位置する立地条件を踏まえ、大規模災害時の広域的な復旧・救援活動の拠点としての役割や情報・支援を求めて来訪する道路利用者の一時的な受入れ、鼠ヶ関地域の避難所の機能の補完など、幅広い役割が要請されることを想定して、以下の機能を今後検討します。

- ・ ライフラインが途切れた場合の対応として、飲料水、トイレ、電気、情報を確保する設備の整備
- ・ 高速道路事業者と調整し、高速道路本線にのぼれる避難路の整備
- ・ 駐車場や緑地帯を活用した緊急時に使用可能なヘリポート
- ・ 造成高の決定に合わせた地域防災計画への位置づけ

なお、山形県が平成28年3月に公表した「山形県津波浸水想定・被害想定調査」の浸水想定図によると、道の駅の整備エリアは浸水区域から外れている一方で、平成29年3月に作成した鶴岡市津波ハザードマップでは、「浸水に注意を要する範囲」に位置付けられていることを踏まえて、施設に求められる防災機能を今後検討します。



道の駅の防災機能の整備事例（国土交通省資料より）



山形県津波浸水想定図（鼠ヶ関～早田）  
鼠ヶ関地区の部分を拡大

#### 4 施設規模

計画交通量や道の駅「あつみ」の実績、地域振興施設計画に必要な機能等を踏まえ、施設規模について検討した結果（資料1を参照）、各施設の規模（面積）については、下表の値を目安とします。

建築物・敷地概略規模 (目安)

		種別	面積 (㎡)	
建築物概略規模	屋内主要導入施設	休憩施設	トイレ 男(小)便器 : 15個 男(大)便器 : 5個 女(大)便器 : 15個 身障者用便器 : 1個 総便器数 : 36個 180㎡	
		休憩・情報提供施設	フードコートと兼用を想定 (170㎡)	
		地域振興施設 (商業施設)	物販中心系施設	367.5㎡
			農水産物直売所	122.5㎡
			飲食中心系施設	210.0㎡
			フードコート 共用部分	300㎡
		運営・管理施設	事務室、倉庫	70㎡
		小計		1,250㎡
その他スペース	風除室、廊下、機械室等	250㎡		
建築物概略規模 (延べ床面積)		1,500㎡		
敷地概略規模	車路を含む駐車場面積		10,800㎡	
	小型車用駐車柵数 : 188台 大型車用駐車柵数 : 23台 身障者用駐車柵数 : 5台 二輪車用駐車柵数 : 4台 二輪車を除く総駐車柵数 : 216台			
	広場・緑地・バックヤード・防災設備・イベントスペース (建築面積の3倍+車路を含む駐車場面積の30%と仮定)			
敷地概略規模		21,640㎡		

※上記については目安であり、施設規模等については基本設計時に決定します。

## 5. 情報発信

### “交流の関所”から鶴岡の自然・文化・伝統の魅力を発信

- ◆人と自然が共生し、守り、育て、受け継いできた鶴岡の「海・山・里」「食」「文化」「伝統」の魅力を、人々が行き交う“交流の関所”であるこの「道の駅」から発信し、市全域への交流人口の拡大を図ります。
- ◆関係する団体などの意見も踏まえて、今後、以下のソフト対策についても検討します。
  - ・情報発信ターミナルに観光コンシェルジュ（案内人）を配置して観光情報を発信
  - ・アウトドア、体験型観光の案内、受付
  - ・地域が主体となったブルー＆グリーンツーリズムの企画開発
  - ・「食」に関するイベントの情報発信
  - ・鶴岡の魅力を発信する観光PR映像の作成
  - ・インバウンド観光（訪日外国人旅行）、団体客への対応
- ◆山形県側へのゲートウェイであるとともに新潟県側へのゲートウェイでもあるという立地性を活かし、新潟県の観光情報の発信についても検討します。

ふるさと発信





## 6. 地域振興施設計画

### 1 基本方針

#### 『目的地となる道の駅、何度も来てもらえる道の駅』

- ・四季折々の豊かで美味なる「鶴岡の幸」の体験
- ・“本物”の地場素材の活用にとだわった品揃えと加工品開発
- ・斬新さ・話題性、満足度を高める特徴的な施策の展開

- ・ユネスコ食文化創造都市「鶴岡」を印象づけるため、庄内浜の旨い魚、県内でも最も多様な在来作物など、鶴岡が培ってきた豊かな食文化を強力にPRする拠点と位置付けます。
- ・地場素材の活用にとだわった新たな加工品、物産品を開発し、地域の農林水産業の6次産業化と開発した商品や地域のブランド化を推進して、地域経済に好循環を創出します。
- ・広域的な集客力を強化するために、斬新さ・話題性のある特徴的なコンテンツ、売り方、食べ方を展開し、当道の駅の物産品、食事を目的に「わざわざ出かける」施設、そして「何度も来てもらえる施設」を目指します。

### 2 商圈・顧客

商圈・顧客	数値	備考
周辺地域自治体 (半径50km圏、車で1時間圏内)	人口 309,697人 世帯 109,870世帯	村上市～酒田市 (平成27年国勢調査結果 総務省統計局)
高速道路利用者	11,300台/日	計画交通量
インバウンド	宿泊者数 40,000人/年	鶴岡インバウンドアクションプラン H32数値目標

- ・車で1時間圏内の半径50km圏である、村上市から酒田市までの地域を当「道の駅」の商圈として考え、営業展開します。
- ・さらに、日沿道利用者の利便性を向上させ、日沿道を利用する長距離移動者も顧客として取込みを図ります。
- ・加えて、酒田港や新潟港に就航する大型クルーズ船等から派生するインバウンド（訪日外国人旅行客）等の団体客からも利用してもらえる施設を目指します。



### 3 営業形式

## 『EAT & BUY』～食べて買う・買って食べる～ …物販と飲食を合体させた“市場”スタイルの店舗構成… 食の理想郷「鶴岡」だからできる今までの道の駅にない 新しいカタチ！

- ◆「EAT & BUY」とは、例えば鮮魚店に飲食カウンターが付設され、買い求めた鮮魚類をその場で寿司に調理し食べられる、青果店でも果樹類をジュース、スムージーなどにして提供するなど、物販とイトインが合体したものです。精肉店、干物店の商品を屋外のパーベキューで提供する、鮮魚店の魚を顧客の希望に応じて好みの調理法で調理して提供するなど、それぞれの店舗の工夫・アイデア次第で多様な展開が可能です。

鮮魚売り場	: 刺身or焼kor煮るor揚げる お好みカウンター 寿司&セレクト海鮮丼
魚介・干物売り場	: 七輪コーナー
青果売り場	: ジュース&スムージーバー、カットフルーツ
ベーカリー	: カフェコーナー
漬物売り場	: 漬物バイキング
温海地域特産売り場	: しそ巻、べろべろ餅を使ったお惣菜

- ◆一部の店舗でこのスタイルを採用した事例は、他の道の駅等にもありますが、この「EAT & BUY」をメインテーマに掲げ、複数の店舗で展開する「道の駅」は他に例がなく、「道の駅」としては全く新しい試みであり、海・山・里の多様な食材に恵まれた食の理想郷「鶴岡」だからこそできる新しい運営スタイルです。
- ◆店舗の構成については、鮮魚、魚介・干物、青果、加工品・物産品等を扱う10店程度の比較的小規模な店舗ユニットを組み合わせた“市場”的なイメージとします。
- ◆この「EAT & BUY」機能の下、ここで提供される食材は、鶴岡市全域の季節感あふれる品揃えとし、豊かな食文化の発信・PRに努めます。
- ◆比較的小規模な複数の店舗ユニットで構成することから、商業者だけではなく、地域が主体となった出店が可能となります。
- ◆飲食がメインとなる店舗では、温海地域の有名な食事処の2号店誘致を検討するなど、話題性が創出されるよう努めます。
- ◆どの店舗・飲食店からでも使えるフードコートを整備し、売場効率と顧客の使い勝手の良さ、利便性を同時に達成させます。
- ◆フードコートは24時間休憩所の機能も併せ持ち、来訪者が購買、飲食の有無を問わず自由に休息できる空間とすることを検討します。





## 5 地域貢献・地域連携

### (1) 地域生産者・事業者にとっての地域振興施設

- ・地域ならではの食材活用にこだわることによって、地域素材の消費機会・消費量拡大を図ります。地域生産物の買い支えによって地産地消の具現化を目指し、地域生産者等の所得の安定・向上に資する拠点とします。
- ・地域の人々が道の駅の事業者として参画できるようにするなど、地域の雇用や就業機会の拡大を図り、地域の経済活動の拠点となるような運営を行います。

### (2) 地域住民・生活者にとっての地域振興施設

- ・地域の中でも取りわけ良品を提供する場を目指し、地域の日常生活をより豊かにすることによって、地域住民・生活者の支持を獲得する施設を目指します。
- ・地域住民、生活者の親しい人々（親類、知人・友人など）が当地に来訪した際、自信をもって案内でき、当地の良さをそれらの人々に誇れる施設を目指します。

## 6 店舗構成イメージ



道の駅「萩シーマート」HPより



## 7 採算性シミュレーション

本「道の駅」を計画するにあたって、採算性の概略検討を行いました。(資料2) 計算条件としては、客単価やレジ通過率は近隣類似施設の事例等を参考とするほか、「EAT&BUY」や「良質な地場素材の提供」という観点から、原価率や人件費はやや高めに設定しています。

その結果、販売有効面積は700㎡程度が適当で、営業利益を黒字にするためには、年間売上390百万円以上、レジカウント数35.5万人以上を達成する必要があるという結果になりました。

そこで、本「道の駅」の営業目標は、以下のとおり設定することとします。

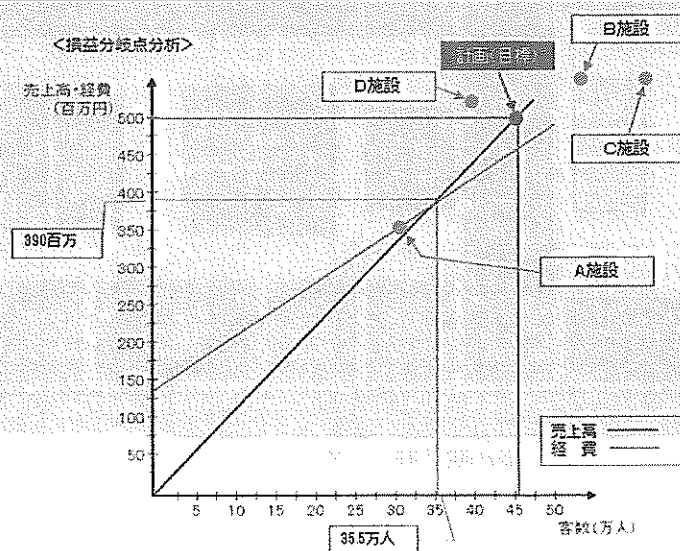
**年間売上5億円(レジカウント45万人)を目標とする**

収支計画概要

種別	現況ベース	計画	摘要
レジカウント数	31万人	45万人	レジ通過率 10.9% (現況)
収入(売上げ)	3.4億円	5.0億円	客単価 1,100円
支出 (売上原価、人件費、福利厚生費、維持管理費)	-	4.7億円	原価率・物販 73% ・飲食 39%
営業利益	-	0.3億円	

※現況ベースは、H22 交通量及び近隣道の駅の実績立寄率から算出した値

**<近隣道の駅の実績と専門家のアドバイスを踏まえた収支シミュレーション>**



なお、本目標は、類似の道の駅と比較した場合、交通量や商圈人口など条件の違いはあるものの、施設の魅力による集客増や高速道路による交通量の増加を考慮すると十分に達成可能な範囲にあると考えられます。

## 7. 整備・運営手法

### 1 整備・管理運営方式

#### (1) 整備・管理運営方式の分類

- 管理運営方式としては一般に、公共で施設を整備し、公共で管理・運営する「公設公営」方式と、公共で施設を整備し、民間が管理・運営する「公設民営」方式、民間が施設を整備し、管理・運営を行う「民設民営」方式などがあります。

「道の駅」の整備・管理運営方式の分類

事業スタイル	公設民営	P F I (BTO)	民設民営	民間設置 (特区限定)
設置者	市	市	市	民間
事業地の造成	市	市	市	民間
土地の所有	市	市	市	民間
建築物の建設	市	S P C事業者	民間事業者	民間事業者
建物の所有	市	市	民間事業者	民間事業者
運営者	指定管理者 (第3セクター、民間事業者等)	S P C事業者	民間事業者	民間事業者
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政の意向を踏まえた施設の整備・運営ができ、道の駅の整備目的の達成や公益性の発揮が期待できる。</li> <li>民間ノウハウを活かして効率的、効果的な施設運営ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計、施工、運営、維持管理まで一貫して同じ事業者が行うため、整備・運営方針にぶれがなく、事業全体の効率性が向上する。</li> <li>契約期間で整備を分割してP F I事業者へ支払うことになり、単年度あたりの行政の支出は低減される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間ノウハウを最大限に活用して収益性の高い事業運営が期待できる。</li> <li>市の負担は用地に関する部分のみとなることから、市の財政的な負担が軽減される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>市の財政的負担は限定的となる。</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期間で指定管理者が交代した場合、ノウハウの蓄積を妨げる恐れがある。</li> <li>設計、施工、運営、維持管理までの一貫性が担保できない可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>P F I導入可能性調査及び事業者の選定に時間と費用を要する。</li> <li>P F I事業者の利益が優先され、道の駅の公益性や地域振興への貢献が軽視される可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物の建設費用や初期投資など資金力があることが必須となることから事業者が限定的になる。</li> <li>民間事業者の利益が優先され、道の駅の公益性や地域振興への貢献が軽視される可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> </ul>
評価	公益性の担保	○	△	△
	地域貢献	○	△	△
	収益性	○	◎	◎
	市の財政負担	△	△	◎
	ランニングコスト	○	○	△
道の駅の事例	「あつみ」(しゃりん) 「鳥海」(遊佐町)	「針テラス」(奈良県)	「萩しーまーと」(山口県)	-

#### (2) 管理運営方式の選定

採算性シミュレーションの結果から、公設民営方式が適当と考えられます。

ただし、本「道の駅」は、販売促進等に関して民間ノウハウの活用が極めて大きな要素を占める事業運営が必要なことから、民設民営やP F Iの可能性についても検討を行ったうえで、整備・管理運営方式を選定します。

## 2 運営者と運営組織体制

### (1) 全体運営者の選定

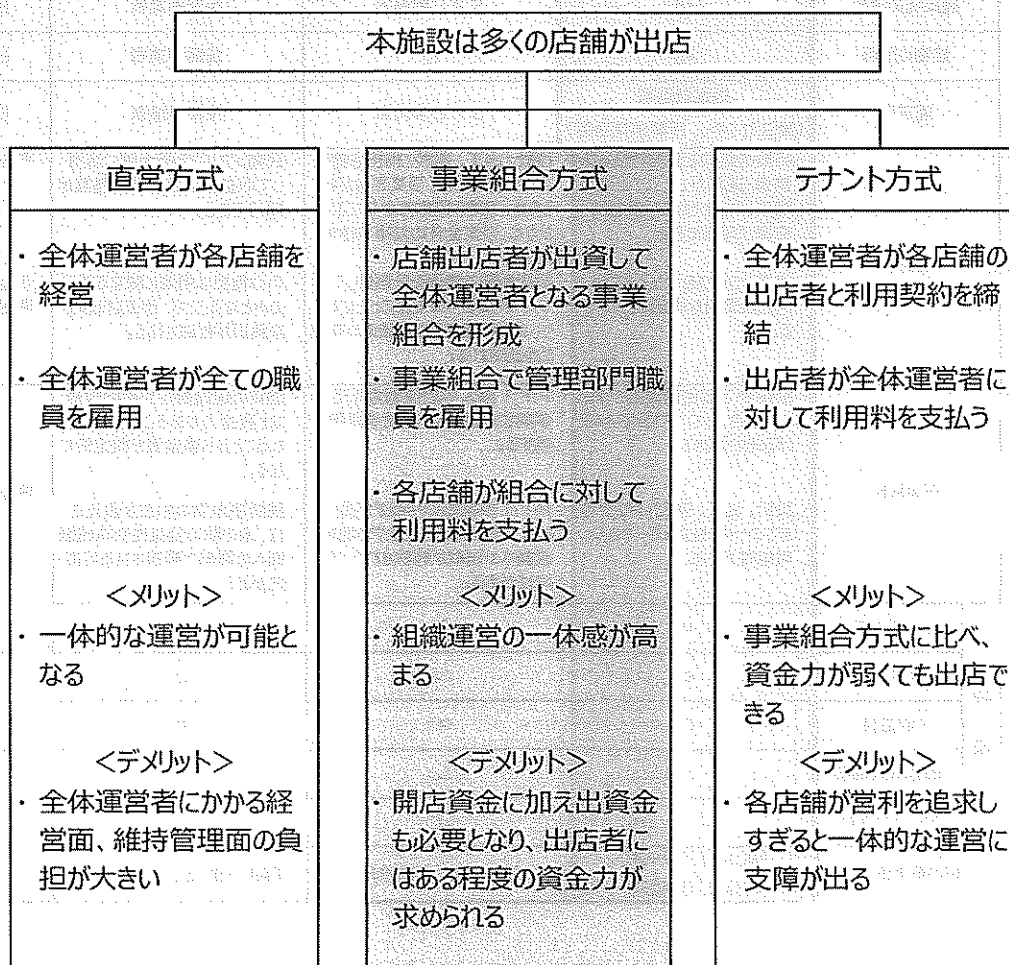
「道の駅」全体の管理運営を担う全体運営者となる主体は、第三セクター、事業組合、SPC（特定事業会社）、民間事業者等が考えられます。

管理運営者の選定にあたっては、下記の条件を考慮して検討する必要があります。

- ・商業ノウハウ
- ・プロデュース力
- ・事業継続性
- ・地域貢献

### (2) 運営組織体制

本「道の駅」は多くの店舗が出店することから、運営組織は大きく分けて下記の3つに分類されます。



全体的なバランスの観点から、本「道の駅」のスタイルにおいては「事業組合方式」が適していると考えられます。

運営組織体制の決定にあたっては、全体運営者の選定と合わせて他の方式も含め総合的に検討を行います。

## 8. 道の駅へのアクセス・施設配置

### 1 高速道路から使いやすい道の駅へのアクセス

#### (1) 基本方針

日沿道開通後は、温海地域を通行する自動車の約8割が日沿道を利用するものと推測されており、日沿道を活用した温海地域の活性化と市全体の交流人口拡大を図るためには、日沿道利用者を如何にして取り込むかが重要な課題です。

また、鼠ヶ関IC（仮称）付近に道の駅を整備するにあたっては、関所という歴史遺産を活かしてゲートウェイ型の道の駅を目指しており、地域外の利用者に如何により多く立ち寄ってもらえるが重要です。

以上のことから、より多くの来訪者が立ち寄ってもらえる道の駅にするためには、その配置・レイアウトにおいては、高速道路からの視認性・案内性が高く、専用通路を設けるなど施設への出入りがしやすいことが優先すべき条件であると考えます。

#### (2) 今後の方向性について

- ・建物の位置については高速道路からの視認性で有利な案を採用するものとし、外観等においても視認性が有利になるよう配慮のうえ今後検討を進めます。
- ・ICからの乗り降りがスムーズに出来るように国道345号側に出入口を設けるほか、地域住民や一般道利用者も利用しやすいように国道7号側にも出入口を設けます。
- ・高速道路と一般道路の両方に道の駅の案内標識を設置する方向で関係機関と協議を進めるものとし、より効果的な方法について意見交換をしながら検討を進めます。

#### (3) その他

- ・高速道路利用者がより利用しやすい施設とするために、下り線ランプからの専用通路について、制度的・技術的可能性を関係機関と意見交換をしながら、その実現に向けて今後も検討していきます。

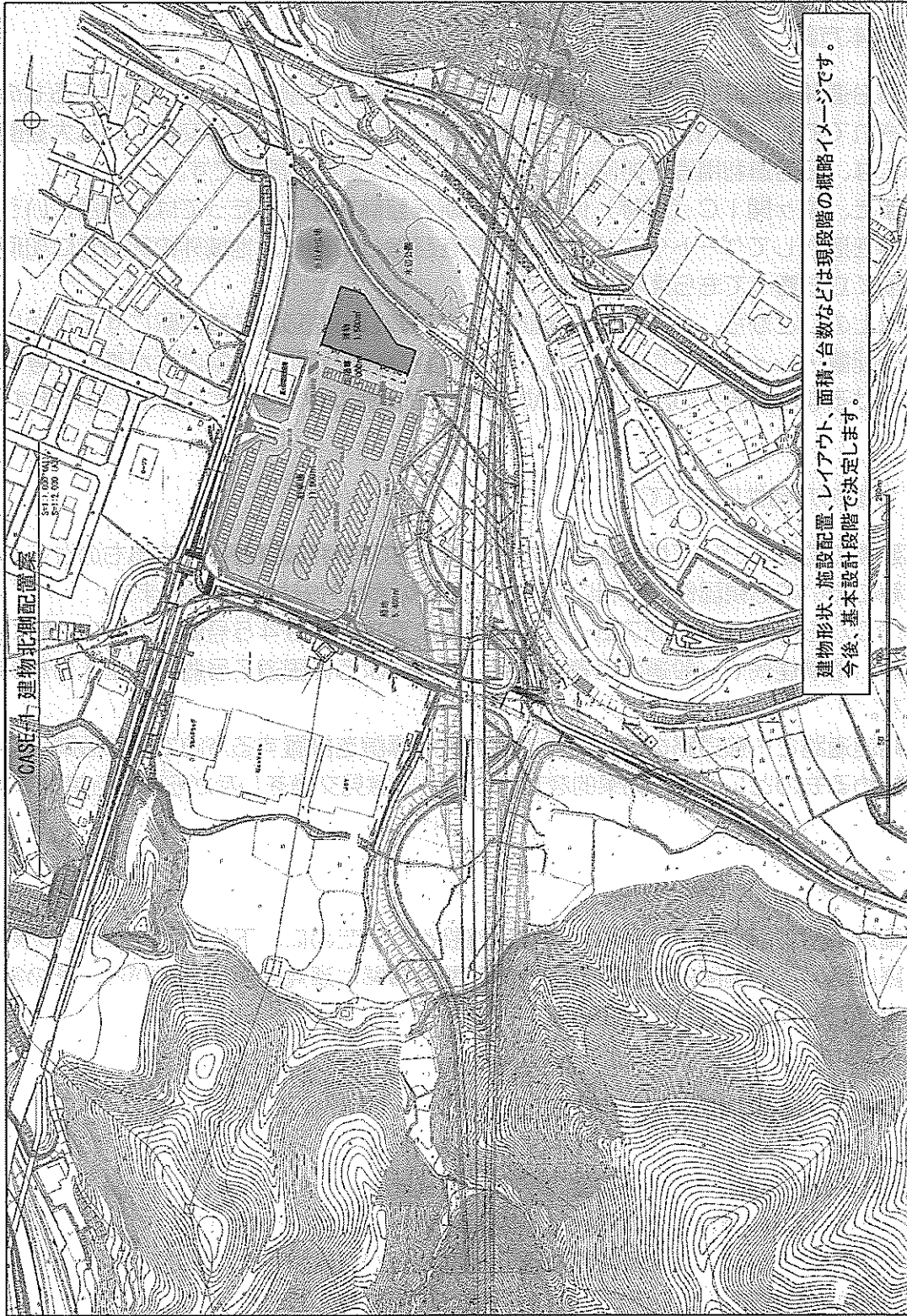
### 2 高速道路から使いやすい施設配置

各施設の配置は以下の方針に基づいて検討します。

- ・日沿道本線及び国道7号を走行する車両から視認しやすいこと
- ・車両動線及び歩行者動線の安全性・利便性が確保されていること
- ・冬季の季節風などの自然条件を考慮した配置とすること
- ・駐車場や緑地帯をヘリポートとして活用すること
- ・将来的な拡張スペースを考慮すること



施設概略イメージ図



※高速道路利用者の利便性向上を図るため、下り線ランプからの専用通路について、制度的・技術的可能性を今後も検討します。

施設配置計画案比較表

		CASE-1	CASE-2	CASE-3
概要		建物を河川側に配置した案	建物を国道7号と国道345号の交差点付近に配置した案	建物を敷地中央の国道7号側に配置した案
平面図				
敷地盛土		1~2m	1~2m	1~2m
アクティクス	国道345号	敷地南部の出入口から。 IC交差点からの距離：約120m	敷地南部の出入口から。 IC交差点からの距離：約120m	敷地南部の出入口から。 IC交差点からの距離：約120m
	国道7号	敷地西側中央部の出入口から。 国道7号に右折車線を設けることにより右折進入可能。	敷地西側中央部の出入口から。 国道7号に右折車線を設けることにより右折進入可能。	敷地北部の出入口から。 国道7号に右折車線を設ける場合に交差点位置が限定される。 日沿道を利用する大型車はCASE-1, CASE-2よりも約180m長く迂回してICに戻らなければならない。
施設・建物の視認性	日沿道下り線 (新清→山形)から見て	県境のトンネルを抜けた直後、進行方向から遠く目を見ることが多く、視界の中に建物が入ってくる。	県境のトンネルを抜けた直後は、建物はイオンタウンの背後に位置する。建物をはつきり視認できる地点まで進むと、進行方向から大きく左に目を向けなければならない。	CASE-2と同様であるが、進行方向から目をそらす角度は小さく、CASE-2より視認性は良い。
	日沿道上り線 (新清←山形)から見て	トンネルを抜けた直後は建物が最も大きく近くに見えるが、駐車場の建物の陰になっているため、暫く進んで駐車場が見え始めないと体感施設であることを認識しにくい可能性がある。	トンネルを抜けた直後から手前に駐車場、奥に建物が見えるが、建物が最も遠いので、視認性はやや低い。	トンネルを抜けた直後から手前に駐車場、敷地中央に建物が見える。CASE-2より視認性は比較的良好。
建物正面の向き		南向きのため一日中当たりが良い。	北東向きのため朝を除いて日陰になる。 ・冬季の西風は防ぎやすい。	南東向きのため東面は午後日陰になる。 ・冬季の西風は防ぎやすい。
駐車場内の車面動線・歩行者動線		・大型車の動線と歩行者動線が交わるのは国道との出入口2箇所を繋ぐメイン車路のみである。 ・建物に近い北側ブロックに小型車専用の45%があるので、南側ブロックに駐車する機会は混雑時のみとなる。	・北側ブロックの大型車の動線が長く、小型車や歩行者と混雑するため、安全性にやや問題がある。 ・建物に近い南側ブロックにある小型車専用が27%と少ないため、国道との出入口2箇所を繋ぐメイン車路を歩行者が頻りに横断しなければならない。	・各駐車スペースから建物までの距離に大きな差が無い。 ・大型車の動線と小型車を利用する歩行者の動線が交わらないため、安全性が高い。
建物と屋外施設との位置関係		建物と多目的広場や親水エリア（水辺公園）が隣接しており相互利用がしやすい。	建物と多目的広場や親水エリア（水辺公園）が隣接しており相互利用がしやすい。	建物と多目的広場や親水エリア（水辺公園）が隣接しており相互利用がしやすい。
総合評価		建物の視認性、日当たりの良さ、敷地全体の使い勝手の良さなど、多くの点で優れている。	建物の視認性、日当たり、駐車場の安全性、敷地全体の使い勝手などが劣っている。	駐車場内利用動線の安全性と利便性に優れるが、建物の視認性や敷地全体の使い勝手などでCASE-1に劣る。

※◎:優れる ○:普通 △:劣る

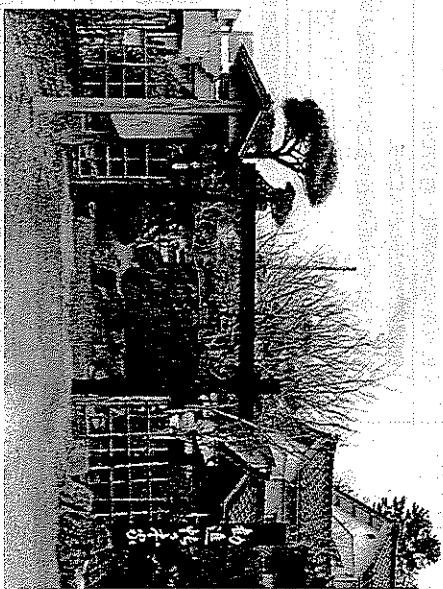
※検討の結果、CASE-1が優れると考えられますが、今後、基本設計段階で決定するものとします。

## 9. 建築・庭匠

### 1 建築・庭匠の方針

各施設の配置は以下の方針に基づいて検討します。

- ・ 日治道本線及び国道7号を走行する車両から視認しやすいこと
- ・ 柔軟性、融通性のある店舗ユニットとすること
- ・ 光熱水費等の維持管理コストを低減すること
- ・ 親しみやすさ、懐かしさを感じさせる内装とすること
- ・ 軒先を長くする（イベント等での活用）
- ・ 閑所としてのイメージの子サイン化を図ること
- ・ 県産木材（温海杉）の使用に努め、建築物の木質化を図ること



近世念珠園址

## 10. 道の駅の整備手法

### 1 道の駅としての整備

「道の駅」は主に市町村が設置し、国土交通省が登録する道路休憩施設であり、平成29年4月現在、全国で1117駅が登録されています。

元々、ドライバーが立ち寄るトイレ・休憩施設として生まれた「道の駅」は、それ自体が目的地となり、まちなの特産物や観光資源を活かしてひとを呼び、地域にしごとを生み出す核へと独自の進化を遂げており、地域の創意工夫で「道の駅」を地域活性化の拠点とする取り組みが進展しています。

本施設についても、「道の駅」として整備を行います。

#### ◆「道の駅」の目的・機能・コンセプト（出典：国土交通省HP）

##### ○目的

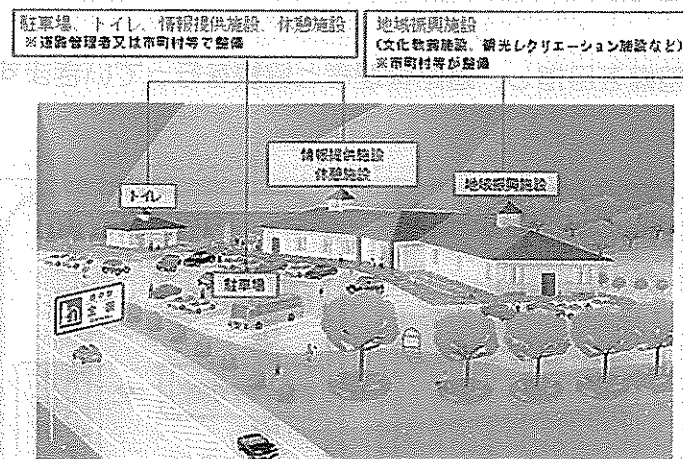
- ・道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- ・地域の振興に寄与

##### ○機能

- 休憩機能：24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ
- 情報発信機能：道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供
- 地域連携機能：文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

##### ○基本コンセプト

- 地域とともに作る個性豊かなにぎわいの場



道の駅の施設配置（出典：国土交通省HP）

### 2 道の駅のメリット

道の駅として整備する場合のメリットは、次のとおりです。

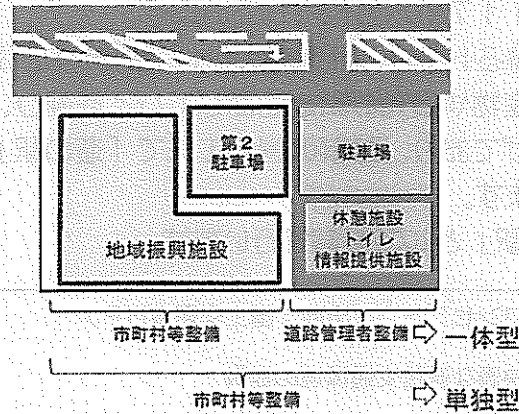
- ・全国的な「道の駅」のネットワークの中でPRできる
- ・高速道路本線及び一般道に道の駅の案内標識を設置できる
- ・道路管理者の支援が受けられる

（一体型の場合、トイレ、情報提供施設、駐車場の一部を道路管理者が整備）



### 3 道の駅の整備手法

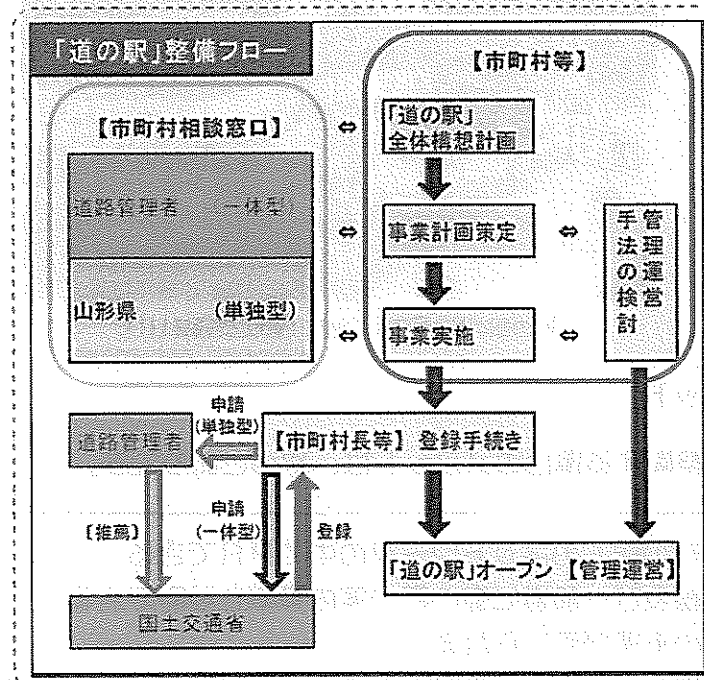
道の駅の整備手法としては、道路管理者と設置者である市町村等が分担して整備する「一体型」と、設置者である市町村等で全てを整備する「単独型」との2種類があり、それぞれの整備主体と整備対象施設との関係は下図で示されています。



道の駅の整備主体と整備内容（出典：国土交通省HP）

本施設を「道の駅」の「一体型」と「単独型」のどちらの手法で整備するかについては、費用負担等を考慮すると道路管理者から支援を受けられる「一体型」が望ましいものと考えられます。

「一体型」での整備を目指し、道路管理者と協議を行っていきます。



（出典：やまがた道の駅ビジョン 2020）

## 11. 概算整備費

### 1 概算整備費

施設の造成及び建築工事等に関わる概算整備費を示します。

	種別	単位	数量	単価	金額 (百万円)	備考
造成工事	敷地盛土	m <sup>3</sup>	41,160	0 千円/m <sup>3</sup>	0	※1
	駐車場	m <sup>2</sup>	13,000	20 千円/m <sup>2</sup>	260	
	広場	m <sup>2</sup>	1,000	25 千円/m <sup>2</sup>	25	
	緑地	m <sup>2</sup>	5,400	2 千円/m <sup>2</sup>	12	
	アクセス道路	m	35	220 千円/m	8	
	屋外照明設備	基	12	600 千円/基	7	
	EV充電設備	式	1	5,000 千円/式	5	
	外柵	m	350	26 千円/m	9	
インフラ工事	上水	m	110	25 千円/m	3	
	下水	m	110	24 千円/m	3	
	電力・通信線	m	500	33 千円/m	17	
	用水路付替え	m	300	46 千円/m	14	
土木工事費計					362	
建築工事費		m <sup>2</sup>	1,500	400 千円/m <sup>2</sup>	600	※2
用地費及び補償費		m <sup>2</sup> 棟	20,580 8		140	
概算整備費計					1,101	

概算整備費  
米沢 22億円

上記は現時点で把握している必須部分の施設造成に関する概算費用であり、**今後、調査検討を要する部分の整備費用等や測量設計・検討費用等は対象外としているため、全体事業費とは異なります。**全体事業費は今後、基本設計の段階で算出します。

- ※1 敷地盛土は、その他公共事業等で発生する土砂を流用して、盛土造成することが可能と想定し、費用無しとしています。
- ※2 建築物に関わる概算工事費は、近隣の道の駅の事例を参考にして、建築本体工事費と機械・電気設備工事費を合わせて約6.0億円と想定しています。
- ※3 下記の費用は現時点で不確定のため、対象外としています。  
(防災支援設備、水辺公園整備費、支障物件等の撤去・移転費用など)
- ※4 本事業にかかる測量設計費、用地調査費用、各種検討費用は対象外としています。

## 2 活用を見込む補助制度

施設整備にあたっては、導入施設の内容等を踏まえ、各種補助制度を積極的に活用することを前提として、整備内容を検討していくこととします。

活用を見込む補助制度の例

項目	事業名	主管省庁	助成率
飲食、物産販売、フードコートなど	農山漁村活性化プロジェクト交付金	農林水産省	1/2
E V急速充電器	次世代自動車充電インフラ整備補助金	経済産業省	定額等
防災設備	社会資本整備総合交付金	国土交通省	55/100
観光案内所	やまがた道の駅緊急整備支援事業費補助金	山形県	1/2

## 12. 事業スケジュール

### <道の駅オープン時期>

平成35年度頃<sup>(※)</sup>：あつみ温泉IC～鼠ヶ関ICの開通想定時期

#### 1 オープン想定時期

本「道の駅」は、日浴道ツールとして活用することを検討の出発点としていることから、「道の駅」のオープン時期は、少なくとも日浴道（朝日温海道路）のあつみ温泉IC～鼠ヶ関IC（仮称）の開通に合わせる必要があると考えます。

道路事業者（国）から開通時期はまだ示されておりませんが、高速道路の供用開始までの一般的な目安は、事業化から10年程度と言われていることから、あつみ温泉IC～鼠ヶ関IC（仮称）の供用開始時期は平成35年度（2023年度）頃になることを想定し、同時期に「道の駅」をオープンすることを目指します。

#### 2 スケジュール

本基本計画をもとに今後の事業化に向けた概略スケジュールを下表に示します。

休憩施設オープンまでの概略スケジュール

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度頃
基本計画策定	■							道の駅 オープン
測量		■						
造成基本・実施設計			■					
用地取得			■					
造成工事				■				
建築物整備					■	■	■	
管理運営				■	■	■	■	

本事業スケジュールはあくまで現段階におけるイメージです。日浴道事業の進捗状況を踏まえつつ、関係者・関係団体と調整しながら進めていきます。

※平成35年度（2023年度）は朝日温海道路事業化から概ね10年を想定した数字。



## 13. 今後の取組み

### 1 今後の課題

- ① 日沿道下り線ランプからの専用通路の制度的・技術的可能性の検討
  - ・高速道路利用者がより利用しやすい「道の駅」にするために、下り線ランプからの専用通路について、制度的・技術的可能性を関係機関と意見交換をしながら、先進事例の状況も見つつ、その実現に向けて今後も検討していきます。
- ② 道路管理者との「一体型」による道の駅の整備と登録申請
  - ・一体型での「道の駅」の整備を目指し、道路管理者と相談しながら、登録申請に向けた協議を行います。
- ③ 道の駅「あつみ」との機能のすみわけ、連携のあり方
  - ・道の駅「あつみ」の設置者として、日沿道全線開通後の交通量の変化の見通しを踏まえた道の駅「あつみ」の今後のあり方について、運営者と協議・検討を行います。
  - ・上記の協議・検討と並行して、具体的な道の駅「あつみ」との機能のすみわけや連携のあり方について検討を行います。
- ④ 村上市との連携
  - ・村上市の自治体関係者や関係団体等と意見交換をしながら、本道の駅への店舗出店や地域・観光情報の発信等、具体的な連携内容について調査・検討を行います。

### 2 今後の要検討事項

- ① 日本海沿岸東北自動車道の事業とのスケジュール調整
  - ・本道の駅の事業地の造成にあたっては、日沿道事業との効率的かつスムーズな事業連携が行われるよう道路事業者と調整を行います。
- ② 管理運営計画の検討
  - ・本道の駅の地域振興施設は、多くの店舗が出店し、他に例のない「EAT & BUY」の物販・飲食方式を計画していることから、その実現に向けて、業種や店舗数、運営体制、EAT & BUYの展開方法、商品開発や担い手の発掘・育成などの具体的な事業計画を定める必要があります。
  - ・道の駅の企画運営に豊富な知識と経験を有する専門家や素材の生産者団体、地元との意見交換を行いながら、検討組織の設立も視野に入れ、地域振興施設の管理運営についての事業計画の策定に向け検討を行います。



## 14. 策定経緯

### 1 策定検討委員会 委員名簿

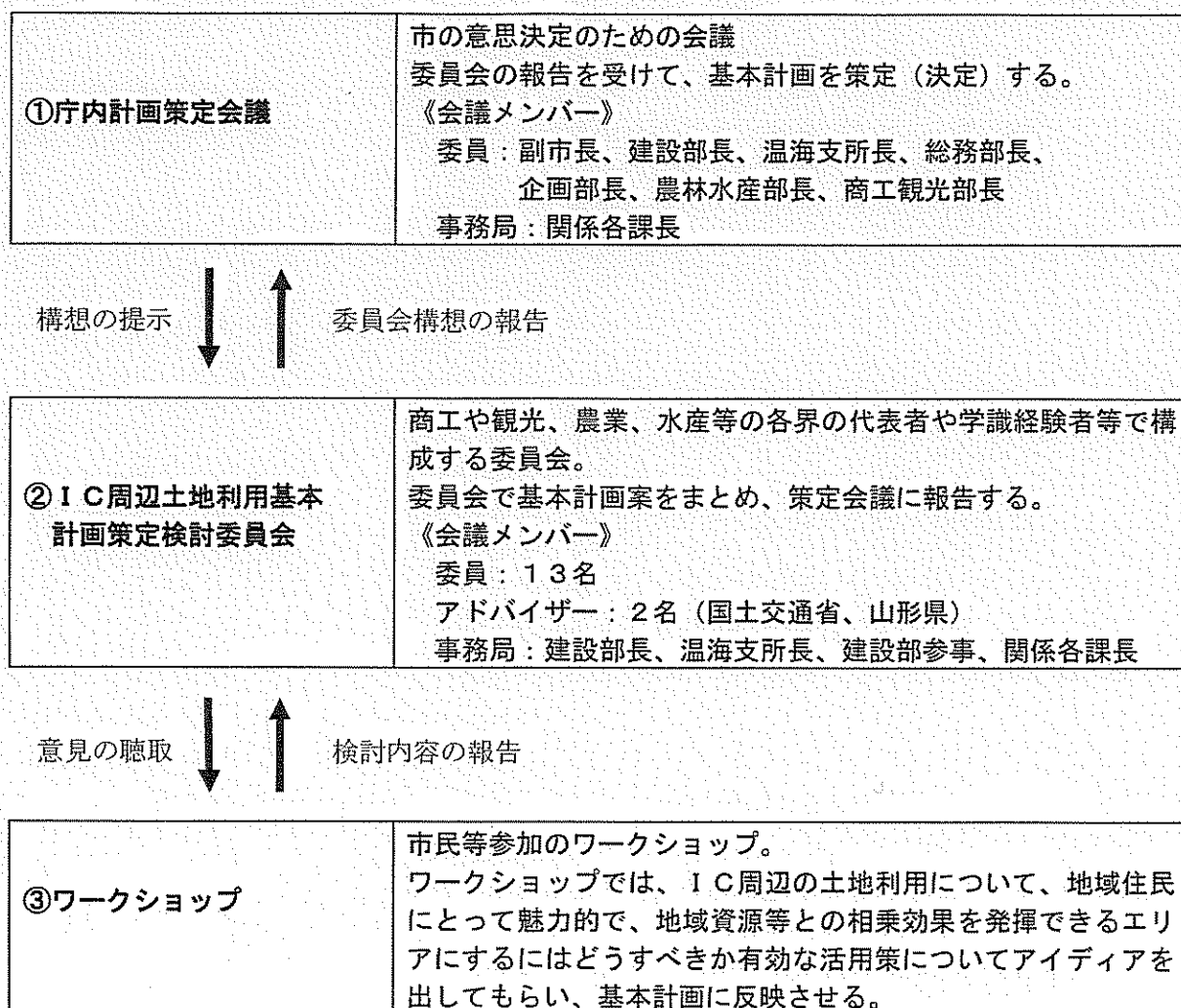
※敬称略

	団体・組織等	役 職	氏 名	備 考
1	温海温泉魅力づくり推進委員会	会 長	遠田 茂昌 斎藤 徹	第1回、第2回 第3回
2	鼠ヶ関地域協議会「蓬莱塾」	幹事長 (第1,2回：副会長)	佐藤 丈典	
3	出羽商工会	南部センター長	伊藤 彦市	委員長
4	温海温泉旅館組合	理事長	佐藤 佐次右衛門	
5	鼠ヶ関水産加工組合	組合長	飯塚 厚司	
6	「んめちや市」	代 表	五十嵐 正信	
7	温海町森林組合	参事兼管理課長 (第1,2回：管理課長)	鈴木 伸之助	
8	温海地域婦人会	会 長	佐藤 美代子	
9	㈱クアポリス温海	道の駅「あつみ」しゃりん支配人	佐藤 直司	
10	鶴岡商工会議所	専務理事	加藤 淳一	
11	庄内交通株式会社	取締役 (第1,2回：執行役員 乗合バス事業部長)	高橋 広司	
12	㈱JTB東北 庄内支店	支店長	武田 研二	第1回、第2回
13	秋田工業高等専門学校	名誉教授	折田 仁典	副委員長

### アドバイザー

14	国土交通省東北地方整備局 酒田河川国道事務所	調査第二課長	石井 宏幸	第1回
		副所長	今野 悟	第2回
		副所長	藤原 久	第3回
15	山形県庄内総合支庁	建設部道路計画課長	佐々木 泰次	第1回、第2回
			相沢 一彦	第3回

## 2. 基本計画策定までの検討体制



## 3. その他（地域振興施設計画アドバイザー）

地域振興施設計画の検討にあたっては、以下アドバイザーからの助言内容をもとに事務局案を作成し、基本計画に反映した。

国土交通省選定 全国モデル駅「道の駅 萩しーまーと」  
駅長：中澤さかな 氏



<p>（東山）の成立と展開</p> <p>（東山）の成立と展開</p>	<p>（東山）の成立と展開</p>
-------------------------------------	-------------------

<p>（東山）の成立と展開</p> <p>（東山）の成立と展開</p> <p>（東山）の成立と展開</p>	<p>（東山）の成立と展開</p>
---	-------------------

資料の整理

資料の整理

<p>（東山）の成立と展開</p> <p>（東山）の成立と展開</p>	<p>（東山）の成立と展開</p>
-------------------------------------	-------------------

（東山）の成立と展開

（東山）の成立と展開

（東山）の成立と展開

（東山）の成立と展開

タイトル 日沿道新潟県境区間IC周辺土地利用基本計画

発効日 平成29年5月

発行 鶴岡市

編集 建設部 都市計画課

住所 〒997-8601

鶴岡市馬場町9番25号

TEL 0235-25-2111 (代表)

